

南以太利  
シシリイ

サルヂニ

地味

地質

含み、西には軍港スベチオ及び小ながら極めて舊蹟に富み、且勝景多きピサを有し、而して其南方に於いて羅馬を有する。さて南部以太利の大都會は即ちナポリにして、更に海を隔て、シシリイ島に對する所にはレッジオあり、シシリイ島は殆ど以太利の三部の各に相對すべき一大島嶼で、約我日本の九州に當り、メッジナ、パレルモ、カタニア等、人口三十萬乃至十萬の大都會を有すること三つに及ぶ。此外、中部及び南部より西の方海を隔て、サルヂニア島あり、是も其大さは殆ど我四國に當るが、土地餘り肥沃ならず、随つて其社會上の勢力も亦我四國に較ぶべくはない。地味は全體頗る肥沃である、然るに中部より殊に南部に至ると、何となく國が古く、寂びたるの觀がある、蓋し小作制度の缺陷より土地改良の行はれざるも、深き根柢を有する此國の弊害の一つである。然るに北方は、灌漑の便も極めて好く、人智も南方に比して大に進んで居る所から、農業は極めて能く進んで居る。地質上此國の一の缺點は、石炭の頗る缺乏せる點である、之に反して、北方に大理石の多いことは、其富の上よりも、寧ろ文化の上に重大なる影響を來たし、ピサの如きは、市街の敷石が殆ど皆大理石で、随つて寺院の如きは、純粹なる大理石を以て築造せるも

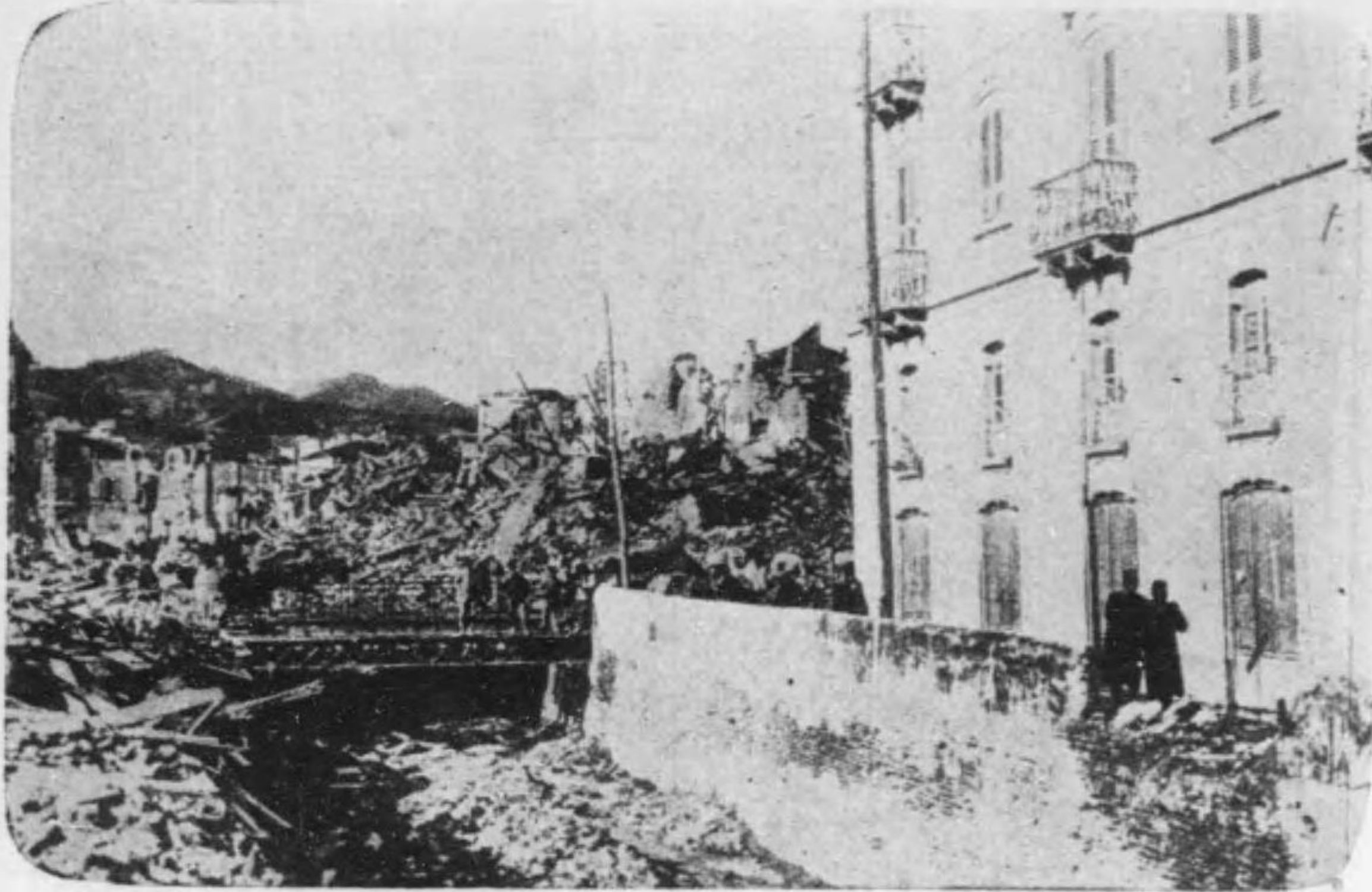
氣候

の比々として皆是れて、有名なるドッオオモ大寺觀、鐘樓斜塔、サンミケロ寺院等は、其最も有名なるもの、ミラノの大寺觀、是れ亦其廣大なる建築が、屋根の末々に至るまで、悉く極めて精美なる白色の大理石一色から建築されてある、斯の如きは地質と文化との關係に於いて、頗る注目するの値がある。然るに南方は、噴火山が頻々としてあり、就中其雄者は有名なるヴェスヴィアスで、これは今日と雖も尚焔々たる活火を揚げて地中海上に雄視しつゝある。其噴出せるラッパに埋もれたるが昔しのボンベイ及びヘラクラネウムで、是等は其珍らしき作用から、千八百年前の建築壁畫等が、一種の保存作用を爲されたものである。近來其發掘事業が益々進み、千九百一年に我輩の之を訪ひしときは、僅に全市街の三分一を發掘せるのみであつたのが、今日は尙更に大に進んで居る。ボンベイに關する説話の如きは、今日我邦人にも餘りに手近なる事共であるから、茲に之を絮説するの必要を認めぬ。

以太利は北緯四十度より南方に突出せる半島で、東西南の三面悉く海に面して居る所であるから、其氣候の溫和なるは固より言ふを要せぬ。而して北は歐羅巴の脊髓と謂ふべきアルプスに依て北風を遮り、氣候に於いては實に理想的である。



南 以 太 利



メッシナ震災實景



ナポリの景色

人種

唯、南方は稍、温かなるに過ぎる。斯かる氣候は直に又幾分の關係を犯罪現象に有する次第で、動もすれば世界の無政府黨員は、以太利が之を産出するとまで言はるゝのは、一應の注意を要する。

世界列國の大勢

四六

二 人

併しながら犯罪の如きは、氣候を以て重なる原因とすべきではなく、寧ろ犯罪の副縁として、氣候は關係を及ぼすものと見ねばならぬ。其主因は實に人に在る。

以太利の人種は、一般に羅、匈人種として、頗る純粹なるに近きものである。唯、南方には幾分サラセン、即ち亞刺比亞人の血液を混じて居る。亞刺比亞人はシシリイ島に最も多く住し、サルデニア島は之に亞ぐ。此事は、以太利の人を取扱ふに於いて注意せねばならぬ。一つであるが、今一つは、以太利は、中世以來外國の侵入の最も頻々なりし所、羅馬が古代の終り中世の初に於いて、事實上歐洲世界の首府であり、中世を通じて近世に至るまでも、少くとも其宗教、上時としては、往々政治上の



中樞地であつた爲に、支那に於いて天下事あれば、洛陽必ず先づ兵火を被ると云ふと同様の關係で、外國民族の浸入が實に極めて屢々行はれた、それにも拘らず以太利に住する人種に影響の甚だ少かつたことは、實に記憶せねばならぬ所の第二點である。

併しながら以太利の各地方に應じて其民心、人氣の差違は、更に大なる注目を以て見られねばならぬ所て、之を理解するに非ざれば、以太利の千數百年間を通じての不統一の謂れは分らず、此不統一の謂れが分らなければ、近世以太利一統の事業の意味が分らぬ次第である。

以太利の北方は一般に政治的であり、一般に富み、一般に教育が進み、一般に商業が發展して居る。之に對して南は概して非政治的であり、富と商業とは概して發展せず、人民は概して不學である。今徴兵に就いて目に、一丁字無き者の統計を見ると、北方ビイドモントに於いては、百人中の十五人、ロンバルヂイに於いては十八人、而して南方ナポリに於いては、實に五十一人を示して居る。然るに人口十萬に就いて殺人の統計を見ると、ロンバルヂイに於いては三人、ヴェネチアに於いては三



人なるに對し、ナポリに於いては實に二十五人、シシリイに於いては實に二十八人と云ふ大なる數を示して居る。斯の如く、以太利の南北は、社會上幾多の點に於いて甚だしき不整合があるから、其人民相互の間に不和合のあるのは、亦免れざる數である。

南方の社會狀態

實に以太利の南部地方は、頗る厄介なる社會狀態を存して居る。其一つは、強盜の頻々として行はるゝこと、其二つは、マフィア、其三つは、カモラである。數百年來天下の直を司るべき司法制度、裁判の實際弛み且腐敗せる所から、人民の自治自衛の爲に一種の結社が起つた。是は、丁度支那に於いて見ると同様なる社會狀態で、此結社、此組合の中で萬事を裁斷し、以て組合員間の秩序を維持せむとする、或る意味に於いては必要上自存し發達せる一種の制度である、これが即ちマフィアである。然るにマフィアは、常に此、必要の本來の目的を達するに満足せずして、其權力を恃んで、遂に富豪地主若くは大なる酒造家等に用金を課するに至り、若しも課せられたる用金を提供せずんば、之を脅すに族滅を以てし、其代りに用金を課せられて輒すく應ずる者には、充分の手厚き保護を與へる。今日に於いては、文明國家の體面と

マフィア

カモラ

して、言ふまでもなく、以太利の津々浦々、到る處に、法治制度上の裁判廷はあるが、事實上、裁判廷も亦マフィアに控制せらるゝ。自治機關も亦マフィアに占領せられ、選舉の如きは勿論マフィアに支配せらるゝ。斯の如く強大なる勢力を有する結社であるので、此結社に屬する者の、殺人罪を犯すことも、極めて多數に上つて居る。カモラはマフィアほど汎くは行はれず、唯、ナポリに限つて存在する。是は、盜賊、其他の犯罪者の團體にして、各種の營業者に用金を課し、私業若くは公業に立入り喰入りて惡錢を吸取る所の、何等同情に値すべからざる一種の秘密結社である。斯の如き強盜以下三種の社會病態は、實に南方、以太利の一大特色と云はねばならぬ。

試に人國記流の筆法を學んで、以太利の各地方の人氣を聊か記述するならば、ピイド、モント人は概して貴族的で、澄ましやで、客好きで、然も剛毅にして、且勤勉なる人々である。ロンバルド人は機敏なる事務家で、併し性質は頗る躁急で、饒舌で、且活潑である。ヴェネチア人は懶惰にして業務に勵まず、併し美術的思想及び手藝は頗る發達して居るが、人間は餘り正直でない。トスカン人は精勤ではあるが、思想上には懷疑的で、人に對しては叮嚀態度は緩慢、一體の傾向は保守的で、家庭の裡

以太利人  
國記  
ピイドモ  
ント人  
ドムバル  
ド人  
ヴェネチ  
ア人  
トスカン  
人



羅馬人

・ナポリ人

に慈愛を以て人生の慰安を求め、且質素儉約を旨として生活する。羅馬人は頗る澄ましやて、然も其態度は鷹揚莊重で、而して仕事は甚だ嫌ひ、時として暴力を以て人に對することを敢てする。ナポリ人となると、洵に華美好きで、性質は甚だ慧敏で融通が利く、南方に於いてヴェネチア人と相應すべき美術的長所を有する、しかし迷信が強く、而して自重の心が無い、品行も亦立派でなく、兎角喧嘩好きで、随つて健訟の風があり、平生身を處するに大分虚飾があり、性質は残忍である、とはいへ大事の時には、獻身的の勇氣を發揮するに於いて頗る花々しきものがある。メッシーナ海峡を越えてシシリイに入ると、人間がむつとして言葉少なで、一體に莊重なる人格を有する者が多く、態度が鷹揚であるが、併し匪眈の怨も必ず報ゆると云ふ中に、一般に節制に乏しく、時として往々野蠻なる遺風が存して居る。以太利は斯の如く種々なる人氣の民から成立つて居ることであるから、統一は中々容易でない。

斯かる記述から容易に想像せられ得る如く、以太利では、地方主義若くは町村主義とも謂ふべき事が一般である。就中最も甚しきはトスカニイである、其實例として世の諺に上つて居るのは、シエナとフィレンツェとである、フィレンツェは稍新しく、

人シシリイ

地方主義  
又町村主義

各地方の  
競り合ひ

地方訛り

富み且繁昌して居る大なる都會である、シエナは古くて小さく餘り繁昌せぬ。此兩市の軋轢は實に猛烈なるもので、シエナの目にはフィレンツェの外に外敵が無いものゝ如く、フィレンツェ人も亦到底シエナを考より脱する能はざるの姿で、各其市の自慢を爲して居る次第である、一々町是又は市是を決定するに、シエナはフィレンツェを目標とし、フィレンツェはシエナを目標とするといふ状態である。斯の如きが所謂地方主義、所謂町村主義の實例である。されば以太利では、各地方で、大に競争し、大に競り合ひを爲す。南中北の三地方に就いて見れば、中央以太利に最も其弊が甚しい。北方以太利では近代的文明生活が比較的夙く開け、交通も大に進み、商工業も中央若くは南方以太利に比しては遙に發達して居る所から、斯かる地方主義、町村主義は大に衰へて居る。

地方訛りは容易に想像せられ得る如く、以太利に於いて何處にも甚だしい、殆ど以太利の各地方、各市町村は、皆固有の訛りを有すると云つて宜しい。されば中流社會及び貴族すら、皆ところ訛りを話して平氣である、是れ亦皆右の如き此國の分裂生活の餘弊で、而して統一以來、茲に五十年國語整理の大事業に向つて、以太利は



世界列國の大勢  
未だ之に手を著くるに及ばぬ。

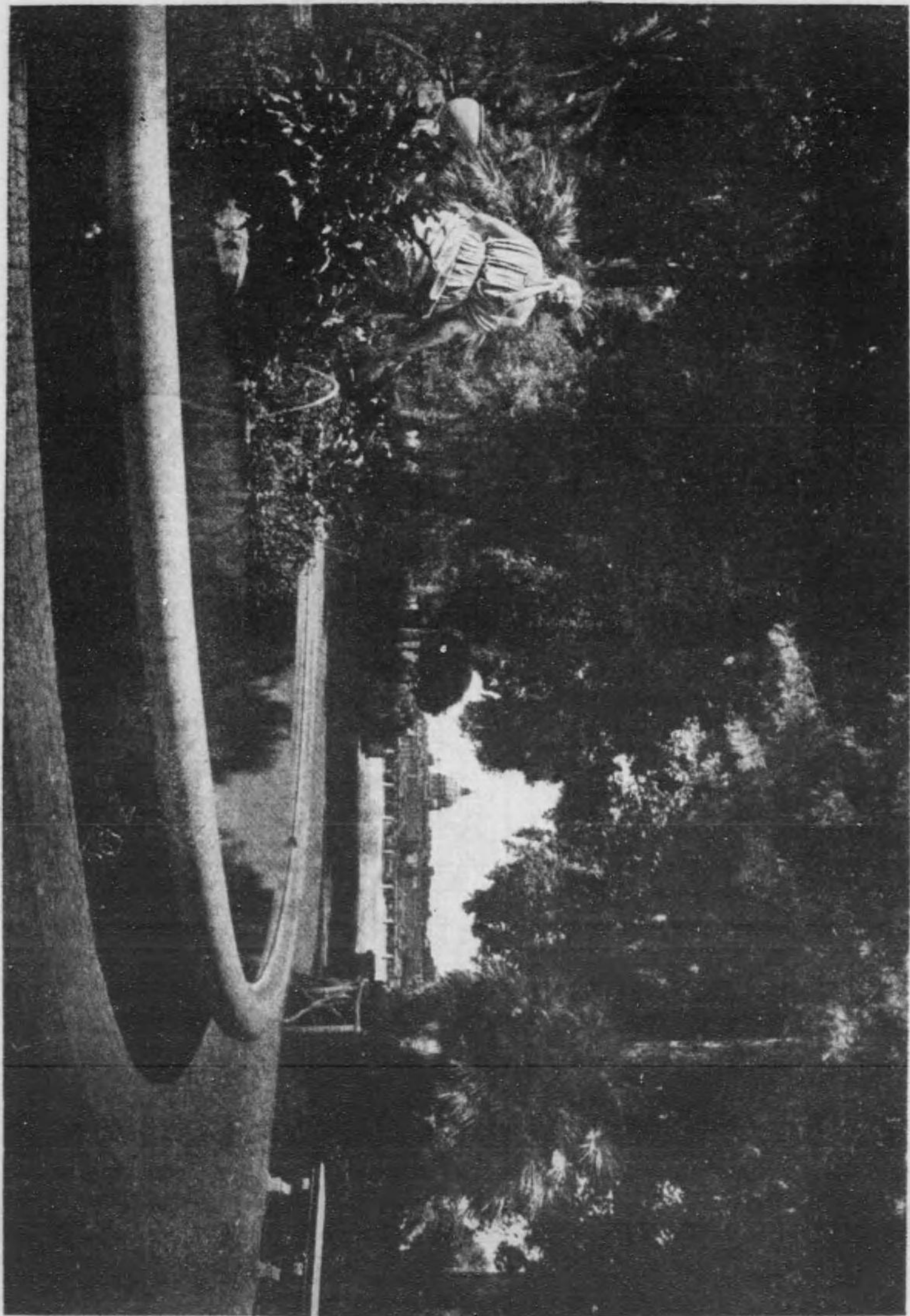
併し行政上の材幹は地方に依て中々發達して居る殊に奧太利領であつた地方では最も好き發達を爲し、ロンバルヂイの如きは極めて正則にして、かつ嚴肅なる行政上の訓練を経たる民族の地方である。併しながら南方佛國のブルボン王朝若くは西班牙の支配を被つた地方では、此點に於いても甚だ亂雜で、格別言ふに足るものが無い。

第一 因統一的要  
斯の如き分裂的生活を爲すべき素因の大に備はつて居る以太利が如何にして統一を致すに至つたかと云ふに、是には自然殊に人為の要因が若干備はつたがためと云はねばならぬ。第一に分裂よりして外國の凌轢を被ること年久しく、其弊に堪へざる其屈辱に堪へざる所から、以太利の全國民は、其如何なる訛りを話すに拘らず、其如何なる町村主義を有するに拘らず、將た又其如何なる地方的任務を有するに拘らず、いづれも皆統一の必要を熱烈に意識するに至つた。第二に以太利の政黨は幸にも決して地方的に分裂對峙したことが無い、以太利の内閣組織は實に其全國より人材を採ることとなつて居る、以太利には未だ會て薩長内閣などの

現れたことは無い、未だ會て政黨にも、土佐立志社、北信八州會、九州改進黨、中國進歩黨などの現れたことは無いのである。第三に統一の希望はやがて市や町の名に現れて居る、凡そピアツァ、ヴィトリオ、エヌマヌエレ、コルソ、ガリバルヂイ、ヴィア、カヴッル、ヴィア、アレ、レ、ウレ、ベルトは、何れの市にも何れの町にもある。第四に徴兵の普及及び畫一せること。第五に鐵道、電信及び商業に依る交通及び協同生活の發達。斯の如きは孰れも以太利を驅りて統一に赴かしめ、而して既に統一せる、以太利をして倍基礎を鞏からしむる所以となつて居る。

併し以太利に於ける地方の對立は、是れ亦決して百害有つて一利無きものと云ふべきではない。第一に各地方は、是に依て切瑣、砥礪を爲す、而して其發達は、各地をして特色を發揮し、著しき發達を遂げしむる。第二に以太利に於いては、佛國の如く中央集權が無い、以太利の各地方は、それごとく皆一つ一つの中心である。之が各地方の發達に利益あるのみならず、以太利全體として、秩序を保ち、つゝ進歩を遂げるに、甚だ都合好き仕組となつて居る。第三に羅甸民族は、全體革命好きであるが、其弊害が此以太利には起り來らず、革命より生ずる危險が殆ど此國には無いと





世界列國の大勢  
 いふのは、亦是れ中央集權の弊に陥らずして、各地方分權の事實に行はるゝの賜と云はねばならぬ。

### 三 經濟

利貧國以太

入國富及收

俸給

食物

以太利の經濟を一言で言ふならば、貧國、以太利と云ふの外は無。以太利は一般に貧國である、如何にも行政は餘り適當を得て居らなかつたにせよ、以太利は本來貧國である。今より二十年前に就いて見れば、以太利の國富は二百十六億圓、收入二十三億七千萬圓、一人當て七十一圓に過ぎぬ、之を當時英國の三百十圓、佛蘭西の二百六十圓、索遜の二百六圓、普魯西の百七十二圓に較べては、同じ歐羅巴ながら實に著しき少額と云はねばならぬ。四千圓以上の年俸を受くる官吏は文武百官總體で僅に百一人、大佐の俸給年俸二千八百圓、大尉の年俸千二百八十圓、小學教師は男五百三十圓、女四百二十圓を極點として居る、以太利が如何に貧困なりしかは、斯かる二三の數字でも明瞭であらう。以太利の食物は、小麥が業に



以太和國。羅馬府。

ピンチオ公園。

遙に見ゆるはサンビエトロ大寺觀。

「四月六日朝九時起き出て、十時より觀覽を始む、南國の春光已に十二分、昨南名残なく露れて、天氣此日亦快晴無比、常磐樹は言ふも更なり、多くの木々は既に淡緑の嫩葉を催し、然らざるも亦管の膨らめるもの比々皆然り。日下風暖にして外套を著するに堪へず、唯寺觀の内部の如き、清冷の氣人を襲ふを覺ゆ。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

小麥

鹽

酒

勤勉

既に大層の御馳走である、肉を食ふこと少くして、野菜及び果物を多食する。我國でも従來は、米の飯を喰うたから、もう死んでも残惜しいことは無いといふのが、農民生活の普通であつたが、以太利の小麥は、實にわが先年の農民に對する米である。随つて食量は甚だ尠い、兵士こそは一ヶ年六百十五斤を食ふが、普通人は小麥及び其他を混じて三百十斤、然るに英吉利では、小麥のみで四百斤乃至四百四十斤の食量である。之に加ふるに、財政の窮乏に對する窮策から鹽專賣が行はれ、海水を汲取つて使用することも、其一ヶ條として禁ぜられて居る。故に以太利の諺に、小兒が臺所で白い四角な物を盗んで食つて居る、必定角砂糖だらうと思つて調べて見ると鹽であるといふがある。所で以太利人の用ゐる酒量は、佛蘭西よりは少し寡く、西班牙よりは多い、葡萄酒の分量一人一ヶ年一石九斗乃至三石に當る。斯く食料の少い以太利人は、案外に勤勉である。自國の鐵道若くは道路の普請などに於いては、洵に割のよい工夫を供給するのみならず、本國の仕事だけで満足せずして、遠く南米に出稼をする、現在亞爾然丁に百萬、伯刺西に百萬在住する、而して其道徳的狀態の好良は豫想の外に在る。

以太利の春光



以太利の  
發達

世界列國の大勢

四六

斯の如く、以太利は實に貧國、以太利と稱すべき國柄であつたし、又現在も貧國であるが、併し其發達は洵に好望と云はねばならぬ。十九世紀の終りに至りて、富は一割七分を増し、租税は三割増し、國には少くも年々二千萬圓の富の増加がある、貯金は年々二千萬圓づゝ殖える。之に加ふるにロンバルヂイの水電事業が非常に發達して、ミラノ及びベルガモの二市及び十餘の株式會社が營む所の電力だけが、既に五十萬馬力を超えて居る。斯くて石炭は從來年々殆ど三億の輸入があつたのであるが、之が此水電事業の爲に殆ど驅逐されて了ひ、二十世紀になつての十年間に、財政整理が大に行はれ、國庫は年々三四千萬圓づゝの剩餘を有する。貨銀も亦千八百九十年までは大に騰り、爾來も少しづゝ騰つて居る。保護關稅は課して居るけれども、併し食物及び衣類は一般に低廉となつた。以太利の國費は大體公債利子に七億、軍事に七億、官吏に四億、教育殖産に三億、總計二十億リラ即ち八億圓に達して居る。

水電事業

財政整理

#### 四 宗 教

羅馬法王  
廷

何人も容易に想ひ當るが如く、以太利には古來よりの名殘の羅馬法王廷と云ふものがある、嘗に以太利のみならず、一時は歐洲全體の政治上の君主をも凌駕して其頭を抑へやうとし、又事實抑へたこともあつたのである。之に對し、東京の四分の一にも足らざる羅馬の都會で、以太利國王と羅馬法王とが角突合をして居る、其關係始末が如何に落着いてあらうか、是は實に容易ならざる問題である。

然るにカザウルが「一たび自由國家に於ける自由教會の格言を提唱してより、宗國分離自由主義は、此國の對宗教政策の骨髄となり、其結果保障法が成立するに至り、是に於いて羅馬法王は其閣僚を組織し及び僧正を任命するに於いて、全然自由の權を留保し、國は僧正任免を棄て、法王及び僧侶の行動に俗權即ちシヰルの承認を與ふる事となつた。但し寺院の財産に關しては此限にあらざり、且僧侶が教權を濫用せるとき、民事裁判廷に訴ふることは廢せられ、之を要するに宗教に自由を許

キリベラ、  
イエンサ、  
タベロン、  
スリ

以太利の春光

四七



して以て其代りに宗教を國家から全く離して了つた即ち宗教の俗權を剝奪し了つたのである。是は洵に巧妙なる政策で實に以太利の國家と宗教との關係は之に非ざれば其解決を告げる譯に行かず之に非ざれば以太利の國家の存立及び發達は常に宗教に依て累せらるゝを免れぬ關係に於いて在つたのである。

全體以太利人の宗教生活は凡そ四類に別るゝ。第一は純正僧侶派とても謂ふべきもので其目的は右の宗國分離自由主義に反對し宗教の俗權を回復することに在し之が爲にする手段は外國の侵入をも將た内國の崩壞をも厭ふ所ではないのである。是は純粹政治的の宗教派である併し其勢力は固よりさほど大なるものではない。第二は純粹信仰派て是は頗る數が多いが併し國民の過半には達せぬ全く信心一方の派で殊に之に屬する婦人は慈善事業等に大熱心である是は第一と正反對で純粹に宗教的の派である。第三は迷信派てミラクルのみを信じ道義の改良進歩の方面には何等没交渉である是は南方以太利に最も多い。第四は冷淡派とても謂ふべきもので國民の多數は即ち是である教育ある者は無論これである必ずしも無神論者ではないが宗教には何も關係せぬ連中て即ち談宗教に

以太利人の宗教生活の純正僧侶派

純粹信仰派

迷信派

冷淡派

學校に於ける宗教

寺詣り

と風俗

及ぶと肯定もせねば否定もせず是は何から來るかといふと以太利人の本來有する懷疑思想と宗教教會が動もすれば政治的傾向を帯び來り甚だしきは俗權回復運動を爲すが如き思はしき傾向がある所から宗教に關係するは士君子の體面を辱しむるものといふ自尊心から來るのである。

斯かる以太利の社會に於いて學校に於ける宗教は如何なる地位關係に在るかと見れば耶蘇教の教義だけは小學でも教ふる。併し中流以上の子弟は之に出席せず又之に出席せざるも妨ないこととなつて居る。中學大學には勿論宗教は一點も入つて居らぬ大學生にしてバイブルに普通なる事實を何も知らぬが甚だ多

寺院詣ては如何なる者に依て充たさるかといふと日本に於ける老男老女の如く以太利ては婦人のみである。面白いことは寺詣りの多少と風俗の良否とが反比例である。乃ち寺參りの多い所ほど風俗が悪い風俗の良い所ほど寺參りが少いと云ふ明白なる社會上の事實がある斯の如きは世の宗教を談ずる者の極めて注意を拂ふべき事であり而して世の宗教に従事する者の大に工夫を費すべき



所であらう。以太利の僧侶は、決して風俗矯正には力を效さぬ。飲酒反對運動に僧侶は決して加はらぬ。之に就いて伊太利の名士の説に、僧侶は論理的頭腦を厭ひ、迷信を勸奨し、纒に以て其殘喘を保つものである。今飲酒を禁ずれば人々の頭腦が論理的となり、迷信を容るべき餘地が乏しくなる。故に僧侶は飲酒反對運動には加はらぬとまで冷評を加へて居る政黨の領袖がある。是は社會黨の領袖、衆議院議員、羅馬大學教授、エンリコ・フェルリ氏の言である。

若しも若い男女が寺参りをするとすれば、互に偷み見の爲、戀人のいちやつきの爲である。僧侶の祈禱などは誰も眞面目に聴く者は無い。

それも其筈である。僧侶の出身が實に卑いもので、随つて僧侶の品格が洵に乏しいものであるのが、一つの大きな原因となつて居る。宗教が權威を失ふに先立ち、僧侶が先づ權威を失うて居る。實に以太利の僧侶には、大僧正若くは僧正に極めて稀に名門の出があるけれども、凡そ僧侶の大多數は、永吞百姓若くは職人の子である。僧侶の智識は、概して唯、讀み書きの初歩を知つて居るだけ、加特力の學林は、公立學校に比して遙に程度の低いものである。されば之に伴うて、道德の實際

及び道德思想の低下あるも異しむに足らぬ。斯かる次第であるから、普通僧侶の外に、説教者と云ふものがある。是は僧侶組合、オルダルに屬して居り、是等は時として大に歓迎せらるゝ。凡そ是等の點は、實に我國今日の佛敎界の話を聞くと同じである。住職に氣の利いた説教の出来る者が少く、御客僧若くは布敎使と云ふ者が巡つて歩いて、僅に説教が行はるゝ。昔は金枝玉葉の方々が、徳川政府の或る特殊の目的を有する政略から、概して宗教上の大僧正とも謂ふべき位置に立たせられたが、今では皆陸海軍の方に入らせられて、宗教界唯一の名門の種が無く、なつた。昔は上極めてやんごとなき階級より、下は百姓町人の子に至るまでが宗教界に在つたのが、今は其上の方が全く削られて下の方だけとなつた。僧侶の教育は極めて乏しく、勿論公立學校に比べて遙にとまでは行かずとも、幾分か低く、而も斯かる學校を経た者が宗教界の極めて小部分に當るのみで、其他は多く之にすら及ばざる者を以て充て、居る姿である。實に以太利の僧侶界と日本の僧侶界とを比べると、全く自國の事を聴くの感があるのである。

加之、以太利の僧侶は、其貧に於いても亦、其極に達して居る。如何にも僧正大僧



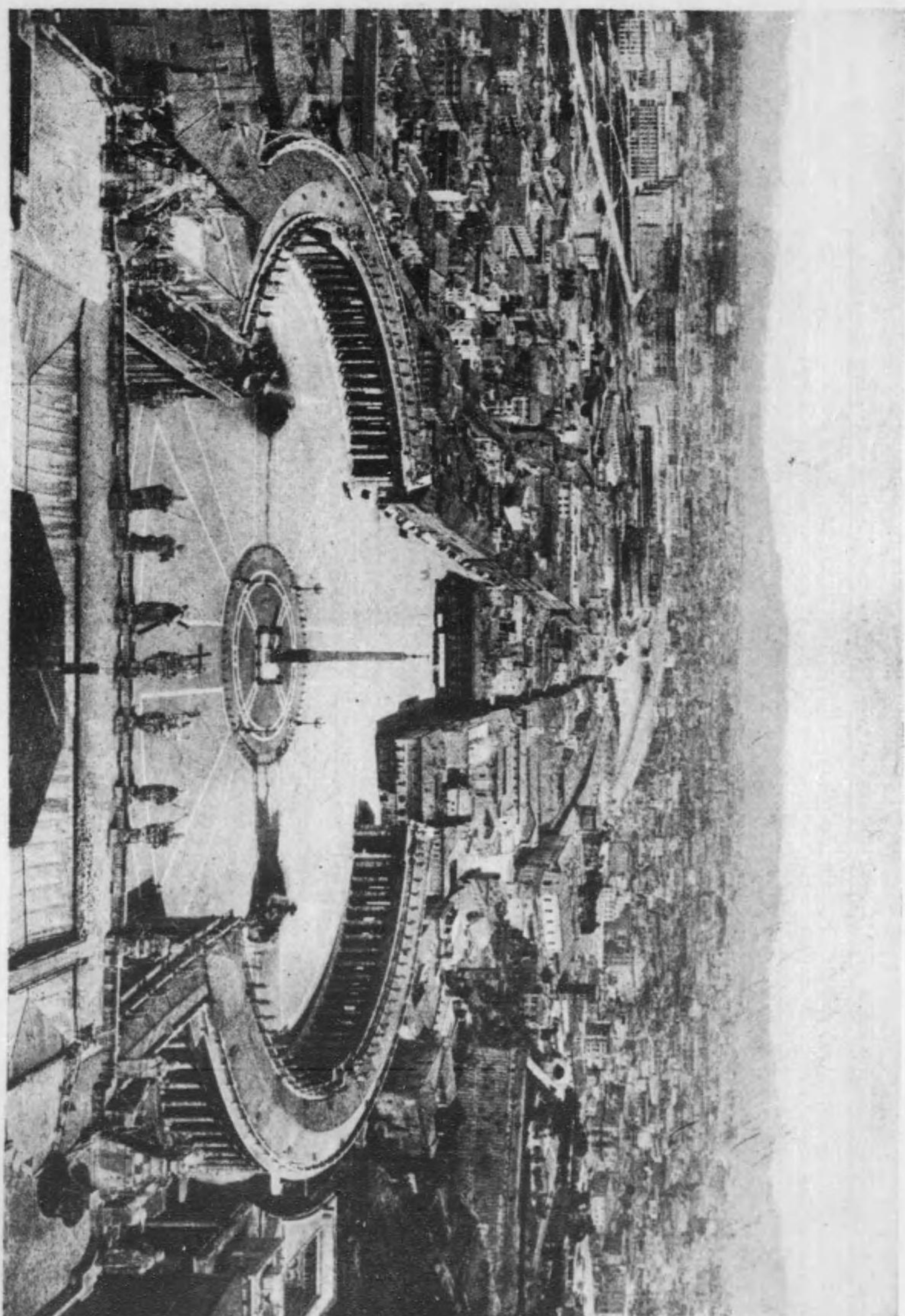
正は、一萬二千六百六十圓以下二千四百圓までの俸給を受けるがその要する所の費用は中々少いものでない。而して住職は最低三百六十圓まである。實に小學助教師くらゐの程度に止まる次第である。されば僧院は生存競争の出來ぬ無學文盲なる男女の避難所隠れ家であるとも謂ふべき事實に向つて下落しつゝあるのである。

下等社會の信仰

下等社會の信仰は、信仰の源泉機關たるべき勢力既に斯の如きものであるが故に、亦随つて極めて低きを免れぬ。殆ど信ずべからざる可笑い事の一例を擧ぐれば、日常の些末なる事毎に對して、マリア又は特定の使徒が加護を與へると云ふ信仰である。甚だしきは強盜にも特に強盜加護の菩薩があり、追劔にも特定の追劔菩薩があり、此菩薩の名を唱へれば、追劔に成功し、強盜に成功すると云ふ次第である。

新教

新教は、流石に頗る宗教界に面目を新にしつゝある。此國の新教はカルヴァン派で、大學等の社會には段々其領地を開拓しつゝあり。且一般に此國の宗教界に於いて慶ぶべきは、政府と宗教との衝突が近年益々稀になり、且偶まに衝突することが





以太利國。羅馬府。

サンビエトロ大寺觀の塔上より、

羅馬市街を望む。

あつても軽くなつた點に在る。

### 五 家庭及び婦人

家庭の特  
習

大家族

パ  
ラ  
ツ  
ツ

以太利の社會を理解せむが爲めには、その家庭の特別の慣習を顧みねばならぬ。以太利では、歐洲の他の國よりも、更に著しく、子弟が長く家庭に留まることを旨とする父兄が多い、乃ち我國の田舎に於いて往々見る所と近い點がある、それが爲に子弟に獨立の精神が發達せず、子弟は一足飛に老人になるといふ傾向が多い。併し斯かる状態の裏面として、家庭に於ける慈愛は實に強烈である、又其制度上の現れとして、大家族が甚だ多い。是等は家の構造にも現れ、又家庭趣味の發達にも現る、例へば以太利の貴族の生活は、之を最も明瞭に現すものであるが、到る處の大都會に、パラツツ<sup>オ</sup>即ち宮殿とも謂ふべき建築がある、是等は概して三階より成立し、一階では種々の事務を執り、若くは僕婢の住所、若くは臺所、若くは倉庫が出來て居り、二階以上には、中央に縦に極めて廣き廊下の如き大なるホール、廣間が出來て居り、



婦人の地位

其のホオルの兩側に局が出来て居つて、大家族の家族員が各、其一室を占領して居る。此中央のホオルが即ち或は舞踏室となり、或は座敷となり、又時に食堂ともなる所である。

随つて婦人の地位も全國にて種々ではあるが、多く婦人の財産に對しては法律が之を保障する。婦人は獨身で居る間は、一人で外出することをせぬ。南方にては回教の感化を受けたる所から、婦人に對する夫の態度も些か奇態で、夫が外出するときは、妻を締切つて出て行く。

婦人の大多數は殆ど無教育である。北方以太利にも、理想的の妻は寺と小兒との爲に生活する女と云ふ、我國ならば「賢母良妻」とも謂ふべき、一種の諺があるからである。

活動的婦人

併し罕に見る所の活動的婦人に至りては、これ亦比類罕なる伶俐なる立働きと活動振りとをする。其中の上流なる者は、政治、外交、信仰界に切つて廻し、天下の士に交る連中である。中流なる者は、小さな町若くは村で、小作人や番頭を鞭撻し追廻す連中である。是等は併し一般からすると少數で、以太利婦人の多數は概し

て保守的である。以太利の家庭生活は、歐羅巴の急進的思想から見れば、概して頗る保守的なるものと云はねばならぬ。

## 六 政界

政黨

二週日前に以太利の内閣が更迭した。新總理リニツァチ氏は舊保守黨で、前總理サンニイノ氏は新保守派である。此國では新保守派が却て僧侶に黨して、舊保守派は之に黨せぬ。蓋し建國當時僧侶派と政客とが全く分離したからである。

此國には二大政黨は無い、右黨には社會黨、自由派、及び急進派あり、左黨には新保守派、舊保守派がある。即ち小黨分立で、其間に政治の妙用が行はる。

僧侶

僧侶は殆ど常に政治に干與する。彼等自らが選舉權を行使するのみならず、選舉に關して下民を惑はし、候補者に投票する者は地獄に落つべしなど、愚にも付かぬことを言ふことは稀でない。北方以太利では寺詣てが少く、併し宗教が政治に誤用せらるゝの弊は却て北方以太利に多い。ベルガモ市の如きは、最も僧侶の組



新聞

織ある政治運動で有名である。

此國の新聞は佛國式の簡潔淨明である。最大なるもの一二を挙げれば、Corriere della Sera は二十一萬二、二萬、此二つはミラノにて發行する、羅馬では Tribuna 八萬 Giornale d'Italia 六七萬などが最大である、トリビナは前首相の所有である、以太利日報はジョレッチ氏の機關で、自由進歩の主義を標榜する。すべて記者には大學出身者太だ罕て、全然自由職業の名實を具へて居る。記者の團體としては互救組合があるのみ、新聞記者の品位改善團は未だ之あるに至らぬ。

社會黨は、近時頗る其面目を改めた。從來此國の社會黨は、歐洲各國に見るが如く、非國民主義であつたが、千九百八年社會黨の領袖エンリコ・フェルリ氏が二たび南米に遊び、その見聞殊に南米に於ける以太利人の活動に對して感得せる所から、以太利社會黨は必ず國民主義ならざるべからざる旨を、千九百九年六月十日に、議會に於いて大演説をした。之に對して、一般以太利の政界のみならず、社會黨員の中にも、一時は氏を謀叛人と呼ぶ者さへ生じた。氏の見地は、社會主義は國際主義であつて宜しい、併しながら健全なる國際主義は必ず各國民が充分なる發達を遂ぐ

社會黨の面目一變

社會黨の民風作興

社會政策の實行耕地整理

るを要素とすると云ふに在つた。此立脚地が次第に社會黨にも知れ而して社會黨は漸次國民主義と接近するに至つた。事に依ると以太利の社會黨は、其中に政權に接近するに至るやも知れぬ状態に於いて在る。併し是は姑く將來の問題としても、現實に於いて社會黨の經營する村落は、實に民風作興に於いて頗る成功せるものがある。寺詣では益減じ、風俗は益醇良となり、犯罪の減少することが、到處に於いて見らるゝ所の事實である。

社會黨は尤も國民民福を主張し、而して舊保守黨も亦貯蓄銀行共濟組合等を獎勵して極めて社會政策の實行に熱心である。北方以太利に於ける耕地整理は、廣大なる地域に亘つて極めて立派に出來て居る。フェルリ氏の紹介に依り、マントヴァ市參事會員エンリコ・デ・ゴエニ氏の案内にて、マントヴァ縣ゴンザアガ郡シニョアラ村を視察した時に四月十三日である。縣には知事あり、郡は地方行政の自治團體ではなく、隨つて郡會も無く郡長も無い、縣の下に直に町村がある。今聊か以太利の地方生活の一例として、此村視察の御話をしやう。



## 七 地方生活

村は大

シニッザアラ村は、南北二里、東西二里半、人口一萬五千、五ヶ字より成立し、その最大は五千、最小は一千の人口を有する。總べて北以太利の村落は人口一萬内外、僅に何百と云ふが如き町村は、サルヂニアへ行かねば見難い。而して斯かる一萬内外の大村も、別に相合併して出来たのではない。此村の産物は乾酪、小麦、裸麥、葡萄酒、輸出頗る多く、随つてそれ等の仲買の相當資産を有する者が多い。

選舉

村長は村會から選び、四年を任期とする。村會議員も同様、四年、二年毎に半数改選をする。村會議員選舉權は自署の出來、且多少の納税を爲し、年齢二十歳以上なるを要する。衆議院議員選舉權のある者は、亦村會議員の選舉權をも有する。さて衆議院議員の選舉權は、小學三年卒業以上の學力を有し、二十歳以上の者なれば足るので、納税は資格の必要條件でない。本村の村會議員三十名、各字から選出せられる、其中から村參事會員四名を互選する、之が執行機關である、村會議員は階級

村經濟

選舉でない。村役場には五人の筆生、一人の書記長、及び三人の小走がある、別に收入係ありて、國稅、縣稅、村稅、及び教育費を取扱ふ。

本村の年費、二十二萬五千リラ、即ち約九萬圓、内五萬リラが學校費、四萬リラが道路費、三萬リラが衛生費、二萬リラが村債利子及び償却金である。收入は、村は土地を有するが、他の利潤を生ずる財産は無い、村債が現に三十萬リラある。

教育

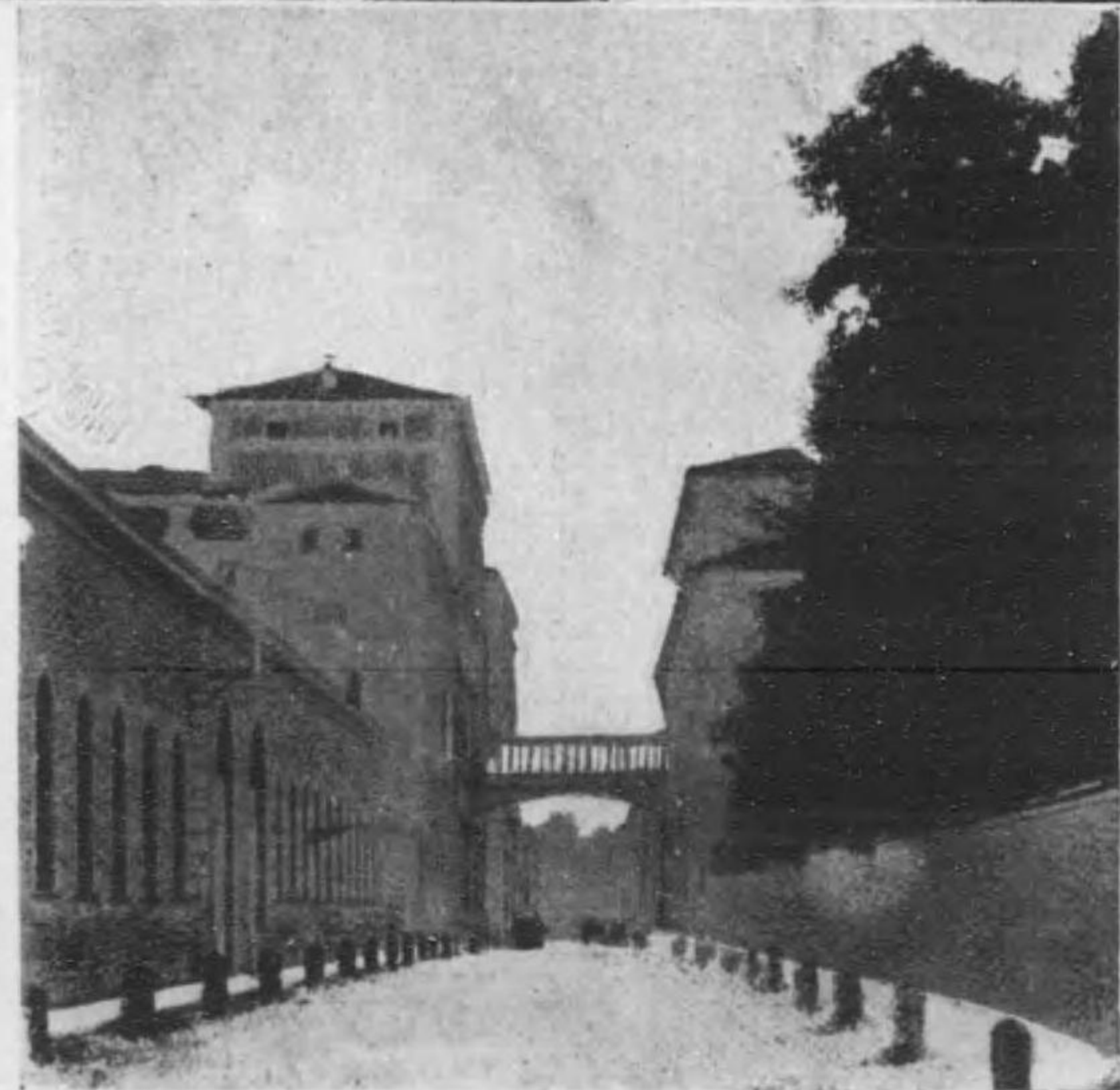
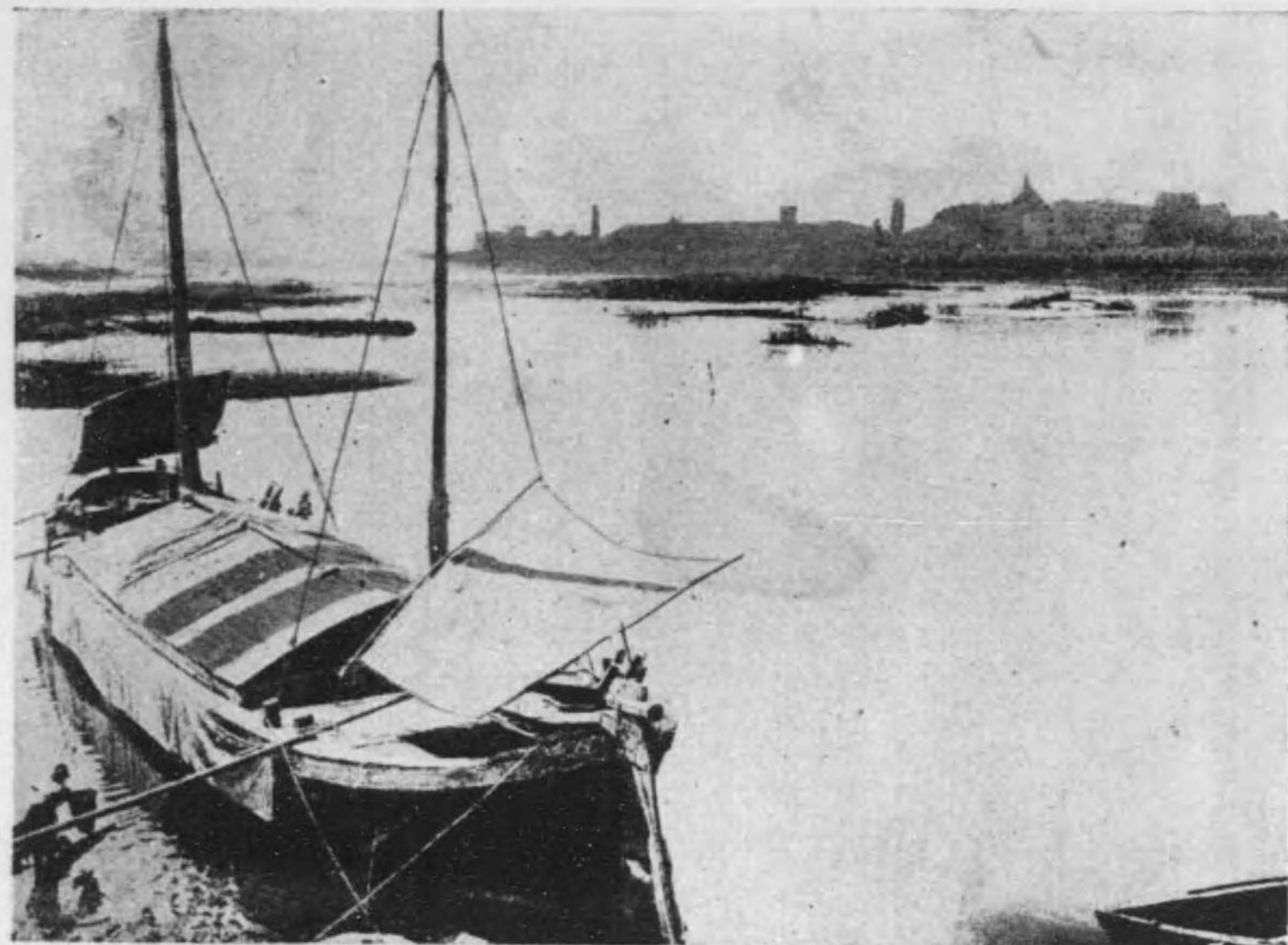
教育は、小學校、六ヶ所、内一校は本字に在りて、特に高等科、即ち五年級、六年級を有する。教員總數四十名、生徒約二千、一年の中、四ヶ月間は、村費を以て、貧生に中食を與へる。其外、圖引學校あり、是は工業的補習學校で、夕方から夜にかけて、小學校の校舍を借りて授業する。夜學の音樂學校あり、村立小圖書館は、村役場にあり、劇場にて屢催す所の通俗講話會あり、村立幼稚園がある。

娛樂機關

娛樂機關として、テ、ア、ト、ロ、ン、チ、ア、レと云ふ劇場がある、是は會員組織の劇場と云ふこと、マントツ市にもある、有志者が金を出し合つて建て、而して此出金者は各、己れに所屬する柵を所有して居る、中々大なる建物で、二千四百人を容る。カ  
ルナヴァル祭のときには、村から二千乃至四千リラの補助を與へて大興行をする。



北 以 太 利



マントヴァの水郷

モデナの舊都

世界列國の大勢

次に活動寫眞館、チネマテアトロがあり、是は劇場に比ぶれば頗る小なる、恰も寄席の如きもの、矢張仲間合ひて建てたもので、相當身元の人も見物に行く。

此村の實業は、農業の外に農具製作所が三ヶ所ある。其一つはカサリ組合農具製作所、三人の資本家の經營に係り、職工二百八十人を有する。其二是株式會社農具製作所、右に比ぶれば稍小である。其三是産業組合農具製作所である。

金融機關は、サヴァ共同銀行、是は地主の富豪の立つる所、主として社會黨に對抗する爲のものである。其二是庶民銀行、社會黨も株主として立ち得るもの、一株五十リラ又は二十五リラ、是は現首相リニツァチ氏が大に其普及に努めたものである。小商人小農業者に資本を供給するを目的とし、貸付は株主に限るを原則とし、時には株主の保證を以て、株主以外にも資本を融通する、株主は無抵當にて、株券の三倍までの資本を借入れることが出来る。是は大抵縣の中央に本店を有し、各地に支店を有する組織で、マントヴァの庶民銀行、信用組合を縣單位にせるが如きもの、レジオの共同銀行、ミラノの共同信用銀行の如きは、其更に一進して、主として産業組合に向つて資金を融通し、且一個人に對しても、信用組合の代用を爲すものであ

實業

金融

庶民銀行



慈善團

る。凡そ以太利には、斯かる金融機關が發達して、町村單位の信用組合は無い。其  
三は商業、信用銀行である。是は稍、大なる銀行で、工業上の資本は重に此銀行から  
融通する。

一般に以太利には、慈善團と稱する法人がある。町村が先づ一二千圓の小資金  
を以て之を建て、さて富豪の遺言寄附、貯金銀行の寄附金等に依りて、次第に數十萬  
圓の資金を有するに至るを常とする。其機關は、町村會より任命せる經理委員が之  
に當る。本村の慈善團は、約五十萬リラの固定資本を有して居る。凡そ慈善團の  
監督機關は縣慈善委員會である。其組織は、委員の三名は縣吏、其他は縣會議員及び  
町村長から成立ち、縣知事が其議長である。更に其上に之を監督する者は内務省の  
慈善局長である。

病院

病院は四十年前の創立に係り、獨立經濟で、之を總體改善したのが十年前、其費用  
十五萬リラは慈善團から之を支出した。三十床を有し、院長一人、助手二人、入院料  
は二リラ二十、四リラ、及び六リラ、即ち上中下三等ある。村は毎日右の下等二十人  
分と、外に一ヶ年二千リラの補助を與へる。外に結核研究所あり、半圓形にして日



あたりをよくせる六七室より成れる清淨なる建物で、創立費は慈善團之を受持ち、年額五千リラも慈善團より支給する、病院の助手の一人が之を擔當し、病院に附屬して居る。是は本來社會黨が村柄を握りし際の創立であるが、三四年來僧侶、保守黨の村柄時代となつて之を閉鎖し、今は現に明き家となつて居る、斯かるは縣の監督官廳の失態でなからうかと觀察せられた。

養老院

養老院は矢張慈善團が其創立費を受持ち、二十床あり、一人一日八十仙、但し他村の者は一リラ、村費より年額四千リラを此入院者の爲に支出する。

産業組合

併し本村に最も見るべきは産業組合である。本村産業組合は總べて三部より成立する。

生産消費組合

第一は生産消費組合、是は八年前の創立に係り、一口六十リラの支出で、今は口數約千五百資金約六萬五千リラ、積立金約九千リラ、一ヶ年賣上高約三百五十萬リラ、利益配當約一萬二千リラ、積立金(五割)失職者手當(二割)公益資金(四割)三口合計約五千リラの盛況を呈するに至つた。生産は麵包、サラミ、乾酪、牛酪、葡萄酒、及び凍肉の數種である。會員は先づ金を金額記入の切手に換へ、以て現品を買ふ、切手には一

チマシエン  
はリラの  
百分一

リラ、二十、五仙がある、其最も小なる五仙のはアルミで出来て居る、其用法は一般の紙幣と同じである。役員は産業組合總長メノッチ、リッピ氏一人の外に、女書記一人あるのみ、それして一切の用務を辨じて居る。生産仕事の方には勿論若干の技手がある、是は報酬區々である。右總長及び女書記二人の日給が、合計四リラに過ぎぬ。會議室が出来て居り、フェルリ、ロンプロオゾ、マルクス、ガリバルディ等の肖像を掲げて置く。又飲食室が二室あり、明年には更に大進歩を遂げ、文庫、讀書室等をも備へる計畫がある。組合員は全村から來るが、併し各字に尙小なる消費組合が此外に成立して居る。

農具製作所

第二部は農具製作所である。北以太利の農業には、大規模なる蒸氣機關さへ多く用ゐらるゝを以て、此製作所は、外觀の汚きに拘らず、頗る大仕掛である、農具の新製修繕を、産業組合及び一般の爲に營む。此製作所には労働者五十二名、固定資本七萬五千リラ、十二年前カサリ農具製作所の大同盟罷工の際に創立せられた、今や一ヶ年一萬リラの利益がある。別に技師は居らず、唯、老練なる技手があつて一切經營指導して居る、資本は五分の利率で銀行から融通した。此製作所の中に産業



組合に對する地面がある、但し、労働者の住宅は、町村が營むべきである、と云ふが、社會主義の運動で、此運動は、次第に、此國に、盛になつて居るが、まだ、此所に、住宅は、出來て居らぬ。

農業組合

第三部は、農業組合である。是はまだ二年以來の創立で、百ヘクタルの畑を隣村の慈善團から借受け、小麦、裸麥、葡萄、其他木草の利益を收め、牛舎には六十頭の牛及び乳牛あり、其中二十五頭は毎日畑で働く、豚小屋には六十頭の豚あり、牛酪及び乾酪製造所あり、以て各種の農産物生産に従事して居る。凡そ此所に従事する者は、農夫が日給で、唯、牛舎の番人のみが年給なるのみ。借地料一萬四千リラ、労働者の賃銀が一萬五千リラ、肥料其他が四五千リラ、合計三萬三千四十四リラを費して、生産は五萬リラに上る、其重要なる物は小麦四百キントナル、裸麥六百キントナル、葡萄六百キントナル、乳八百キントナルである、其他種々の副収入である。

墓地

墓地は各字に各一ヶ所の共同墓地あり、矢張、ジュノヴ、ピサ、等に於けるが如きカンボサント式の立派なる建築で廣大である、とても我國の寺院等には見られぬ、鄭重なる墓地の結構で、殆ど青山や谷中を凌駕する。

火防

火防は、單に二臺の唧筒と義勇消防夫とあるのみ、是等は多く石工である、別に定まれる本職の消防隊は、無き。

村長有給運動

村長は全く名譽職、村會議員も亦名譽職、此國では國會議員も亦鐵道旅行が無賃で出来るだけで、歳費が無い。併し、斯く村長の全く無給なるは、労働者の村長となるを、杜絶するに當るといふ理由から、村長有給運動が、追々、以太利には盛である。

旌表制なし

以太利には、未だ町村を全體として旌表する、我國に於けるが如き模範町村制度は無い。但し、産業組合は、内國博覽會毎に其社會經濟部の最大主要目を成し、而して本村の産業組合は常に金牌を受領して居る。

觀察

之を要するに、經濟的、物質的の進歩は、シム、ザアラ村に於いては、實に其偉大なるを認むることが出来る。但し、精神的、智能的には、未だ特に著しいものは無い。社交上にも、消費組合の飲食室の外、別に俱樂部は無く、又酒量制限法などは何も存して居らぬ。



八 一陽來復

樂觀的國

汽車の進

以太利の風俗體裁が所謂現代の文明には遠いと云つて一般歐羅巴人は誹すけれども此國人口の年々増殖し殊に今世紀に入りて十年間社會の有形上の進歩の著しきより國民皆國民的發達に希望を懐くに至れるを何と看るか。先年旅行せるときは、ピサより羅馬に至る間に、三たび汽車がまごつき、夜十二時に著すべき者が午前二時四十分に漸く著した何所の鐵道も汚くて堪らぬ程であつたが、今日は實に清潔となり、速さも増し、以太利旅行中嘗て一たびも一點の故障に遭はなかつた。是は五ヶ年前鐵道國有を斷行した結果であるとは云ひ條要するに國民が大に眞面目になつたことの現れとして、我友國の爲に賀せざるを得ぬ一大現象と云はねばならぬ。

尙未だし

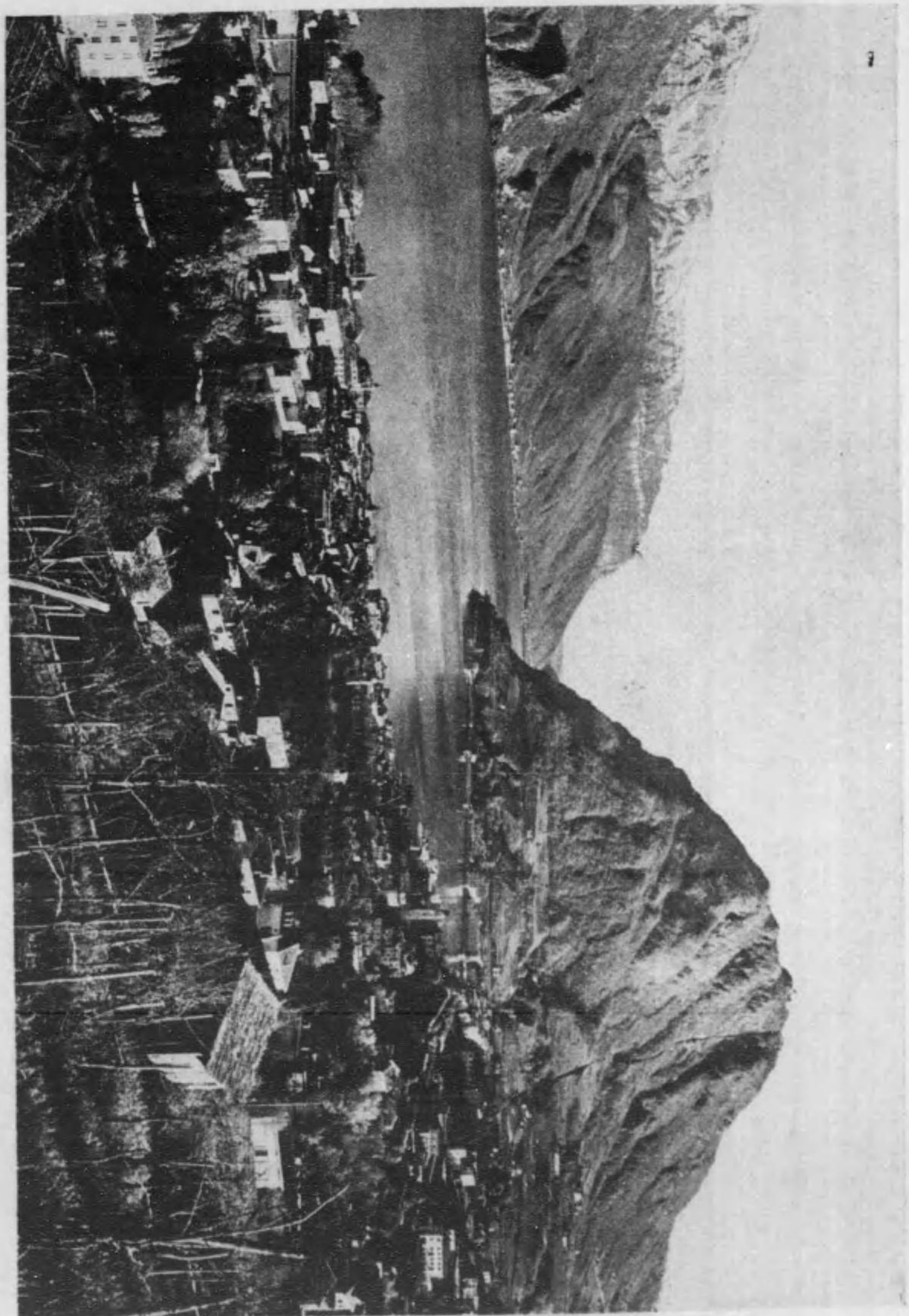
但し以太利の地位は今日に於いて尙極めて有利有望と云ふ地位ではない。且以太利國民の仕事には時として實力を顧みざる盲動の弊がある、千八百九十九年

西歐同盟

に於ける、南清三門灣占領の無謀なる舉動と云ひ、今回のトリポリ事件と云ひ、幾分雖に觸るゝ、羶羊の感なきにしも非ずである。

フェルリ氏の言ふ、今より二三十年以内に、西歐同盟は、北米合衆國に對抗する意味に於いて、或は成立するであらう。蓋し西歐の軍事費六七十億、以太利を以て亦七億の軍費を費す、是れ實に以太利の國費の三割五分に當る、今若し西歐聯合が成立して、軍費を各半減するとするならば、その實質的進歩は實に大なることであらう。併し斯かる空想の實行さるゝが爲には、必ず實際の威力に依らねばならぬ、而して實際の威力は實に北米の經濟的脅威である。南米は大なる將來を有する、其農業は殆ど處女である、伯拉西亞爾然丁、皆然り、亞爾然丁では苧種を歐洲に賣ること一千萬、其莖は之を棄てゝ顧みぬ。但し南米には石炭が乏しいから、北米の工業上の敵國となることは覺束ない。如何にも水電はアンデス山からいくらかも利用出来るが、水電を利用する工業は、農業の稍、老いたらむ後でなければならぬ。さて西歐同盟に、露國も亦加はるべきや否やは問題である、是は其の國情が大に西歐諸國と異なる所があるからである。斯の如きは以太利に於ける一説であるが、以太利の





行政整理は今日尙多少の餘地を存することを見るべく、而して西歐、北米、南米、及び露西亞世界に於ける此四單位の關係に關する、天下の名士、我輩の同學者の一説として、多少の興味を以て見るべきものである。

以太利語

以太利語の美しさの點に於いて佛蘭西語に及ばぬ所以の一は、ウッチェロ、リゾット等二重子韻の發音の多いに存する。英語には此類尤も多く、爲に英語の美を損ずることが夥しい、この點では佛蘭西ほどなだらかなるはない。幸に獨逸語も、この弊はやゝ少いやうである。子韻では、C及Se殊に耳だちて聞ゆ、Cは我關東人の金ちんのちの音あり、Seは九州人の精神的といふをりのし、しに似てゆ、い、し。

以太利の  
晩春

藤、山吹、ついで、うの花、菜の花、木瓜、さては、しだれ柳、小金井流の山ざくらまで、以太利の晩春は、どこまでも日本にあやからむとすらむさ、い、み、じ、。



瑞西國。

南境ルガアノ湖、及

サンサルグアトレ山。

「九時(一九〇一年四月二十四日)キアツを發す、山岳の間、空氣殊に清く、數里にしてルガアノ湖畔に出づ、湖は例によりて峻嶺際の際に在り、水色澄徹、遊魚數ふべし。連峯の間、雪山の靨あり、霧間春樹萌動、杏花梨花木瓜の類、今を盛りにて、唯この間一鶯語の間關を少くを憾むのみ。鐵路湖畔を馳せ、隧道を出入し、湖邊行き盡くる處即ちルガアノ村なり。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

### 第九 瑞西の江山

#### 一天然

四月十四日マントヴァを發し、ヴェロナの舊都も唯汽車の乗換をせるたけて、山と山との迫れる、趣多き山郷の間を汽車は北行し、二たび埃太利の域内インスブルクに著し、茲にチロオル山中の佳景を遊び、十五日はコシスタンツの秀靈なる湖水の濱ブレゲンツに泊し、十六日此湖水を渡り、巴威里のコンスタンツにて税關の手續を済まして、瑞西に入り、而して汽車ルツェルンに向つて駛る。

ルツェルンは、シルレルのウィルヘルム・テルを以て有名なるフィエルワルドステッテル湖より、ライン河の流れ始むる口に在る都會で、此地に三泊し、其間會遊の此湖に遊びて東、ブルンネンを窮め、リギに登り、十九日此を去つて瑞西の首府ベルンに入り、

チロオル  
の山水

コンスタ  
ツの湖

ルツェル  
ン八森の  
湖及びギ

ベルン

瑞西の江山



歐洲の中

アルプスの通路

其二十三日まで此地に滞つた。春の瑞西は、山の景色もまだ冬の名残の失せやらで頗る淨らかである。ルツェルンの旅舎ボオリゲアジの樓上湖水を隔て、遙にユングフラウの高嶺の雪に夕映の色を望む景色の如きは實に天下の絶勝である。

瑞西は歐洲の中央に位し、アルプスの險要に據り、若し我より進んで平和を攪亂するが如き態度に出づるに非ざれば、他より侵犯せらるゝ危険の甚だ少き要勝の地を占めて居る。アルプスの分水嶺より南は、唯ベリンツナを中樞とせる一廓あるのみ、而して此歐洲の脊梁骨と謂ふべきアルプスを穿つて南より北に通ずる所の線路は、東から西に數ふれば、先づアルプス越あり、スブリュゲン越あり、グライチ越あり、此二つは鐵道敷設の計畫中である。次にゴタルド隧道あり、更にシンプロン隧道あり、有名なる那波崙の横切れるサンベルナルには鐵道は無く、モンブランを貫通する鐵道は今や計畫中である。さて佛國の領域に入つてから更に、モンヌイの鐵道がある。是等幾多の線、其多くは隧道、その長さ三里以上に亘り、實に宇内人工の壯觀である。昔はアルプスと越ゆるに非ずんば、以太利の美觀に接する能はずと云つたが、今や鐵路一驅、十五分乃至二十分の暗黒裡を出づれば、直ちに

大河の源

歐洲の脊梁骨を穿ち去る次第である。

瑞西は又歐洲の大河の源、水源地方である。ライン河も瑞西に發し、ロオヌ河も瑞西に發する、フィエルワルドステッテル湖はラインの水源、レマン湖一名ジュネヴ湖は即ちロオヌの水源である、斯の如き關係に於いて、瑞西は歐洲に對し、地勢上の高尙なる地歩を占めて居る。凡そ水源地方の水は實に淨らかである、瑞西の景色が斯かる山、斯かる湖水、及び斯かる河流に依て如何に清麗なるものあるかは、想像に難からぬ。

山

山の著名なるものは、ユングフラウ、モンブラン、ピラトオ、リギ、リギの如きは海拔六千尺に過ぎぬが、其絶頂に壯大なるホテルあり、四月十八日登山鐵道に依て之に登臨せるときは、絶頂に於いて尙六尺有餘の雪が積り、此雪に切通し路を穿つて、僅にホテルへ往來した。里は既に春となり、若草匂ひ花咲亂れて居るのに、山は白雪に埋もれ、其融けて流るゝ雪汁水は、湛へて清麗なる湖水を成し、如何にも天地の趣の悠々たるものがある。

天災多々

併しなから斯かる清麗なる景色の裏面には、亦實に天災の多々なる缺點が潜ん



雪なだれ  
埃なだれ

山崩れ

土地甚だ  
富まざ

出稼多し

で居る。瑞西に於ける雪類は實に頻數で、純然たる雪類の外、氷類、雪と土との入り混れる埃類等種々ある。往々雪類の落ち來るときに、同時に岩石をも轉がし、之が爲に時として一村全體を打壞すことがある。雪類のあるのは時節に限あるが、年中起る所の山崩れが屢ある。瑞西の山が、殆ど鬼巧斧割に似たるが如く峻峻にして、廬山高哉、廬山高とも謂ふべき峻拔なる雄姿に富んで居るだけ、それだけ、物理學上の法則は遠慮なく之に働き來つて、又其麓に住む所の人民の生活を不安固にすべく、山崩れが屢起るのである。瑞西の人民は、實に天の恵める其絶景に朝夕對し、其清麗なる秀靈なる天然美術の感化に浴する代價として、亦斯の如き不安固なる頻々とする所の天災を経験すべき苦き運命を持つて居る。

瑞西の土地は要するに高山地方の常として甚だ富めりと云ふことは出来ぬ。土地よりして生ずる所の農産物は、其面積に比しても到底富めりと云ふこと能はざるのみならず、抑、農産物を産出し得る所の土地が、面積に於いても實に極めて狭いのである。故に瑞西の人民は、此秀靈なる天然に固著して其天壽を始終するとは寧ろ罕て、生涯の若干期間、多く外國に出稼をする。

カントン

國の弱點

人種

人氣

## 二 人

瑞西は獨立なる自由國家二十二より成立する。是等の自由國家は名づけてカントンと云ひ、其聯邦政府をベルンに設けて、以て對外上の一國を成しつゝある。

瑞西は斯の如き天然の樂地であるが併し、國としては頗る遺憾なる弱點を有つて居る。それは即ち此餘り大ならざる國に於いて、重なる人種三類、外徴々たるながら、尙若干の人種を含む點に存する。重なる三人種は、獨逸人約七割、佛蘭西人二割二分、以太利人六分七厘、其外ロマンシ又ラディニシ人一分二厘、其他取り交ぜ四厘より、此國の人民は成立する。而して其人口増加の比は、獨逸人一割一分、佛蘭西人一割五分、以太利人四割三分、ロマンシ人三厘、其他七割九分と云ふ割合を呈して居る。瑞西人の平均年齢は四十歳半に達する。

人氣は實に質樸であるが、併し一種の特色は、出稼の多いこと、出稼しつゝ故郷を愛する念の強きこと、又餘り大ならざる國に於いて、其各地方は、各其土地の風俗を



飲酒

ガルトン  
なし

維持するに熱心なることである。瑞西人の教育好きは亦著名なる事柄である。瑞西の婦女は甚だ勤勉で、風俗も概して肅然として居る。但し飲酒は此地で中々流行するので、平均一人の一年間酒の爲に費す所は百十法となつて居る。大概の地方で、夜間十一時までは、村の酒屋でも酒を飲むことが行はる。獨逸人が斯く多數を占めて居りつゝ、一の奇妙なることは、酒を飲むべき庭園の無いことである。獨逸人は、多く庭園に於いて酒を飲むことを好み、止むを得ざるに非ざれば、建物の中で酒は飲まぬ、故に酒の生理上精神上の影響もさまで害が無く、常に習々たる風に吹かれて、露天で、木の下で飲んで居るから餘り悪酔はせぬ。然るに瑞西ではそれが全く流行らぬので、皆室内で酒を飲むものであるから、酒の結果が割合に良くない。而して銘酒することが多く、酔狂も往々出来、酒からして、家庭に幾分か疵の付くことが多くあるのである。

カントンの  
流の風俗  
區別

瑞西の各カントンには、カントン固有の風俗上の區別が極めて強い。輓近益々中央政府は完全になり、交通は次第に發達し、且教育も亦非常に進みつゝあるにも拘らず、カントン流の風俗區別が甚だ強い。同じ羅甸人のカントンの間でも、ジェエ

キルトガ  
ンダ

ウとロオザンヌとの例にも見ゆる通り、其多少相似たるが如く見ゆるは、皮相の點に於いて在るだけで、實は風俗及び思想に於いて全然相異つて居る。カントン風俗の何時までも維持せられ、保存せらるゝことの一例を挙げれば、ベルン州にキルトガングと云ふ事が行はるゝ、是は他町村の男の、我町村の女に通ずるを防がむが爲に、我町村の男は、自由に且安全に、その町村内の婦人を呼ばひて監視する、斯の如き餘り馨しからぬ風俗が、今日に於ても儼然として維持せられ、保存せられて居る次第である。

地方病

酒精

瑞西には一種の地方病がある、所謂クレチン病で、他國より入り来る者は、容易に斯かる地方病の存在に氣が付く。瑞西人の酒精に對する關係の一面の現れとして、酒精は專賣となつて居る、其利益が七百五十萬法、之を各カントンに分ち、カントンは少くも其十分一を以て酒癮矯正院の費用に向けなければならぬ、斯かる酒癮矯正院は諸方に立つて居る。丁度我國でも、北越地方、東北地方の雪の深き所で、冬籠りに濁醪を汲んで無聊を排するの風があるが如く、酒だけが瑞西人には少しく奇妙なる癖習であると見ゆる。



### 三 政治

地方組織

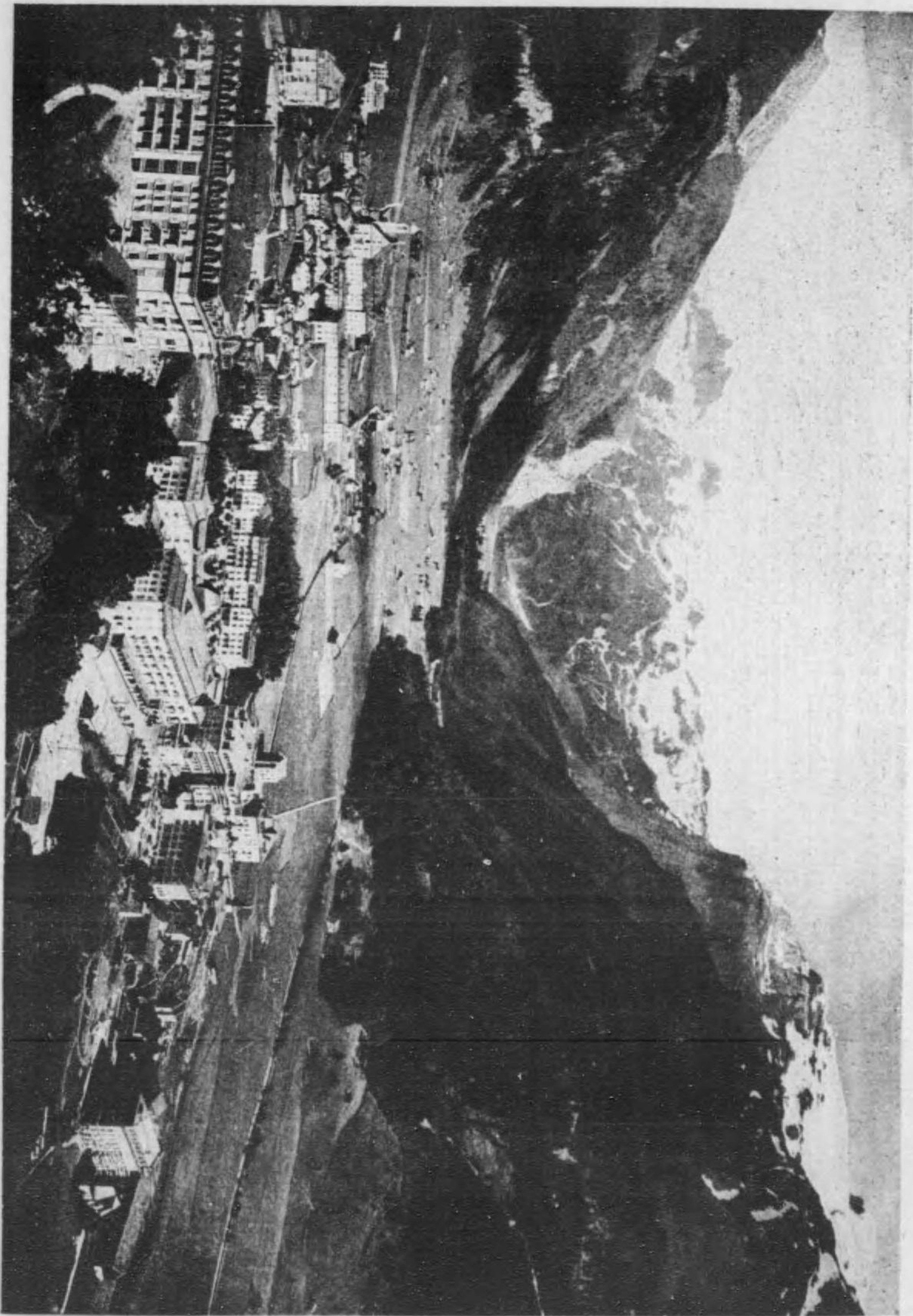
建國

人民主權

瑞西の地方組織は、政治の單位として市、町、村、自治體あり、其上にカントンあり、而してカントンの上にグンド、即ち聯邦がある仕組である。

抑、此國が建國の基礎を置いたのは、初め僅に三つのカントンを以て、千二百九十一年八月一日である。其時聯合せるは、シュウイッ、ウリ、及びウンテルワルデンの三つのカントンであつた。是より次第に進み、千七百九十八年には、アルプスの南より、テッシンも亦入り來り、千八百十五年に至つて、現今の二十二カントンが揃うた。千八百四十八年の法律で、衆國組合スウェイツェルより、聯合國アンシュタットとなつたのである。

此國の政治の基礎は、固より人民主權に在る。而して其發動機關としては、國民議會あり、聯邦議會あり。國民議會は直接選舉により、二萬人に一人の議員を出し、凡そ二十歳以上の男子は皆選舉權を有する。聯邦議會は各カントンより二人づゝ選ぶ、随つて議員の數四十四人、凡そ國民議會も聯邦議會も、共に議員の任期は總





瑞西國。  
ユンゲルベルグ邑及附近の景物。  
山峽里落の一例。

べて三年である。さて聯邦會議と謂ふべきものがあり、是が即ち内閣で、其會議員即ち内閣員は七人である、此七人は、國會議員の中より選ばれ、必ず別々のカントンの出身たらざるべからず、任期は一年、二年續いて再選せらるゝことは出來ず、其中で議長一人副議長一人を互選する。凡そ此聯邦會議員即ち内閣員の選舉は、國民議會及び聯邦議會が一つとなつて之を選ぶのである、聯邦會議は、全く政黨的でない。

特別なる事

瑞西の政治に於ける特別なる事は、レフエングダム及びイニシアチヴの二つである。レフエングダムは、直接に國家の重要な問題に就いて輿論に問ふ所の方法で、例へばカントン八以上、人數三萬人以上より言ひ出せば法律を變ずることも出来る。又イニシアチヴは立法に對しての首唱で、五萬人にて既に有効である、是に依て憲法も變へることが出来るのである。斯の如くにして、主權在民の主義が、遺憾なく發揮されつゝある次第である。



#### 四 村落

瑞西の社會生活を見むと欲せば、尤も亦其村落を見ることが必要である。ベルン滞在中、一日ベルン州にて、ベルンより北二里許りにツォリコオフェン・ルントライの中等農學校を視察するより、村落視察の事を始め、更に進んで同村に在る乾酪學校を觀る。

農學校は、小學九ヶ年卒業者を之に入れ、生徒數現在二百あり、冬季科及び全年科の二部より成り、全年科は普通の學生、冬季科は農家の子弟の主として學理を攻究せむとする者を入學させる。是は夏は農業に忙しいから、授業を冬のみ、止めたのである。孰れも修業年限は二ヶ年、寄宿させるのが原則である。生徒は大抵家に二三ヘクタルの土地を有する自作農夫以上の者の子弟が多い。此程度の自作農夫は、副業として家畜、野菜、東部では織物、刺繡、薬細工、又ユラ地方では時計製造等に従事する。此國では、大地主でも二、三十ヘクタルが大抵極度である。而して、小作は甚

中等農學校

農民の生活

だ、尠く、農業者は多く、自作で、労働者として、農夫を備役する。斯かる農夫でも、熟練なる者になると、一ヶ年六百萬乃至八百法の賃銀を得る。此邊で夫婦に二三人の子供ある者は、一ヶ年の生活費は大概千八百乃至二千法を要する。地價は一ヘクタルで、畑五六千法である。此類の農學校は、全國に十校ある。

乾酪學校

乾酪學校は全國に三校、此乾酪學校は生徒三十六人、乾酪の製造を化學的及び細菌學的に完全にし、かつ最近の機械装置を用ゐて、經濟的に乾酪を製造することを教ふる所である。入學生徒の素養は農學校と同じく、修業年限は一ヶ年、製造する乾酪は直徑二尺五寸厚さ六寸にして、其價二百五十法、本校では斯の如き乾酪を毎日午前の方に二つづつ造る。近所の村々に牛百頭だけ豫約してあつて、毎日是等の豫約者より牛乳を納付する。又バタの製造も講習する。凡そ瑞西全國で、乾酪の輸出が五千六百萬バタが、三千四百萬併せて九千萬法の輸出あり、之が千九百五年の統計である。是等が丁度全國の生産高の約七割に當る、三百五十萬の人口の國として、實に大なる國産である。故に斯の如く其品質を改良すべく、學校を設けて、銳意計畫しつゝある次第である。



キルヒリン  
ダッハ

右農學校教諭バウムガルテン氏の案内に依り、ツォリコオフェン村より一里餘を隔てたる、キルヒリンダッハ村を視察した、先づ村長グラウゼルの宅を訪うた。

村々

此村は人口千二百、キルヒリンダッハ、オオベルリンダッハの二箇字より成立つ。凡そ自治村は年齢二十歳以上、多少に拘らず納税する男子は、皆、村會に出席する、さて村會にて七人の村參事會員を選ぶ、之が行政機關で、其議長が村長である。村參事會員の任期は二ケ年。村役場には一人の書記あるのみ、其外又村收入役がある。右の外に委員會が二つある、其一つは、學校委員會、委員七人、今一つは、稅務委員會、同じく委員七人、此二類の事務の外は、一切、右の村參事會で之を處理する。

租稅  
收支

國稅を賦課するには、負債を除き、去つた餘分に對してする。村稅は一切の資産に之を課し、負債と雖も之を控除せぬ。本村の收入は二萬四千法で、千分の三の地租、百分の四半の貯金、株式等に課する資本稅、百分の五半の所得稅より成立つ。本村の支出の重なるものは、學校費八千四百法、寺院費一千乃至一千五百法、是は寺院の建物及び僧館等の費用である、救貧費四千五百法等である。村の役人は、村長、年手當六十法、村參事員一會議毎に二法、學校委員長年二十五法、學校委員年十法、收入

救貧

役手當年百法、稅務委員は一回毎に二法、村役場書記は年六百法、警察官の手當年三百法、此警察官は固より國の役人であるが、此村は小村なるが故に別に小走を置かず、故に手當を幾分村からも警察官に給する次第である。

學校

村に公立貧院あり。貧兒を二種に別ける、一つは全く勞働の出來ぬ者、今一つは貧民の子、又は勞働缺乏のために難澁する者。前者に對しては、州から一ケ年一人六十法の救助を與へ、村からは九十法を支出する。而して貧院は二三十ケ村のため一ヶ所あり、此村の屬するはリッギスベルグ貧院で、約四百人を養うて居る。前者は貧院に入らしむるが原則で、後者は州より四十乃至五十法、村より七十乃至八十法を支出し、是は各の家に在るを原則とする。本村の人口千二百に對し、貧民は甲乙兩者を合算して、十五歳以下三十一人、十五歳以上二十一一人ある。

學校は質樸なる二階建て、梯子は壁の外に在る。校内の一部に村文書庫がある、一二、三四、五六、七八九學年の複式四教室で、教師は男二人、女二人、即ち九ヶ年程度である、丁度視察せるときは春休で授業は無かつた。教員は最高級が村より千五百法、州より千五百法の俸給を受け、教員の初任は村より九百五十法、州より七百法で



ある外に各教員に約百二十法の薪と約二平方米突の野菜畑とを給する。學校教師を任用する場合には學校委員會より一人の地位の爲に二人の候補者を申出て村會之を決定する。

村會員數

本村の住民中、今や百七十人は村會に出席する資格がある、女子は出席することが出来ぬ、但し寡婦の戸主は委任を爲すことが出来る。因みに州會即ち國民議會の選舉權は、刑罰を受けぬ以上、二十歳以上の男子は皆之を有するが、併し別段有識選舉級と云ふべきものは此國には無い。

寺院自治體

寺院自治體は、税に拘らず罰の無き者は皆選舉し、且つ會議に出席することが出来る。是は寺院の事を料理する機關である。寺院自治體と町村自治體とは、必ずしも相契合せぬ、僧職は此寺院自治體から選舉せらるゝ、但し其俸給は州が之を支出するところ、墓地は町村自治體に屬する、この村では寺院の境内が即ち墓地である。

醫師

醫師は私業である、村醫は無い、貧しき病者は、右の救貧費の中で始末を附けらる。但し此國でも、山間の僻地では、村から俸給を支拂ふ所もある。

圖書館

村圖書館は、學校内に小さな貸出圖書館がある、巡回文庫は此村あたりには無い、但し此國にはこれ有る所もある。

火防

人口三百以上の町村では、必ず一臺以上の消防具を備付けねばならぬ、是は法規の命ずる所、此村にも一臺と其備付庫とがある。

射擊會

村に規模の確實なる射擊會がある。是は國が大に獎勵し、瑞西全國到處に存立し、凡て十七八歳から兵役中までの者は、多くは其會員である。此村の射擊會には、村は射撃建築の際に三千法を寄附せるのみ、州は年々彈藥を一人に付三又は四法の割合にて保護を與へる、射撃に要する土地も此會が之を買入れた。但し射撃と射撃室との距離間隔は畑で、唯射撃の際だけ其間を往來止するだけで、平生から空地として置くのではない。今は七十人の會員あり、毎日曜の午後、射擊會があつて、彈藥は各自が之を支辨す。會費は一ヶ年七法、瑞西國には三ヶ年毎に國立大射擊會があり、今年もベルン市の近傍に大なる板圍の出來つゝあるのを見たが、是は遠からず舉行せらるべき會場である。國立射擊會は二週間の會期で、外國からも射手が來る、此所に於ける成績は大なる名譽となつて居る。現村長グラウセル



氏の如きは、先年チュウリヒの國立大射撃會で名譽賞牌を得たる人であるといふので、農學校教諭が特に紹介された。

射撃の外に、フルヌッセンと云ひ、ベエスポオルの種類なる國民的遊戯がある、射撃をするまでに至らぬ年少者が多く之をする。

フルヌッ  
セン

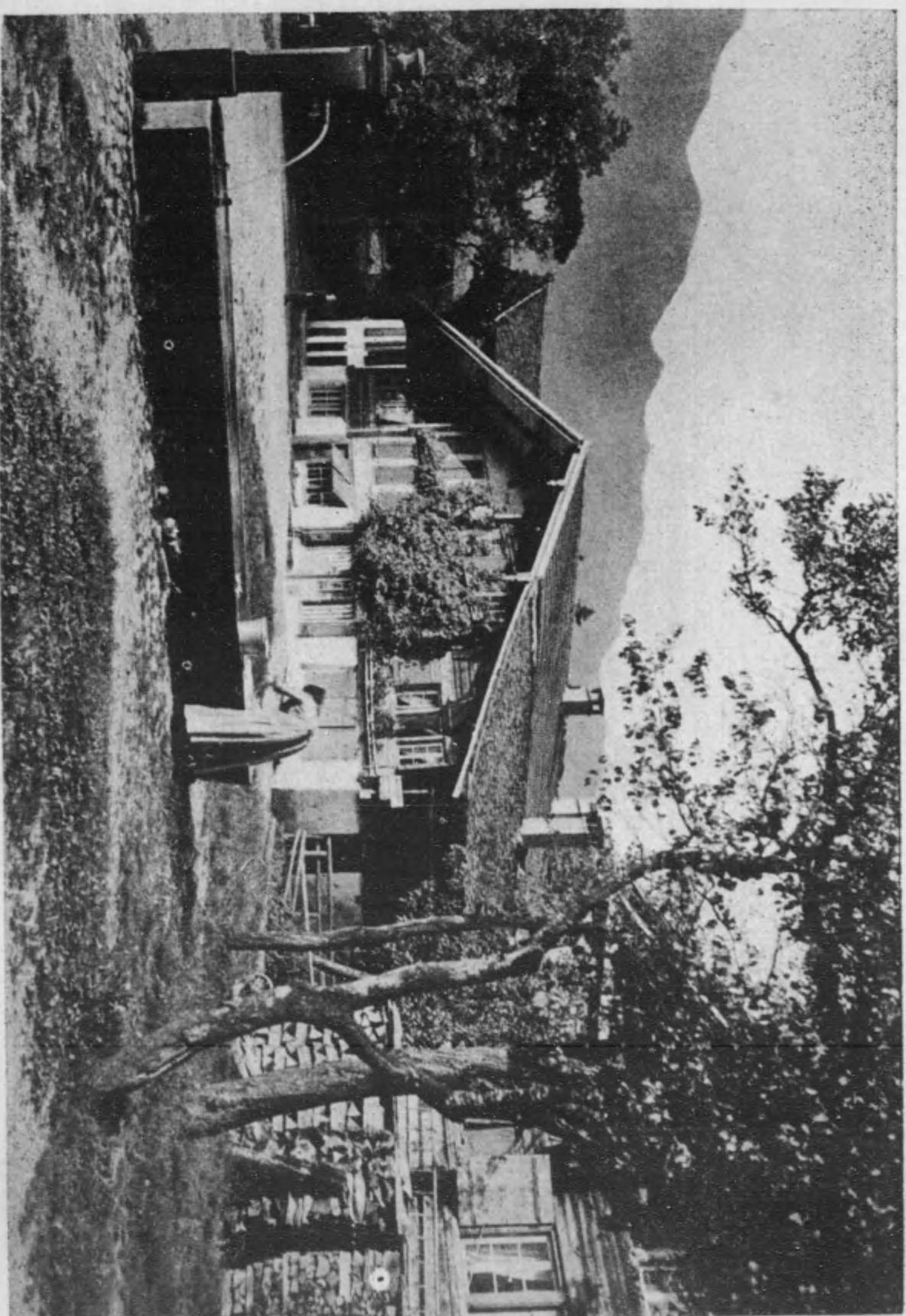
音樂會は、或は學校の一室を借り、又は酒屋で會合を催す。

音樂會

産業組合は勿論皆私立であるが、三種四個ある。其一つは家畜購買組合、是は一株五十法で、一人て五株までを所有することが出来る、十八年前の創立で、會員は五人ある。二つは乾酪生産組合、是は牛乳を持寄りて一緒に乾酪を生産する、各字に一つづゝあり、一つは三十八年前、一つは二十八年前の創立で、會員は雙方にて五十人、其生産高は十五萬法に上つて居る。三つは農業購買組合、是は肥料及び農具の購買を主として、嘗ては珈琲なども購買したけれども今は尠い、既に二十年以上存し、會員は七十人、購買の高は三萬法に上る。

産業組合

本村にも酒癮矯正院がある、是は私立で、州の補助金は有るが、村立てなければ村の補助は無ゝ。





瑞西國。

ベルンの山里に於ける、  
生活の一瞥。

郡公報

果物保存

村  
ミン  
ブク  
ゼ

本村に、面白きは、家畜の非常に多いことである。人口千二百に對し、牛五百頭、豚四百餘頭、馬二百五十頭ある。鶏の如きは實に夥しいところ、農家は概して二階建て、家畜は人と同じ棟に棲んで居り、秣小舎等は別にあるが常である。今の村長の家は二棟、外に小舎が二棟ある。

郡には郡公報あり、毎週發刊せられ、凡そ家主には無代で配達する。但し郡は行政區劃ではない、單に司法及び警察の區劃たるに過ぎぬ。

果物の保存と云ふことは随分大切な仕事であるが、是は或は補習教育で講習し、又は八日講習と云ふ巡回教師から受くる所の講習がある。

歸途隣村のミンブクゼ村を過ぎり、其中等學校を一見した、これは小學校と併置してある。小學校の初め四年は未だ分れず、其上に小學校の更に五年と、今の中等學校の五年とが相列んで立つてゐる。此中等學校には外國語等がある。此村は人口五千、例へばホテルや珈琲店等の如き種々の物がある。



### 五 兵役

瑞西の兵  
役  
入營期間

村落の視察をすれば、勢ひ此國の兵役に考へ及ぼさねばならぬ。瑞西の兵役は、凡そ不具癡疾に非ざる二十歳の男子には、悉く之を課する。其第一年は六十五日間入營し、第二年より第十年まで即ち三十歳に達するまでは、毎年十四日づゝ入營して訓練せしめらる。而して兵役に従はざる者は、其理由の何たるに拘らず兵役税を納める。其高は所得の中から六百法を引き、其餘の百分の一半を二十歳より三十歳までの間年々納め、三十歳以上四十歳に至るの十年間は其半額の率となる。而して別に六法は収入の如何に拘らず納税する。例へば九百法の収入ある職工は、三十歳まで十法半、六千法の収入ある中學校長は、三十五歳なるときは、四十六法半を兵役税として納付するのである。固より所得税は又其外である。獨身者は九百法以上、有妻者は千二百法以上にて所得税を納税する。兵營は大體八百人以上を容るゝ、入營期は多く、農時を害せざるやうにするも、年中新兵が入り来る。教

兵役税

所得税

兵營

甲冑の用意

育係たる士官は年中兵營に在るが外に、在郷士官が甚だ多い。兵士は皆被服及び武器を自宅にて保管する。是は一朝事有る時に直に武装して事に赴かむが爲である。さて右の兵役税は、半額はカントンに、半額は聯邦政府に納むるものである。凡そ此國にては關稅及び專賣が聯邦政府の費用となり、カントン税が即ち國税、外に市町村税、是丈の税目があるだけである。

### 六 教育

義務教育

瑞西は千八百七十四年に義務教育制を施した。凡そ教育は十分にし、義務として教育を受けねばならぬ、但し教育は無料ならざるべからず、又宗派の別あるべからずと云ふ事が、此國の憲法に規定してある。

學齡  
學級

學齡は州に依て、始まりは五歳乃至七歳、終りは十二歳乃至十六歳である。學級の定員などは、矢張州に依て様々である。最も少きは五十人、最も多きは百二十人に達する。



教育費と  
生徒出席  
数と宗教

世界列國の大勢

五

宗教教育

高等教育

教育費は人口一人に付六圓然るに軍費は四圓である。新教地方では人口五人に付一人生徒出席数は宗教別に依り著しき差がある。新教地方では人口五人に付一人半新教地方では七人に付一人舊教地方では九人に付一人である。前世紀の終りに於いて既に兵役に入る者の中文字を識らざる者は一萬人に付二十四人に過ぎず而して一字をも書く能はざる者は同じく八十人に過ぎなかつたのである。此國教育の普及は是に依りても明瞭である。學校に於ける宗教教育は新教は科外講義となつて居り受持教師は僧侶が之に當る。舊教では正科の中に加はつて居る但し必修科たる所と隨意科たる所とがある。教師も亦僧侶なる所と俗人の之に當る所とがある。此國の高等教育は大學六工部大學一正當なる大學生として女子の入學を許したのは此國が歐洲に於ける嚆矢である。凡そ此國の大學は獨り自國人を教育するのみならず歐洲各國人の來り學ぶ者が著しき部分を占めて居るのである。

### 七 國際上の瑞西

永久中立  
中立關係  
の由來

赤十字

國際仲裁  
制

瑞西の江山

五

瑞西人は何の野心も無く又傳說的野心も無い而して民主主義の先鋒なるが故に純然たる永久中立國となるの因縁を有して居る。實に若しも此形勝の地が歐洲の中何れかの國の手に落ちたならばそれは實に國際の勢力平均の上に由々しき大事となるであらう。此中立關係の由來は千六百四十八年ウェストファリア條約の際瑞西が自ら中立を公言し千八百十五年三月二十日維也納條約の際に列強が此國の永久中立を認めた次第である。若しも此種の中立が北歐羅巴の小國等にもあり得るならば随分面白いことであらう。千八百六十四年の八月八日より二十二日に至りて結ばれたる有名なるジュネエヴ協約は即ち赤十字事業の由緒て是れ亦實に瑞西とは離るべからざる關係あるもの瑞西が國際上に働ける重要な役目の一つとして必ず之を擧げねばならぬ。瑞西の國際平和の爲に貢獻せる事として更に記載せねばならぬのは國際仲裁



制に就いてである。其第一は千八百七十一年英米間に起れる有名なるアラバマ事件に對して、此時英國、米國、以太利、伯拉西及び瑞西より五人の判官を擧げ、是に依て判決を遂げたるが抑、の始まりである。是は、此國では、カントン、其の間に、既に實行して居つた制度であるので、偶、列強の間に、此國のカントン間に於ける仕方を應用して實行を試みたるものに過ぎぬ。實に小なる獨立國家、カントンの平和聯合に依て出來た瑞西に非ざれば、斯かる人道的にして、然も直截簡易なる國際紛議の處理法を提供せむは、夷の思ふ所に非ざる次第である。

國際事務局

國際上の瑞西は、又各種の萬國事業、事務局の所在地として、忘るべからざる關係がある。各種の國際事務局の中、萬國測地學中央事務局は伯林に在り、其創立は千八百六十七年、萬國度量衡中央事務局は巴里に在り、其創立は千八百七十五年、千九百年創立の萬國社會主義中央事務局、千八百九十年創立の萬國亞弗利加奴隸取扱事務局及び同年創立の萬國關稅中央事務局はブリクセルに在り、其外は總べて瑞西に在るので、萬國電信行政中央事務局は千八百六十八年七月二十一日に創立せられ、萬國郵便同盟中央事務局は千八百七十四年十月九日に創立せられ、萬國工業

所有權中央事務局及び萬國美術文藝作品中央事務局は千八百九十二年に創立せられ、萬國鐵道運輸中央事務局は千八百九十三年に創立せられ、此五つは皆ベルンに在る。而して萬國勞働中央局、即ち勞働法律の制定を以て任務とする此局は、千九百一年に同じく此國のバアゼルに創立せられた。右の外半官的の萬國事業事務局は、國際平和中央事務局並に萬國會聯合會議中央事務局であるが、千八百九十一年十二月一日に創立せられて居る。斯の如く、此山、水、明媚なる瑞西は、又國際平和の爲、國際關係の穩かなる解決及び其進歩の爲に、少からざる貢獻を爲しつゝある。

## 八 長所短所

實に瑞西は國際の超絶的樂地である併し、國內的には尙言ふべきものが無いともなく、瑞西では止むを得ざる事の外は州の自治に委して、聯邦政府は唯、七局を有するのみ、随つて各カントンは、己がじ、各種行政を經營するが故に、統一を缺く

長短

瑞西の江山

三二



小國  
人口の進

人種の錯  
雜  
國語運動

の弊は到底此國には免れぬ、又中央全般の行政事務に精通せる官僚を缺くといふ弊も免れない。成程是等は場合に依て弊とするに足らぬ、國が小さければ斯の如き事は今日弊とすべきではないが併し此二つの弊は國の小なる間だけ忍び得るものである。然るにこの國の人口の増加如何と顧みれば千八百五十年には二百三十九萬七十年には二百六十六萬八十八年には二百九十二萬千九百年には三百三十二萬千九百七十年には三百五十三萬を算ふるに至つて居る。乃ち此國は人口の増加随つて小國たるの資格に次第々々に遠ざかりつゝあるので段々右の如き弊が幾分の弊として目立つて來る傾向に進みつゝある。

かつ此國の小國ながらも人種の錯雜せるは亦是れ頗る弱點たらざるを得ぬ。人種の融合は到底期すべからずとしてせめて國語だけを融合させたいといふ希望及び若干の運動がある。例へば獨逸瑞西言語會の如きは鐵道の如きて實際佛蘭西語を用ゐて居るのに獨逸語の一般に普及せむがため獨逸語の小學を建てむとして居る併しながら之には此國に於けるユラ教育會及び獨逸新聞紙の中にも既に反對するものもある。又千九百八年に組織中のものとして佛語教授及練習





瑞西、ユトルワルドステッテル湖畔、

テル堂。

「四月二十五日、朝九時半ビュルケレンを發し、三十分程を歩行し、途に槍天と語り、自治の美談を談じ、アルトドルフより車行五分、フリユエレンにて直に乗船、フイエルワルドステッテル湖に泛ぶ、絶巖直に水頭より聳え、或は孤嶺勁拔、或は連峰疊出、水深く山碧に、風光言ふ可からず。舟行十五分、テル堂に達す、此邊岸下水深百二十間、蒼々の水光萬古の色を留む、之をテルが曾て暴風に逢ひ、數、死地に出入せし遺蹟と爲す。抑、キルヘルム・テルとは何人ぞや、距今六百年、瑞西尙奥太利の版圖に在り、ハプスブルグ帝室の代官、暴政太甚、乃ち此に反抗し、志士を率ゐて起る當年の佐倉宗吾はこれ此人、シキッツ、ウウリ、ウンテルワルデンの三カントン首として獨立し、今に於いて二十二カントン、聯合以て瑞西共和國を成す、テルや實に肇國の偉人、而して農民的愛國者の好標本。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

協會と云ふのがある。斯の如く、獨逸語の主張者があれば又佛語の主張者もあるといふ譯でどの途火の手が強くなるだけで、人種若くは言語の融合は到底覺束ない。併し識者は獨逸勢力の進み來ることに對して尤も危険なるは其國家主義、非自由主義に在るので、言葉には無いと見て居る者が多い。唯、茲に一つ面白いのは、瑞西に於ける獨逸人は、孰れも皆瑞西訛を尊重して、獨逸語は獨逸語でも獨逸の獨逸語と瑞西の獨逸語とは自ら異なるといふ、一種小ながらも國粹的の考を有つて居る。ライプチヒの『ハイムダル』の凡獨逸主義を鼓吹する、ゴオタの『獨逸世界の獨語普及を事業とする、是等獨逸に本部を有する一種の運動機關こそは、瑞西に於ける獨逸趣味を鼓舞する所の機關であるので、瑞西住の獨逸種族は、是とは頗る趣を異にして居るのである。



維城<sup>埃</sup>滄留八旬。乃復上途。南遊士希  
埃以瑞諸邦。先入何都。登臨武城。即日  
有作。庚戌春三月中浣。  
抱懷存百世。道路歷千程。野曠鳥聲盡。  
春遲草色明。江山家國重。書劍一身輕。  
祇有東流水。誰知劉與羸。

## 第十 イベリアの風色

### 一 入國當面の感想

瑞西を出て、レマンの湖水よりロオヌ川に沿うて下り、ロオヌ及びソオヌ二川の  
會流する里昂に滯留すること五日、故人の情異郷特に船を停めて暫く借問するの  
概あり、斯くて更に南してイベリアの半島に入つた。四月二十九日朝、空の早くも  
初夏の色してよく晴れ渡れるに、山間島蔭に東地中海の見え隠れする、こゝも亦美  
術の發生すべき國と覺えた。棕櫚の如き熱帶植物の饒かに、夏木立の稍繁り初め  
たる、野面の景色の總べて生活に充ち満ちたるに、此所彼所の村里、灰色なせる古き  
然も堅固に見ゆる、方形の變化乏しき家立ちの連れるは、稍埃及の狀にも似通ひて、  
既に活動の趣に缺けたるを覺えた。



天然の活氣生氣に對して最も著しき反照は此國の寺院である。ナルセロナの名高きカテドラルは更にも言はず、サンバプロビノ、サンタマリア、マルなど殆ど内部では物の色を辨じ難い。凡そ寺院は何所も薄暗きものであるが、此國では特に著しい。宗教の特色は此薄暗きに存し、宗教の莊嚴も亦此薄暗きに存し、宗教の弊害、社會上、性能上の弊害も此薄暗きに存し、宗教が科學的、實理的の智能を照す、光明を忌避するも、此薄暗きに存するであらう、されば此薄暗さの度の強弱に依りて、亦宗教の進歩の如何を卜すべしとも云はる。西班牙の寺院は神經衰弱に罹りて一切の光明を忌避する氣弱者の隠れ家を供ふるには最も優れたる設備と言ふて宜しい。されど薄暗さと國政との關係は如何あるべき。思へば那威のクリスチアニアなるオラアフ寺の如きは、宗旨こそ舊教なれ、さても思ひ切つて明るかつたと今ぞ知らる。

ナルセロナ市は、海を擁し山を負ひ、形勢の雄偉なるに加へて、市街の經營も亦頗る大規模である。舊市街は大なる並木街道にて圍まれ居ること、恰も維也納の舊市街の如く、地位の關係から云ふと、丁度紐育の下町の如くある。新市街は正則な

る碁盤割で、市街の四つ辻毎に隅切りとしたる設計は、最も廣やかなる感じを與へる。今は人口五十二萬、地中海沿岸の一大都會、最大都會の一つとして、ナポリと其雄を競うて居るが、規模の點から云ふと、ナポリ、ジェノヴァは勿論、馬耳塞も、到底ナルセロナには及ぶべくもない。若しも此新市街に十分家が建ち列ぶならば、優に百五十萬を住はしむることが出来る。唯、地位の西に僻せる、竟にイベリアの港たるに止まりて、或は歐洲の港たることは出来ぬであらうか、此點が問題である。三百年前、發見植民時代の急先鋒たりしイベリア民族の英氣の名残は、斯かる市街經營にも見ゆとも言へる、二千年間附庸たり、臣僕たり、乞食たりし民族とは自ら異なる點の、今は衰へ老いても尙見ゆるぞ床しかりける次第である。

海頭に屹立する高さ二百尺の、コロンバス塔こそ、實に雄偉にして英風颯爽たるの概がある。其形は稍、伯林の凱旋塔に似、又巴里の牢屋プランス・ド・メネルの辻なる七月革命塔に似て居るが、現實のコロンバスを地球の上に載せたるが、高き銅柱の上に卓立して、萬里の海天に皆を決する、實に雄々しき姿である。礎石の上に青銅の浮彫あり、其各面に當時の歴史を現したるが、多くは雨に腐蝕せられ、又頑童に損傷せられたるは



卓越なる  
女性

口惜しい、此塔の建立は今より二百八十年前にある。

西班牙にイサベラ皇后あり、英吉利にエリサベス女王あり、普魯西にルイイゼエ王后あり、而して我國には神功皇后在します。凡そ國運の大なる勃興を致すに際し、卓拔なる女性の陰に將た陽に史乘の大立て者たるは、比々として其例乏しからぬ所である。併し其國運に寄與するには、直接なるあり又間接なるあり、ルイイゼエ王后のは消極的間接的の最も著しきもの、イサベラ皇后のは平和的にして稍直接接的であり、エリサベス女王のは、外敵を撃退して己が國威を張れること、恰も北條時宗の元寇に於けるが如く雄偉ではあるが、併し防禦的受働的に止まる、さて最も積極直接進取自働的なるは、即ち我神功皇后の大御業である。固より時もあり處もあり、位もある次第で、強ちその功業の如何を以て其人格を輕重すべきではない。試に問ふ、今日若くは今日以後の世界の女丈夫達は、孰れを師として、巾幗者流の爲に最も盛に其氣を吐かむとするか、此點こそは熱慮を要すべき所であらう。

國運の變遷と女性

獨り國運の勃興を致す時に、卓拔なる女性の、大立て者として、史上に働くのみならず、國運の善かれ悪かれ著しき變遷を爲す場合には、善かれ悪かれ注目すべき女

性の、或は陰に、或は陽に、史上の立て者となることも、亦比々として、其例に乏しからぬ。我國の歴史にても、承久の役の龜菊平政子、大阪陣の淀君、英吉利では、マリヤスチアルト、埃及では、クレオパトラ、支那では、則天武氏、西太后、さて數へ來れば、明治の今日も亦多少之に類する女性的人格は無いでもなからう。神功皇后以下、イペリアの大なる女性たる、イサベラ皇后の偉大なる事績を見來つて、女子の事業、隨つて女子教育の前途に及べば、是等の點に考へ及ぼさざるを得ぬ。

過去と現在

現在には士氣も熾であるが、如何にも仰ぐべく慕ふべき過去を有せぬ國民は、我輩芬蘭に於いて之を見たのである。過去はあるが、遠きに失して、二階から目薬の敷あるは、我輩希臘に於いて之を見たのである。現在は稍、地位の不利、國勢の不振を來たしつゝ、然も盛なりし過去の史蹟が眼前に躍々として、尙隱然大國民の風格を繋ぎつゝあるは、我輩今や西班牙に於いて之を見つゝある。凡そ地位の變動は、さることながら、時には陸主たり海從たり、時には海主たり陸從となる、斯の如きは必ずしも拘々すべきでない。イペリアの民族も、發憤の如何に依ては、教育の根本から、一大整理を加へて、以て古の盛、古の大を恢復するも、強ち困難とすべきではない。

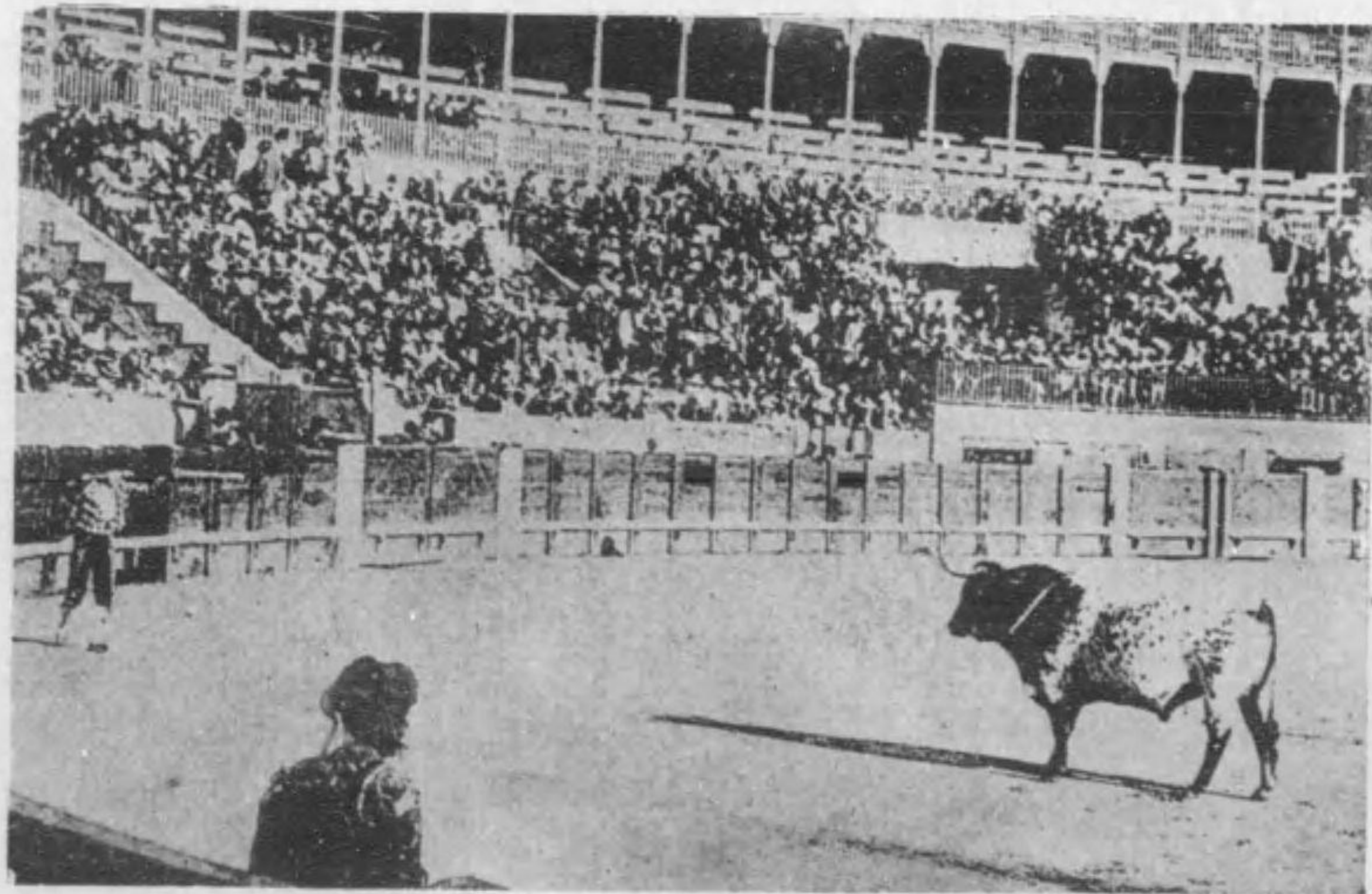


西 班 牙 即 目



西 班 牙 國 塞 爾 維 亞 市 街 路

馬 德 里 牛 仕 留 的 光 景



街 頭 所 見

僧 侶 と 闘

世 界 列 國 の 大 勢

三 〇

天 下 に 率 先 して 頑 冥 なる 僧 侶 と 闘 ひ 地 球 の 圓 け を 實 證 し 實 行 を 以 て 之 を 利 涉  
 した の は 西 班 牙 で は な い か 。 コ ロ ン バ ス は 以 太 利 人 な り と は 云 へ コ ロ ン バ ス の  
 新 大 陸 發 見 は 取 り も 直 さ ず 是 れ 西 班 牙 の 偉 業 である ざ て こ そ 北 亞 米 利 加 の 半 及  
 び 南 亞 米 利 加 の 全 部 に イ ベ リ ア 民 族 が 發 展 を 致 した 次 第 で は な い か 。 此 歷 史 上  
 の 偉 大 なる 事 績 に 考 へ る なら ば 教 育 の 根 本 整 理 の 果 して 那 邊 に 存 すべき か も 亦  
 極 め て 容 易 に 明 白 なる も の が あ る て あ ら う 。 僧 侶 と 闘 ひ 僧 侶 を 屈 す 是 れ 各 國 國  
 政 の 振 ふ と 否 と の 分 岐 點 である 。  
 物 い ひ の 騒 が し き 婦 女 の 色 あ り 美 し き 髪 の 結 ひ 狀 の 粹 なる 隨 つ て 帽 子 の 跋 扈  
 せ ぬ 人 々 の お 客 に 對 して 叮 嚀 なる 珈 琲 店 の 發 達 せ る 樹 木 の 大 なる 警 察 官 等 の 制  
 服 の 十 七 八 世 紀 風 に 古 雅 なる イ ベ リ ア に 入 り て 街 頭 所 見 の 數 々 ざ て 珍 ら し き 事  
 が 多 し 。



## 二 中央及地方

バルセロナを出て、程遠からぬに、村里の廢墟の残れるを見ること屢である。カタルニア地方は尙こそあれ、アラゴンに入りては、農業が何處に存するかを怪む程である。實にアラゴンの山はやがて沙漠となるであらう。カステリアに入りて、田畑の稍、水氣あるを見る、山はアラゴンよりも岩硬く、矢張樹林は無い。

汽車の緩くして、搖るゝは、政務の遅緩にして、且秩序無きの、反照である。是れ其原因が兩者孰れも同一であるからである。孰れも國民性癖の反影孰れも教育の未だ行届かざるの致す所である。停車場の驛站を距ること極めて遠きも、日本で我輩の熟知せる北越鐵道と能く似通ふ點である。さて其原因も、北越鐵道の停車場の地位決定に於ける事情を以て、説明すべき事ではあらう。

馬德里の王城こそは、由々しき大建築である。今日までに費す所三千萬圓、然も今尙全く出來上らぬといふことである。馬德里の市街は、イベリア半島各王國を合



風俗

して此國を成せる折に、新たなる大國の首都として、偏らざる中央の地を擇んで新たに建設した所である。されば國の中央と云ふだけで、何等の地學的の長所を具へては居らぬ。土地は高臺にして空風強く、雨量水量の乏しく、決して生活しよい所ではない。唯、割合に土地が新しく、寺の餘り目立たぬと、市街の規模の稍、大なるとは先づ々々めつたい。是等は孰れも此市街の特色を現すが、規模は新たなながら、古を語るやう外客をして感ぜしむるだけの韻致は全く無いでもない。

此土地の風俗、食に饒かに奢つて、住宅には、儉約である。可否の批評は措き、斯の如きは即ち十八世紀の生活である。當時食物は饒かて、調理に於いても、必ずしも今日に甚だ劣るほど儉約ではなかつたのであるが、住宅の十年期毎に駸々として進み行く状は、極めて明白なる事實で、各國の都會に、現今取崩されつゝある所の古き建築と、其跡に建つ所の新しき建築との比較にも極めて顯著である。斯かる十八世紀式の生活、是は此國にも、此市街にも、總べて通じて然りと、言はるべき一つの特色である。一口に之を言へば食倒れ主義で、住宅の近世式に愉快なる秩序ある仕組を缺くは極めて著しい、此弊は旅館などですらも頗る際立つて感ぜらるゝの

食倒れ主義

五月二日

である。

千八百八八年五月二日は、佛國統治に對して、馬德里市の獨立反抗運動開始の日とて、年々此日を國民大祭とし、午前は記念碑の所に忠魂の祭典あり、午後は商估皆店を鎖して休日とする。此日此國に有名なるトロオの催しあり、恰も一昨夜、四月三十日夜半に此地に著いたことゝ、幸に此記念日に於ける此名物を見物することが出来た。

トロオ

闘牛場

牛士

トロオは、此國固有の一種の牛仕留の興行である。羅馬希臘以來ありと云ふなる其式を寫せる、大なる闘牛場にて興行する。馬德里の闘牛場は、圓形の造りて、直徑約七十間、高さ約二十間、中央に直徑約三十間の圓形なる廣場あり、而して周圍は悉く數十級の棧敷を以て取巻いて居る。此舞臺とも謂ふべき中央の廣場は、繞らずに堅牢なる厚板の柵を以てし、地上二尺程の所に足場を設け、而して柵の總高さは六尺程である。嚙曉たる俗曲の吹奏に伴れて、牛士は柵の一角を外して、牛を此闘牛場へ驅り入れる、其對手となる一隊の牛士は、騎馬にして槍を持てる者二人、徒歩なる者十數人、是等は各、或は赤、或は紫、牛の精神を刺戟するが如き色をなせる大

イペリアの風色



なる毛布の如き物を手にし、而して片手には劍を持つて居る。此牛は性來極めて  
 悍惡に生れたるものを擇んで、而して更に之を精々、悍猛なるべく教育し、以て此牛  
 仕留の目的に供する。埒を離れ追ひ込まれたる牛は、極めて猛烈なる、疾風の如き  
 勢を以て、猛突する、之に對して騎馬の牛士は、先づ槍を以て之を突くのであるが、其  
 際に多くは馬は牛の角に掛けられ、腹部より滾々として瀧の如き血を流して斃れ  
 る、此場合に牛士の頭たる者が、極めて機敏なる働きを以て此牛の注意を己れの方  
 に惹く、之を怠るときは、落馬しつゝある牛士は直に牛角に掛けられて、第二の犠牲  
 となるのである。槍の鋒、先は護謨を以て制限し、僅に二吋の深さある傷を負はず  
 に止まる次第で、牛は先づこの第一期戦で相當に疲れる。是に於いて騎馬の牛士  
 は退き、而して毛と徒歩の牛士との第二期戦となるのである、戦數合、牛をあしらふ  
 に紅紫眩きばかりの毛布を以てしても、遂に牛の猛威に追蒐けらるゝときには、牛  
 士は柵の足場より柵外に飛出でて、以て纔に其身を免るゝ。斯かる間に牛士の手  
 練を以て、細長き、火箸の如き劍を一對、其脊髓の一部に刺す、此劍には特に花火の仕  
 掛がしてあつて、脊中の上で轟々然として爆發する、之が一面には牛の勇氣を摧き、

而して他の一面には、牛をして益、失望の勇氣を増さしむる所以である。斯かる劍  
 を負ふこと三對若くは四對に至るときに於いて、更に戦が第三期戦に移る。第三  
 期戦となれば、是等牛士の親分たる者に、座中の光榮ある地位ある人より、節刀を賜  
 ふとても謂ふべき儀式があり、此銳別なる刀を以て、此親分は、此牛を仕留めずんば  
 休まざるの概を以て打向ふのである。牛は既に稍、疲勞し、涎を流すこと瀧の如く、  
 其引く息吐く息は、大風を捲き起すかと思ふばかりであるが、手練の巧みなる牛士  
 は、數合若くは數十合の戦の後に、遂に牛の項に其銳利なる劍を突通すに於いて成  
 功する、是に於いて牛は二三回狂ひ廻つて、遂に前足を折つて大地に墮と跪くとい  
 ふ段落になるのである。

右はトロオと稱する、西班牙の牛仕留め興業の一段で、斯の如きが、凡そ午後三時  
 半より午後六時に至る間に、約十番繰返さるゝ。之に臨場する人々には、皇族以下、  
 時めく紳士淑女を網羅する、而して此興行に依て興行料を得る者は、各一座の親方  
 である、其下なる牛士は、皆親方より相當の分配を受くるのである。是は、さまで勇  
 氣と手練とを要する遊技ではないが、併し之を行ふ者も、亦之を觀る者も、慘酷の風



を獎勵するの結果は明かであらう。人こそは滅多に傷かぬが、馬は殆ど皆即死の運命を有するのである。見物の騒々しさは此國の人氣にも依るけれども、斯かる遊觀は、人格修養の上には、恐らく寸毫の利益の無いことであらう。

### 三 美術の隆替

第十六世紀の末より第十七世紀の前半に掛けて、西班牙はリベラ、ヴェラスケス、ムリリヨ等美術界の巨匠を出だし、美術の最大發達を遂げた。中にも、リベラのはモデルに依りて違はむことを是れ恐るゝ、先づ言はゞ初等自然派である、ヴェラスケスに至り、全然從來の宗教に囚はれたる畫風を擺脫し、著實にして自由なる自然派的技能を以て一種の畫風を顯揚した。之に對抗して保守派の畫風を顯揚するは、必ずや亦一大手腕に待たざるべからず、此任に當つたのが即ちムリリヨである。其手法は既に自然派に近づいたが、其畫題は主として宗教に取つた、ムリリヨは蓋し生涯西班牙の國境を踰えざりし人、其保守的なるは應に然るべき筈であるが、ヴェラ

リベラ

ヴェラスケス

ムリリヨ

畫界のカ

畫題の變遷

宗教畫

山水畫

臺所畫

狩獵畫

佛畫

スケスの革新思想の如きは、寧ろ畫界の豪傑として見るべきものであらう。

總じて歐洲の美術界第十六世紀の終りまで、畫題の常に全く宗教に限られたことは、宗教畫と云ふ物の、凡そ如何なる寺院にも必要なる、即ち經濟的原因と、歐洲人の思想が宗教以外に殆ど何物をも有せざりし、心理的原因とに由ることであらう。既にして教法改革の大事變あり、最も先づ此新思想、即ち在來の宗教よりの解放に到れる和蘭に於いて、第十七世紀の末から、非宗教畫、殊に山水畫の發達せるは、良に以ある次第である。併しながら、非宗教畫の山水畫に入るに至るには、二つの階段を経て居る。第一段は臺所畫、即ち果物、肉、魚、野菜等をまざり、しく寫す所の畫である。第二段は狩獵畫である。獵には生きたる獸類、鳥、人及び死したる獸類、鳥の類を畫くと同時に、多少其景物として、草木、山水の狀を寫すに至るのである。此二段は、非宗教畫の山水畫に至る、飛石であるが、既にして泰平、打續き、經濟發展し、人の心に餘裕を生じ、西洋人も亦自然風景の美を感受し得るに至つて、茲に始めて眞の山水畫を見るに至つたのである。東洋人は初めより宗教に囚はれず、佛畫は常に繪畫の一小部分たるに過ぎなかつた、而して山水畫は、夙に盛であつたのである。



此事は文學に就いても亦言はるゝ西洋文學は、久しき間、唯神と色とのみの文學であつたのである。

近頃我國にて神秘説などを鼓吹せる者があつたが、是は恐らく自ら爾か信ぜざるを、試に鹿を指して馬と云ひ、衆人の顔色を試験せる趙高の類ならまく、ムリッヨが過度にヴェラスケスに比して撥斥せらるゝ(西班牙ですら)今日、我日本の明治社會の學壇に神秘説などを唱ふるは、眞面目の沙汰とは、逆も受取れぬ業である。

昨年の秋、伯林にて中村春雨と云ふ劇作者に邂逅した。其後氏はやがて歸朝して、其第一傑作として、社會劇「牧師の家」を出されたのを、此頃旅程の間に東京朝日新聞で見居る。其藝術上の價値は暫く措き、如何にも西洋今日の社會の縮圖として見らるゝ價値は十分にある。宗教を除けば、潮金平となり、宗教を附け加ふれば、同志社邊りのリヴァイヴァル家となる、其除き去れる、殘滓の如何にも見苦しいので、宗教信者と云ふものゝ地金が察せられ、妻の姦通にて直に覆さるゝ信仰神を除却することの容易なるにて、所謂宗教信仰と云ふものも、亦唯粗末なる鍍金に過ぎざること、が判り過ぎる。さて何故に神を除却することが斯く容易であるか、それは鍍





西班牙國。

馬德里府

イサベル(イサベラ)王后記念像。

對五二九

神學

ムリリヨ  
の不人氣

奢侈

金と地金との間に、性質上の無理があるからである。即ち此兩者の間には、何等化合作用の起らぬのみならず、完全なる物理的粘著も此間に生じ得ぬといふ無理が存するからである。鍍金は不合理を本性とし、地金は漸く合理を本質とするに至りつゝあるからである。さて此性質上の無理は、即ち是れ宗教の不安定性の本原因である。此無理の少き宗教ほど此不安定性は軽減すべく、此無理の少き宗教ほど、時勢の變遷に伴れて、宗教の權威の減殺することが少くて済む次第である。

さて此無理に理窟を付ける爲に、神學と云ふ一種の學問が存する。我々の大學は、法科文理科、醫科及び不幸にして神科を有すと近世の大思想家、大文豪が言うたと、希臘雅典の「アクロポリス」新聞記者の語つたのも面白き申し條である。今やムリリヨの不人氣を、此國の美術家、ユスチは、現今の合理的、非神祕的思潮に歸して居る。「貴國の倫理教育の宗教に頼らぬこそ幸なれ」との讚評は、近頃歐洲に遊べる我國の學者教育家等の、何れも到る處に受くる所の言葉である。神秘論者の、秦の二世頃に出づべきもの、類としてのみ受取らるべきことも彌明かであらう。

奢侈の増進は工業の發達である。農業では奢侈の増進を期することは出来ぬ、

イベリアの風色

三三



奢侈品は必ず一度以上工業と云ふ濾過管を通ることが必要である。故に奢侈の増進は此因縁上から一面に亦社會黨の勢力の増進を速く此事は伯林市を首め工業の隆盛なる歐洲の大都會若くは國家社會の近狀また皆之を證する次第である。五月四日馬德里の大公園ブラドに遊び美術館等を見て復た此感を深うした。今の所謂野蠻人半開人文明人など云ふ言葉こそ片腹痛い。文明人と云へばとて何の完全を要求すべき。されば野蠻人をば開化の第一年生半開人をば第二年生所謂今の文明人をば第三年生と呼び尙第四年第五年此先き幾多社會進化の段階ありとこそは知るべきである。所て美術はどんな地位のものであらうか社會發達に於ける美術の地位を尋ねるならば美術は第一年生では少々達し兼ねるが第二年生では既に然るべき造詣あるもの比々皆是である。第三年生は美術に於いては第二年生を駕すること遠くもあらぬが科學に於いては之を駕すること遠い。さて其も蔭で生活も思想も皆大に面目を改めた併し道理の發達は尙極めて遅々として居る今の所謂文明社會發達第三年生の最大缺陷は即ち是である。併し科學は美術よりも道理と云ふもの、鍵に近づく所以の機關であるとは云へ其

科學の分科的にして渾一的ならざるや是れ其未だしと呼べる譯合である。道理の發展は、どうしても第四年第五年に於いて期すべきものである。

歐洲人の畫題の變遷は既に少しく述べたが今馬德里の新畫廊を見るに許多數ある畫の中々に手法と技巧の上には見所あるが多い。併し其畫題は宗教にこそあらね驚心駭魄人をして肩聳え魂悸えしむるやうのものが極めて多いのである。西洋人の趣味の斯く成り果てたるは畫と云ふもの、美術と云ふものは驚心駭魄底ならてはあるべからずと思ふ癖の固結せると又宗教畫にあまたの世紀以來慣れ來れるの結果であるらしい。平淡高遠之を詩に例ふるならば王孟章柳と云ふが如き趣味韻致は僅に英國の貴族而も其學識ある者の中でウオルヅウオルス等によりて幾分之を解する者を得たるのみの事であらう。

凡そ國家の隆昌と云ふことは詩文藝術其他百般人の仕事の進歩の爲に必要條件である。葡萄牙は嘗てはドム・ヘンリックを出だし、ヴァスコ・ダ・ガマを出だし、さてこそカモエンスも出たのである、今日となりて再びカモエンスの葡萄牙に出てむことを望むも難い事であらう。世の人は多く國運は文藝美術に依りて衰頹すと言



ふが、それは品にこそ依れ、文藝、美術が國運發展の恵みの露に露ひて出て來り、榮え行くに注意するの少きは如何にぞや。

さて國運の極盛より、些か傾き初むる頃に、文藝、美術の目覺ましきもの、出づるが史蹟の常であるのである。併し文藝、美術の隆盛を希はむ人は、必ず先づ國運の發展を先決問題として、希ひ祈らねばならぬ筈である。

イベリア半島の人は、男女共に風采の立派なるが多い、女の美しいことは、西葡兩國を通じての呼物である。尤も婦人の性質は大分違ふ、西班牙は稍、軽く、お轉婆てあり、葡萄牙は稍、ぢみて、洵に情に優しい。併しながら兩國とも、男女間の道德に就いては、頗る悲觀すべき風評を耳にすることが多いのである。西班牙でも、アンダルウシヤは美女を産するを以て有名であるが、イベリア亞米利加と謂ふべき南米諸國に於いて、極めて美しき婦人を見ること屢なるも、斯かる本國を有するからであらう。さりながら、是は見る人の心の所爲であるが、イベリアの人々は、男女とも一般に神經質の表情がある、國柄であるか、人柄であるか。

國運と美術

風姿

#### 四 葡萄牙の古今

ヴァスコ・ダ・ガマの國も衰へたるかな。リスボンの港の貿易の四分は英國の船に依り、三分は獨逸の船に依ると傳へらる。

凡そ國にも、創業の國と守成の國とがある。近世史の劈頭、所謂發見植民の時代の先登として、創業の事を成し遂げたのは、葡萄牙及び西班牙である。之に繼ぎて半ば守成の地位に立てるが、和蘭及び英吉利、就中英吉利の海上の覇權は、クロムウエルの保護執政時代に、和蘭との葛藤の結果、其基を固めた。葡萄牙、西班牙は所謂織田豊臣二氏の地位、而して英吉利は、徳川氏の地位に立つものと謂ふべきである。近頃西大陸の經營にも、蘇士運河にも、埃及經營にも、乃至は科學、文藝、工藝の發明にも、第十七世紀より第十八世紀に掛けて、佛蘭西は如何にも創業的、潑刺の英氣を發揮した。併しながら承けて、而して其美果を賞味する者は、實に英國であつたのである。此關係に於いても、英國は實に守成の國たるを失はなかつた。然るに近

ヴァスコ・ダ・ガマの國

創業の國  
守成の國  
西葡蘭英

佛英獨愛

イベリアの風色



時亞米利加西部の諸の地方、カリフォルニア州、ワシントン州等の開拓に於いては、英人の事業は殆ど全く創業に傾き、守成の利益は獨逸人、愛蘭人、以太利人の占むる所となりつゝあると云ふ。抑機運の變、英人の長所をも一變したのであらうか。將た亦創業は元氣の壯なるを意味し、守成は元氣の衰へ始めたるを意味し、他人の創業を承けて而して守成の利を占むるは世界に於ける國運の地位の創業者よりも優勝なるを意味するものでばあらうか。

リスボン

リスボンは、タグス川の河口を上る約七里の地に在り、佛蘭西のポルドオに似て、而してタグス河口の山河の峻要は、復にポルドオを凌駕し、港の所在、川幅の大に擴まり、寧ろ一個の湖水を成して居る點に於いて、亦大にポルドオを凌駕して居る。リスボンは實に天然の形勝を占め、而して其西大西洋に向ひつゝある點に於いて、大西洋が歐洲の對外經營の大なる公道であるべく、始まりし時代に於ける、最先登國、最先進民族たるべき運命に適合せる者であつたのである。斯かる形勝を占め、ヴァスコ・ダ・ガマの船を醸して、印度洋を發見すべく出發せるも、即ち今我輩が杖を立てつゝある所の此地點、タグス川の右岸よりせるのであるが、何故に、此國が古と今

衰頹の變

と、甚だ多く、其盛衰の變を來たしたのであらうか。

第一 衰頹の原

抑葡萄牙の衰頹の原因は、凡そ四つを數へねばならぬ。

第一は、斯く歐洲列國に先んじて海外經營の先登者となつた所から、航海植民の事業は盛に行はるゝに至つた、是れ固より避くべからざる必至の勢である。さて航海植民の結果として、勇悍にして、且有爲なる民は、絡繹として外に向つて遠征する、固より因循姑息、一日の安を己が生國に愉むが如き者は、到底航海植民の快事業を爲すに堪へぬ、外に向つて進む者は、殆ど皆國民の中、此標準に於ける、僞英、勇悍にして有爲なる民であつたのである。然るに葡萄牙の國は、今にして人口僅に五百万を有し、歐洲中の頗る小國である。此小國よりして、西半球は言ふに及ばず、東半球の一角にまでも盛なる發展を爲すべく、勇悍にして有爲なる僞英を年々送り出すに於いては、其國中に残る所の民、力國力に及ぼす影響は、頗る重要なるものがなければならぬのである。是は福却て禍を爲すの類で、確に葡萄牙の衰頹の一大原因を成したのである。

第二には、黒奴の輸入である。此事は千四百四十一年に、ヌノ・トリスタンが始め

第二

イペリアの風色



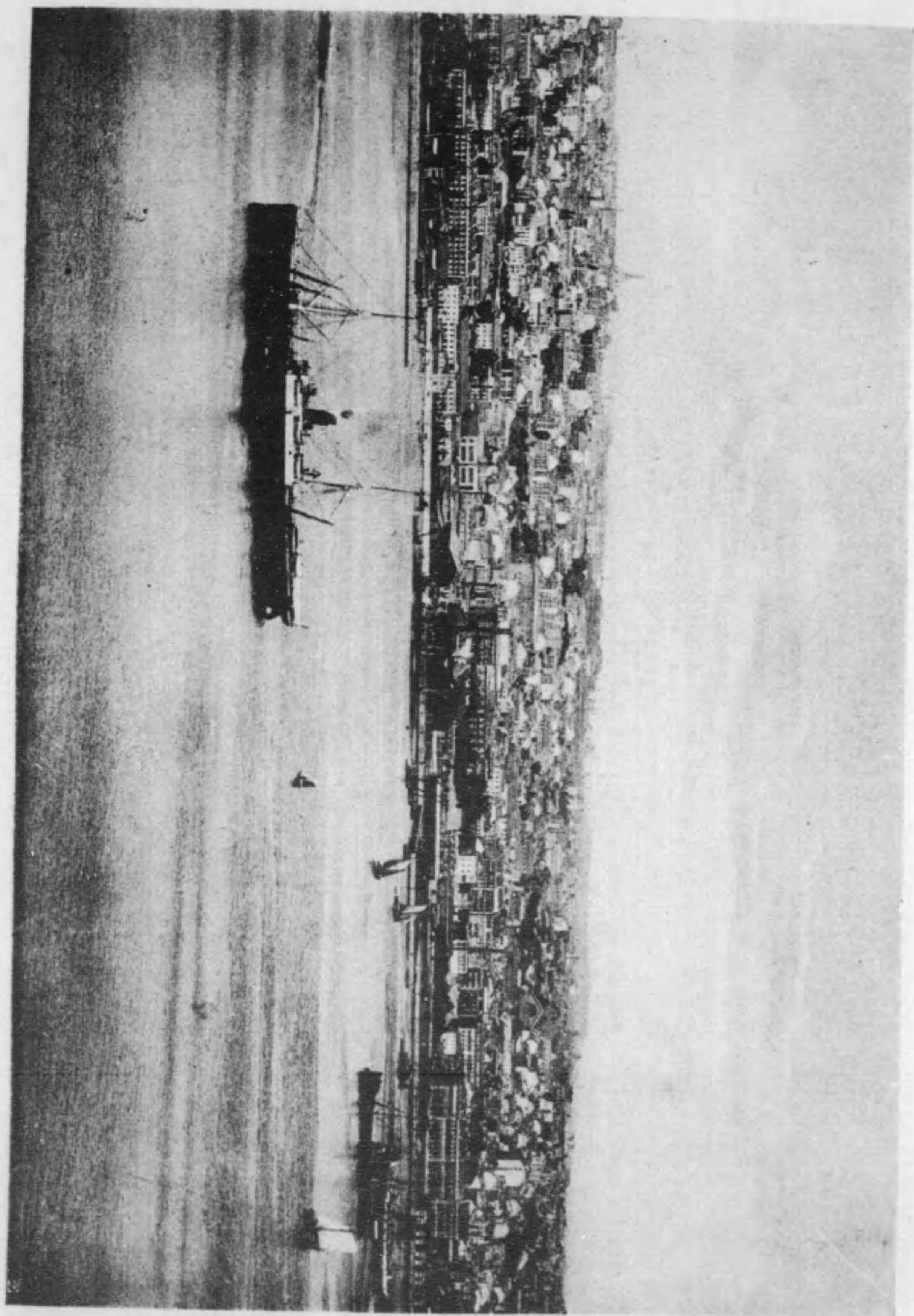
て黑人を伴れ來りしに起り、爾來前條にいへる勇悍にして有爲なる生粹の葡萄牙ッ兒の缺乏を補ふべく盛に輸入し來つたのが毎に此黒奴である。黒奴の輸入が盛になつてから、農業は益、低廉となり隨うて遊民を生ずること夥しく、斯かる遊民は益、海外に追ひやらるゝ。即ち經濟上の氣壓の差が、海の内外に於いて著しくなる所から、益、海外に向つて國民を追ひやるの結果となつた。

## 第三

第三には猶太人の逐斥である。インマヌエル王の時に、耶蘇教に改宗することを肯んぜざる猶太人を、斷然國外に逐斥した。猶太人は、多くの點に於いて、今日と雖も歐洲人に誤解せられ迫害せられ、又猶太人の逐斥は、直に國家の統一のため、利益あるかの如く言ひ囃さるゝが、少くも葡萄牙に於ける猶太人は、産業に於ける一日の長を有し、正直の點に於いて亦決して葡萄牙人の下に落ちず、智識に於いては、却て一般葡萄牙人を凌駕する。斯く、猶太人の逐斥は、斯かる多くの長所を有する社會に於ける良階級を逐斥するの結果となつた次第で、是れ亦葡萄牙の産業上の發展發達に對して、餘り少からざる打撃損失となつたのである。

## 第四

第四は宗教上のインキジシンの制度である。宗教上の迫害拷問の如き仕方は、





葡萄牙國。

リスボン府全景。

テホ(タグス)河より見たる處。

面從腹非  
の養成

過去の國

國民の男らしき性を消耗するに極めて有力である。斯かる惡制の續く間、國民は頂天立地、獨立不羈の性情を發揮すること能はず、方法は違ふが、結果に於いては、支那人の所謂支那人根性を馴致せると、甚だ相似たるものがあるのである。支那の教が必ずしも然りてはないが、所謂科擧の法に依り、官僚の階級を作り、而して其社會が相當に大なる所から、面從腹非の惡癖が、世代に世代を重ね、世紀に世紀を累ねて、深みより深みへと進み行ける如く、羅馬舊教の教法改革時代に於いて發生せる此病的制度は、葡萄牙人の男らしき性を消耗し、而も其應用たるや、單に宗教に於いて之を見るのみならず、更に政治にまで害用せらるゝに至つて、益々國民の獨立不羈の氣象を害するに與つて力あるに至つた次第である。

斯の如くにして、葡萄牙も最早過去の國となつた併し、ながら過去を有するだけ、之を芬蘭に比ぶれば、尙幸福と謂ふべきである。さて南亞米利加の曠野に、所謂處女的原野の濶らかなる所にイベリアの古き民族の萌蘖は大なる希望を表して繁茂に向ひつゝある。嗚呼、イベリアは、竟に希臘羅馬にして、而して墨西哥以南の大陸は、やがて第二の歐洲たらむとするであらうか。



### 五 葡萄牙の風俗

面白き風

葡萄牙では、西班牙にも増して、更に一般民間の風俗の面白き點がある。一般に舞踊を好むことが甚だしい、而して俗樂の發達は甚だ著しいのである。是等舞踏俗樂、乃至一般風俗に於いて、西班牙葡萄牙まで我輩征鞋を進めつゝある間、知らず識らず、純粹の歐洲を去つて、更に東洋文明の薰風に接しつゝあることを感ずるのである。

舞踊

此國の舞踊は、極めて拍子の靜かに、且緩かなる、ムウア式即ち回々宗亞刺比亞人式の踊である、即ち我々日本人などが踊と云へば必ず想像する所の適當なる拍子に於ける踊である、歐羅巴列國の寄席などに見るが如き、忙はし氣なる、殆ど何等の節奏無く、乃至拍子をも認むべからざるが如き、短促なる、卑野なる、而して子供じみたるものとは甚だ違ふのである。さて此踊に伴ふ所の音樂は、殆ど常に短音階である、短音階の俗樂は、是れ取りも直さず東方式の樂調である。此國寧ろ此半島で

俗樂

調度什器

農車

はれつる

店飾り

手招き

は、右の如き舞踊の式、右の如き音樂の調が普通であつて、却つてピレネエ山下の山深き田舎に入ると、其處に往々羅馬式、若くはゴット式の踊や、或は樂調を今尙存するといふ次第である。

イペリアと東洋との似通ひたる點は、音に人心自然の發表とも謂ふべき、舞踊及び音樂に於いてのみならず、日常の調度什器等に於いても見ゆる。一寸目につく二三の例を擧げるならば、農業上に用ゐる車が第一奇妙なる者で、穀あり幅あり、而して輪ある所の車に非ずして、一つの厚き大なる板を圓盤に廻つて、其中心に軸を通して、以て車と爲す、實に我國の上世に於いてとも見らるべき所の式である、殆ど先史的の器具と云はねばならぬ。井の水を汲むには、桔槔を用ゐる、之を亞刺比亞ではシャドフと云ひ、其錘は多くは石で、釣瓶は多く繩で繫いである、斯かる桔槔が、村里到る處に見らるゝのである。市街に行つても、店飾りは多く窓硝子無く、開放しの大なる室で、恰も我國の店の如く、即ち東方式の店飾りをやつて居る。西洋では、人を手招きする時分に、我々の物を追ひやる手つきを爲し、若しも我々が手招きをする手つきをすれば、今や向ふへ去りつゝある者が、益、急いで去つて行くといふ次第

イペリアの風色

三六



顔つき  
醉狂者

第てあるが、葡萄牙の手招き及び追ひやりの手つきは、正に我々日本人と同様である。即ち純然たる東方式の事が斯かる些事にも現れて居る。右の如く一體に、南葡萄牙の風俗は著しく東方式である。随うて人間の顔つきなども實に著しくムウア式、刺比亞式となつて居るのである。斯かる事に伴ふ一の長所として、醉狂者が甚だ尠い、兎角耶蘇教社會には、醉狂者が名産物であつたのを、近頃百方之に對して方法を講じて、其禍を軽減するに至つたのであるが、回教國には、本來此弊が甚だ尠い。基督教國の酒と支那の阿片とは、或は對句として數へらるべきものであつたかも知れぬ。

### 六 教育

佛語

イベリア半島の教育は、概して言へば餘り樂觀すべからざるものが多い。佛蘭西とは兄弟の民族でありながら、佛語を話す者が極めて尠い、外國より遊ぶ者の比較的尠い爲でもあらうが、併し中等以上の教育を受けたる者の割合に尠いことが

大學

サレスイ  
フェレ教  
授

普通教育  
宗教

私立學校

之にも見ゆるのである。

西班牙葡萄牙の人口二千三百萬、而して西班牙には大學が十校、葡萄牙には二校ある。併しながら概して其程度は頗る低い。バルセロナの大學及び馬德里の大學は、我輩親しく參觀した所であるが、是等と雖も、其程度は餘り高いとは云へぬ。馬德里大學社會學の擔任教授、サレスイフェレ氏と會見して、此國の教育及び學生の傾向等に就いて談話を交換した、氏は折柄病後で、餘り多くも語らなかつたが、要するに大學は未だ餘り發達せざる、而してなまじひ我國では却て歓迎せられつゝある所の學級制度で、講習の自由、授業の自由の如きは、殆ど未だ此國の大學には之を見ることが出来ないのである。

普通教育に於いて、宗教は今日は既に幾分進める關係に於いて在る。全體西班牙の小學にも、中學にも、公立の外に私立がある、私立小學若くは家庭教師の教育を受けたるものは、中學に進むに際して、入學試験を受くることを要する。私立中學では、年々三人の中等教員より成れる試験委員を文部省から任命して、其試験を受けたる者に非ざれば、高等の學校に進むことを許さぬ。凡そ宗教は隨意となつて

イベリアの風色



宗立學校

居る學校の德育は、特に設けたる科目としては宗教の外には無いが、併し宗教の選定が隨意なるのみならず、生徒は全く學校にて宗教科の授業を受けぬことも亦自由である。ところで寺院も亦學校設立の權利を有し、事實頗る多くの學校を設立して居る。是等の學校にては固より宗教を授業する。但し國家からは是等の宗立學校を見るには、全く上に述べたる私立學校の取扱で、生徒は同様に檢定試験を受けさせらるゝ、即ち全く國家の監督の下に在りて、何等の特權を有せぬ。寺院の外に婦人團體も亦多くの學校を設立する。是も亦宗教的で、而して其監督取扱は、勿論私立學校としてである。文部省よりは、毎三ヶ月に、一回必ず視學官を派遣して、是等の學校を巡見せしむる。佛蘭西に於けるが如く、今の所此國には、右の如き宗立學校閉鎖の運動も無ければ、又斯かる政策を試みむとする政見も、此國には未だ其芽生を見ない。

婦人立學校

地學協會

葡萄牙の地學協會こそは、流石に此國の過去を語るべく、他國に一す例を見るべからざる壯大なるものである。中央に四百、全國に三千の會員を有し、獨り地學者に限らず、此國に於ける凡そ學識ある知名の士の協會にして、かつ俱樂部たるの性質を有する。植民風俗の陳列館大會場の廻廊の二階三階に一杯、參考となるべき種々の物件が陳列されてある。其外に小會場があるが、是とても坐席四百を備へ、ガマ、ヘンリック、カモエンスを首め、此國從來の不朽の人々の像を以て裝飾してある。此國に今日此協會あるは、尙エリート、僑英が悉く没落し切つたのでないといふ證據として、聊か人意を強うするものがある。

地學協會の事業の一つとして、此建物の一部に、植民學校が設けられてある。三年の期限を以て、専門學校程度に準據し、植民地の地理、物産、經濟、法律等、必須の學科を授くる仕組である。尤も生徒の數は百に満たぬ。

植民學校

馬德里の電車は外人の企業に係つて居る。リスボンも大方はそれに相違ない。蓋し他の事物に比べては立派に過ぎて居る。文明國にも斯かる事あらむとは思ひも寄らぬことであるが、伯林の水道も嘗て、一たびは外人の事業に係つたこともあつ

七 今古の心

馬德里の電車は外人の企業に係つて居る。リスボンも大方はそれに相違ない。蓋し他の事物に比べては立派に過ぎて居る。文明國にも斯かる事あらむとは思ひも寄らぬことであるが、伯林の水道も嘗て、一たびは外人の事業に係つたこともあつ

電車の外



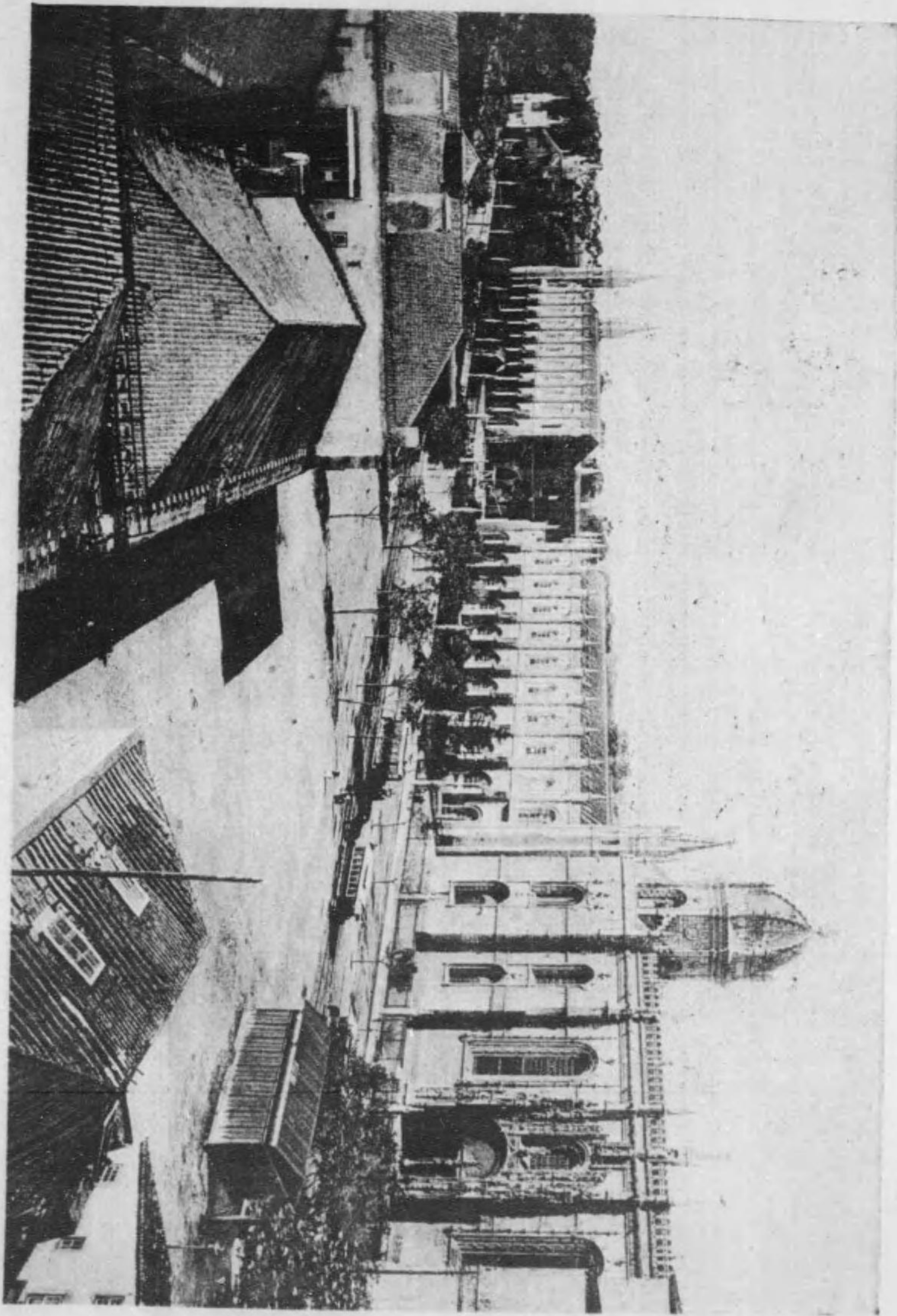
たのである。

見ベレム所

ベレムはリスボンの西郊で、此處には大なる僧院、寺院あり、今は孤兒院と變つて居る。其建築は、回教趣味、殆ど印度趣味をさへ交へたるもので、是こそやがて此國の縮圖とも見らるべきものであらう。總じて、同じく歐羅巴の南方に國するとは、云へ、以太利とイペリアとの差の著しきは、斯かる東方即ち亞弗利加亞刺比亞趣味の夾雜に在る。

此地點

此ベレムの寺院の前なるダグス河畔より實に葡萄牙民族の過去を飾る所の大なる航海は、纜を解いたのである。バルトロメオデアズが千四百八十六年喜望峰發見の航路に纜を解いたのも實に此地點である。ヴァスコダガマが千四百九十七年六月八日に印度に向つてその大航海の途に上つたのも、此地點であつたのである。ヴァスコダガマは千四百九十九年九月にリスボンに歸著した。然るに當時我國は如何であつたかと云ふと、歐洲の最大先進國に對して、餘り多く遠洋航海に於ては遜色が無かつたのである。デアズ、ダガマの海上活動に先だちて、八幡船は、比年南海支那海を荒しまはり、支倉六右衛門が彼等の航海よりも更に長程の航路を取





葡萄牙國。

リスボン西郊、ベレム、

ヘロニモス寺。

氣候

水田と氣  
候

汽車の蜂

つて、太平洋より墨西哥を経て羅馬に至り、併せて西班牙に至つたのは、慶長十八年六月廿七日、松島群島の月浦から、是より約百十年、千六百十二年の事たるに過ぎぬ。乃ち當時の世界に於ける發見、植民の最大、先進國と、時期は、少しく後れ、而して其事業は、更に大なるものありと云はねばならぬ。

全體氣候の點に於いて、日本とイペリアとは、稍、近き點がある。併し我日本の氣候は、同緯度の外國に比ぶれば、確に十度は緩和である。是は四海環海と云ふことによるは、勿論であるが、水田の關係も大なることであらう。門田の稻葉おとづれて蘆のまろ家に秋風ぞ吹くと、古よりもいふのみならず、我輩の田舎の住居の涼味清味は、三伏の夏の真中に於いて、亦實に水田の賜である。此事だけはイペリアと日本との正に反對なる點である。我輩は今や實に焦土の野とも謂ふべき西班牙、葡萄牙に遊んで、最も痛切に故園田風の清味涼味を想ひ起さざるを得なかつたのである。

リスボンより馬德里に歸る汽車の中で、小さな蜂が一つ汽車の室内に紛れ入り、頻に翼を鼓して、窓の外に飛出てむと焦る。蓋し光明と自由と活動とを求むるの



である。唯、夫れ人間と云ふものから見れば極めて簡單なる汽車の入口出口の結構が、蜂から見ると錯雜迂回、到底夷の思ふ所に非ず、されば蜂は遂に斃るゝまでも相當なる出口を辿りて出づる途を知らぬのである。若し夫れ之を知ることさへ能くするならば、其翼の力で一鼓一瞬の勞にして足る、實に憫むべきは無智なる蜂である。

抑々氣候が熱くなるほど、蜂の焦り方は甚だしい。我輩が葡萄牙に遊ぶの前々年、千九百八年の春、國王及び王子が弑逆の災に遭ひ、我輩が葡萄牙に遊んで僅に五月、而して最近の革命あり、國王は其位を退かれ、共和政府は組織された。併しなから斯かる政體の變革を以て、葡萄牙の國運が充分に其頼りて進むべき途を見出したとすべしや否やに就いては、獨り葡萄牙人のみならず、世界も亦未だ充分に見据ゑを付けて居らぬのである。

アナトオル、ルロワ、ボオリウは、曾て露西亞を呼びて半歐半亞と謂つたが、今我輩はイベリアを呼びて半歐半弗と謂はうと思ふ。地味然り、生活然り、動植物然り、而して人亦然り。西比利亞沿線は、之をイベリアに比べて、其土地の開けたる、其經濟

蜂の神秘  
主義平和  
主義社會

葡萄牙の  
革命

半歐半弗

シベリヤ  
とイベリヤ  
ア

の進める、多くは遜色無い。況して西比利亞の土地は、俗に所謂處女的であり、イベリアの土地は所謂老婆的である。此點は全く正反對と云はねばならぬ。露西亞を開導して之と提挈するの策は、得か將た失が、政治家の深く將來に考ふべき所であらう。イベリアに就いては、我輩亦若干の詩句を作るを禁じ得なかつた。形勢西陲に縮まり、莽蒼として霸氣銷す、此國に遊び、此國の古今を見、蕭條たる風物に接し、其浮華ながらも歴しき人に會へば、感慨轉た多きものがあるが、國際上の大なる、有力なる一の單位として、此民族を見む時は、餘り近き將來には容易に復たび到らぬことであらう。



西班牙旅中即日  
形勢西陲蹙。莽蒼朔氣銷。林荒山骨露。  
教廢寺僧驕。乞丐路傍睡。鐵車軌上跳。  
村園看敗屋。宮闕入雲霄。人競鬪牛技。  
女爭羅綺嬌。關龍遺像在。功烈迹迢々。  
右排律一首。體雖類狂詩。而此國民政之  
實情。然也。聞龍紀念高塔。半島到處在焉。  
空紀昔時之隆運。今也教育不振。寺僧驕。  
鐵車跳。王宮所費已累三千萬金。尙未竣  
功。第八句故及。庚戌孟夏五月四日。

## 第十一 澤國の新緑

### 一 水の國

歐洲の南隅、氣候の早くも夏に進めるイベリア半島の旅より、五月九日、馬德里を  
出發し、アラゴン、カスチリア地方よりは、土地の礫礫不毛の度は稍薄いが、而も風物  
の尙落寔を免れざる、北西班牙の地方を経て、樹木鬱葱、平蕪迢々たる佛蘭西に入り、  
巴里に二泊して、直に北方、白耳義及び和蘭の視察に進んだ。是等の地は、固より先  
年既に頗る視察を費した所であるのと、國境の甚だ小なるとのために、無益に時間  
を空費することなく、事は甚だ簡単に済んだ。

五月十二日、白耳義に入り、五月十四日の夜、和蘭に入る。和蘭は流石に女皇陛下  
の國として、天然も人も共に水々しい。全體和蘭の地は、其名のオランダ又はニイデ

ピレネ  
山の陰  
山

水々しき  
國



ルランド、孰れも皆窪地若くは低地を意味し、概して土地の水準は海面より低く、海面に向つて突堤を築き、埋立、殊に排水工事を施して、以て次第に陸地を増加するの方針を執り、其成績として大部分を作り成せる國である。低地と云ふも甚だ無風流であるので、斯る國こそ、眞に澤國と唱へて然るべきであらう。現今にても此國の北方グロオニンゲン地方の排水事業は最も標本的のもので、數萬千町歩の海面は、是に依て次第に原野及び農圃と化せむとしつゝある。既に陸地に化せる所ても、絶えず排水事業を行ふに非ざれば之を利用することの出来ぬ地方が多い。而して此排水事業の爲には、主として天然の風力を利用する風車を用ゐ、其數全國に於いて三十六萬七千臺に上つて居る。風車の拵へ方は、四つの羽根を十字形に組立てたるもので、羽根の長さ約三間、即ち直徑六間の大廻轉を爲すものなるが故に、相當に風のある日でも、風車の廻り方は、洵に悠々緩々と見ゆる。一望目を遮るもの無き、青々とせる、迢々たる平蕪の野に、此所彼所高さ八九間にも及ぶ所の風車臺の見ゆるのは、如何にも悠々たる野田の趣を表はすもので、和蘭より北獨逸にかけての野の景色を描く所の畫家が、好んで之を畫題の中に編み込むのは、良に以、ある

## 風車

事である。

斯かる國なるが故に、此國には「ダム」の附いた地名が多い。和蘭の最大都會アムステルダムは人口四十五萬を有し、第二の都會ロッテルダムは人口二十七萬を有する。「ダム」は堤を意味し、潟を意味する。我國の北陸道より日本海沿岸地方には、多く「潟」を冠せる地名がある。また湖水は多くは之を潟と呼ぶ。加賀の北山潟、越後の福島潟、鎧潟、鳥屋野潟、燒島潟、羽後の大潟、八郎潟、比々皆是れ、隨うてその地名にも、亦新潟の如き、最も著名なる土地として顯れて居る。實にアムステルダム、ロッテルダムの如き、和蘭の都會と、我日本に於ける新潟などとは、極めて著しき類似點を有する都會である。和蘭の都會は、斯かる地勢の必然の結果として、必ず溝渠が縦横に通じ、市街に於ける交通路ともなり、又排水道ともなつて居る。併し以太利のヴェネチアに於けるが如く、道路の代りに溝渠あるに非ずして、矢張溝渠は溝渠、道路は道路であり、概して溝渠の兩岸には然るべき道路あり、此道路に對して家屋が造られてある。而も斯かる溝渠は、多くは規則正しき直線を成し、概して又縦横に交叉する、其狀、正に越後の新潟と同じ。

## ダム

## 潟

## 新潟



ダロツテル

獨逸と和

世界列國の大勢

新、潟、の、地、勢、は、殊、に、ロ、ッ、テ、ル、ダ、ム、と、最、も、多、く、の、類、似、點、を、有、す、る、。　ロ、ッ、テ、ル、ダ、ム、は、ラ  
 イ、ン、河、の、口、に、在、り、即、ち、源、を、瑞、西、の、山、中、の、湖、水、に、發、し、其、上、流、に、は、ケ、ル、ン、を、首、め、幾  
 多、の、商、業、及、び、製、造、工、業、の、繁、盛、な、る、大、都、會、を、有、し、今、は、獨、逸、の、版、圖、の、内、な、り、と、雖、も、  
 殆、ど、獨、佛、兩、國、の、重、要、な、る、水、運、流、域、と、な、れ、り、し、ラ、イ、ン、河、の、河、口、を、扼、す、る、の、地、勢、に  
 在、る、か、ら、洵、に、形、勝、の、地、で、あ、る、。　若、し、も、ラ、イ、ン、河、の、霸、權、を、充、分、に、把、握、せ、む、と、欲、す  
 る、も、の、此、地、を、握、る、こ、と、を、得、ば、其、勢、力、た、る、や、絶、對、な、る、も、の、と、な、る、。　而、し、て、今、や、ラ  
 イ、ン、河、は、獨、逸、に、屬、し、ロ、ッ、テ、ル、ダ、ム、は、和、蘭、の、要、港、で、あ、る、。　獨、逸、と、和、蘭、と、が、國、交、關、係  
 の、圓、熟、せ、る、も、の、あ、る、間、は、兩、國、相、待、ち、相、倚、り、て、俱、に、其、福、利、を、得、る、こ、と、で、あ、る、が、若  
 じ、も、兩、國、の、國、交、關、係、一、朝、不、祥、な、る、事、あ、り、と、せ、ば、共、に、損、害、を、受、く、る、も、の、は、兩、國、及  
 び、此、流、域、に、棲、息、し、事、業、を、經、營、す、る、兩、國、の、臣、民、で、あ、る、。　斯、の、如、き、政、治、上、外、交、上、の  
 關、係、は、新、潟、に、は、無、い、が、併、し、新、潟、が、信、濃、川、の、河、口、に、據、有、し、て、居、る、其、狀、勢、を、以、て、す  
 れ、ば、ロ、ッ、テ、ル、ダ、ム、の、樞、要、な、る、地、勢、は、直、ち、に、了、解、す、る、こ、と、が、出、來、る、。　故、に、和、蘭、が、ロ、  
 テ、ル、ダ、ム、の、河、口、に、要、塞、を、築、く、と、云、ふ、の、議、は、痛、く、歐、洲、外、交、家、の、神、經、を、刺、戟、す、る、に  
 至、り、和、蘭、女、皇、陛、下、の、皇、配、が、獨、逸、聯、邦、メ、ク、レ、ン、ブ、ル、グ、シ、ウ、エ、リ、ン、大、公、國、の、大、公、で

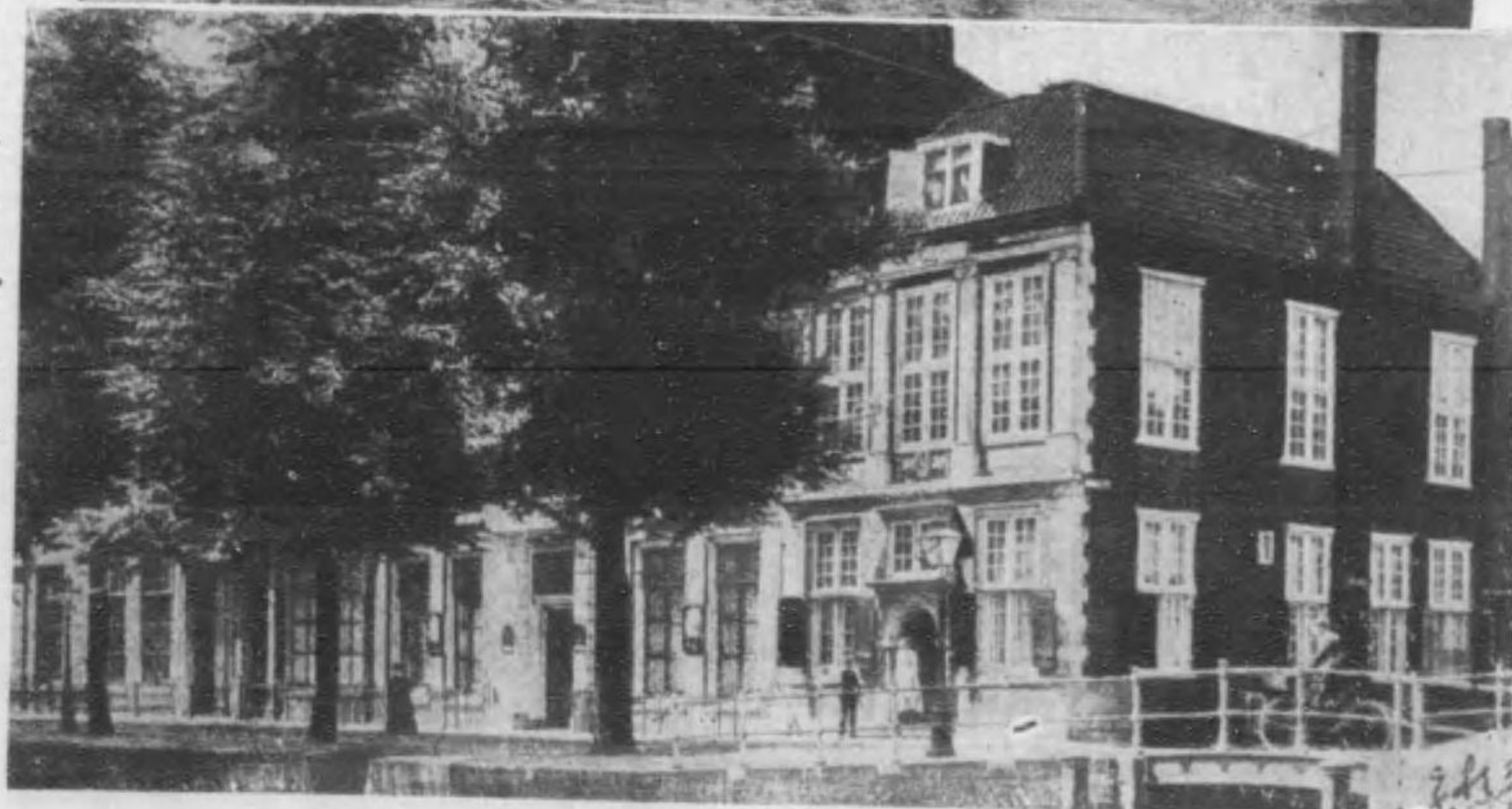
三



和蘭國海牙府



スヘヴミグンの海水浴場



ライデン市



ダム

美人

婦人の口

ライデン

あ、らせらるゝと云ふ事の如きは、當初は鮮からず、歐洲外交界の耳目を聳動したものであつた。幸か不幸か現女皇陛下には久しく王子が在らせられなかつたのであるが、其問題も近頃漸く解決を得、兎に角次第々々に歴史の進程は、和蘭及び獨逸兩國を接近せしむる方面に向つて進みつゝあるやうである。

堤を意味する「ダム」は、婦人を意味する「ダムム」と必ずしも同意義でないかも知れぬが、洵に「ダム」のつく和蘭の都會や、新潟、金澤——潟と云ひ澤と云ふ、孰れもみな水に縁ある水々しい土地でなければならぬ——に於けるが如く、兎も角もこれらの國は美人を以て有名である。成程、阿姆斯特ダムにせよ、或は海牙にせよ、婦人の口は頗る大である。蓋し婦人の口の大きなるは、婦人が相當に心に餘裕ある生活を爲しつゝある、言葉を換へていへば、女の繁昌の目標といつて宜しい。ライデンの如きも、亦此國の都會の例に漏れず、一つの愉快なる水郷で、嘗て此國の海上の覇權の隆々たりし時代に於いて、夙にライデン壘の發明あり、電氣學の發達上著しき貢獻を爲したので有名であり、殊に和蘭の東印度經營の關係上、及び徳川時代の當時に、和蘭のみが我國と通商を許されて居つた關係上、ライデンの博物館、圖書館は、東洋



研究者の必ず見舞はなければならぬ所となつて居る。

## ニ 生活の同趣異趣

海牙

「 Haag は港を意味する、恰も青森縣に大湊あるの類で、此地海牙が今日和蘭の首府となつて居る、千八百九十九年以來、露帝の提唱に係れる萬國撤兵會議、及びその結果として成立せる萬國仲裁裁判所に依て、世人の記憶に常に新たなる所である。此土地の全名がスグラアフェンハアゲン、先づ濠の港とも謂ふべき所である。世間では、即ち英吉利ではヘエグと名づけ、佛蘭西ではラ・エエと名づけ、全く港と云ふべき土地となつて居る、丁抹のコオベンハアゲン、獨逸のハアフェンを附けたる地名、ウアルヘルムスハアフェン、ブレエメルハアフェンなどと同じ關係である。

森の宮

撤兵會議の會場に充てられたるは、海牙の東十町許りなるホイステンボス(森の宮と云ふべき)離宮である。和蘭一體、今や新緑の眞盛りで、殊に、其水に富める、濕潤せる、空氣の氣候は、到る處、樹木を滴らむばかりの縁に、潤はしめて居るが、殊に、此森

撤兵

の宮は、其名の表は、す如く、極めて鬱蒼たる樹林の中に、風流なる、而も威嚴ある、莊麗なる規模の餘り大ならざる離宮の一構へを成して居る。丁度此時より十一ヶ年前、千八百九十九年の五月十八日、正に此月此日に於いて會議は開かれた。如何にも世界の歴史に或る結果を残さむとせる抱負を以てせる、而して其事業目的の兎も角も平和に存する企としては、斯かる土地に於いて、會議の催されたるは、至極映りのよき事であつたであらう。併しながら撤兵と云ふ事は、學者の眼から見ると、餘りに突飛なる話で、到底斯かる提議の行はるゝに至らず、僅に陸戦例規の上に若干の修正を加ふるを得たると、萬國仲裁裁判廷の常設を議決せるとが、第一回會議の結果であつたのである。第一回既に斯の如くであるから、其以後に開かるゝ會議も、餘り多く世間の注目を惹くには至らなかつたが、併し多少の痕迹は之を留め得たには相違ないのである。

海牙より電車、北の方二十分にして海岸に達する。此海岸には、頗る規模の大なる海水浴ホテルが數ヶ所建つて居り、其外、別荘が若干建つて居り、スヘヴンゲンと云ふ頗る有名な海水浴地を成して居る。海岸は恰も我新潟に見るが如く、高

スヘヴンゲン



海水浴場

からざる砂丘の連続である。併し風は日本海岸の如く餘り強くないものと見え、此砂丘を平げて若干の土工を施し、之にホテル其他の莊大なる建物が建て、ある。電車は勿論直に海岸にまで達する。此海岸より海中に、長さ約二町の堅牢なる、幅廣き棧橋を築き出だし、其棧橋の末端に建坪約百坪にも餘りぬべき音楽堂あり、而して此音楽堂の周圍は幅廣き廻廊となつて居り、此所には所々、繪端書、雜貨等の賣捌店、及び珈琲、麥酒等を飲むべき茶屋が出来て居るのである。右の構造は、正に英國のブライトン其儘で、唯、ブライトンが、是よりは五割方規模の大なるだけの違ひである。海濱の光景も陸に怪岩奇石、山丘林麓の壯觀あるに非ず、水に巖を嘯み白珠を躍らす、所謂「危礁亂立」す大濤の間の壯觀あるに非ず、遂に皆を決するも、遠くは「西南不見山」の偉觀なく、近く亦何等瀬戸内海若くは瑞典、芬蘭邊に於けるが如き美觀あるに非ず、至つて平凡なる所である。和蘭人の趣味とは、英人の趣味とは、唯、摸倣に依つて、斯く同様なる海水浴場を設計せるに止まらずして、先天的に頗る亦似通ひたる所があるものであらうと思はれる。唯、海牙よりスヘヴニンゲンに至る電車通りは、例の滴らむばかりの新緑の中、實に心地好き、清淨にして瀟洒たる森の

趣味に於ける蘭人と英人

下道を迫るのである。

蘭と白  
臭味と佛

和蘭と白耳義とは、共に是れ佛獨北方の低地に占據せる、稍、兄弟の國とも謂ふべき關係に於いて在るが、併し此兩國の趣味よりすると、和蘭と白耳義とは、臭味と佛臭と、判然として差異がある。海水浴場の設備に於いて、既に和蘭は英吉利と頗る似通うて居つたが、其他庭園の作りにおいて、又其建築に於いて、比々として似通ひの點を認むることが出来る。庭園は、英國風に於いて純然たる幾何學的若くは幼稚園式を離れ、幾分我國の造園の趣味に接近するが、和蘭は、必ずしも其國が夙に東洋と交通を續けた爲でもなからうが、頗る亦歐洲大陸に所謂英國風の庭と云ふ趣味を發揮して居る。建築に於いては、外面の華奢は毫も尙ふこと無く、精黒き硬き煉瓦を用ゐることが専ら行はれ、殊に窓を取ることが甚だ多く、且、廣い。我東京で、ニコライの僧院に見れば、其窓の小なるは殆ど我國の土藏にも劣る。我國の普通の官衙で見ると、窓の幅は、建物の壁の總幅の四割くらゐに過ぎぬ。然るに英國及び和蘭の普通の住居では、窓幅は、通例建物の總體の壁幅の中、約七割に達する。和蘭でも亦英國と同じく、土臺より、屋根まで、が一軒家である、即ち一階は甲某の居住、

庭園

建築  
窓

土臺より  
の屋根まで  
の一軒家



窓の形

二階は乙某の居住と、横に居住の區域を別つことなく、我國に於いて普通なるが如く、一階に住む人は其頭の上なる二階をも占領し、又其頭の上の三階をも占領すると云ふ仕組である。是は勿論我國人の當然と考へる事であるが、歐洲大陸としては、實に極めて異様な除外例となつて居るのである。窓の形は、歐洲大陸では一般に開き戸であるが、和蘭だけは重ね戸が多い。我國では、米國邊りから所謂西洋建築の手法を取つて來た者が多いらしいので、重ね戸が一般であるが、是れ亦和蘭のみが、歐洲大陸で餘程珍らしき一つの特色を有して居るのである。勿論是も亦英國に於いて最も多く見る所である。食事、に於いて、中食を簡單にする風は英國の特色で、而して和蘭に亦専ら行はるゝ所である。是れ亦歐洲大陸に於いては甚だ珍らしい例である。

食事

宗教開つ  
風俗くつ

斯の如き有形的生活の特色からも、容易に待設けらるゝ如く、白耳義から和蘭に入り來ると、宗教も亦一層開けたるを感ずる。風俗にも、寛きあり、人間の交際は、一層窮屈なる事が少くなる。唯、餘りに是等の點に於いて總べて寛きのある英國に似通うて居る所の一つの事象として、和蘭の官吏の稍、要領を得ぬは多少著しく感

和蘭の官吏

ぜざるを得ぬ。尤も要領を得ぬと云うても、用事が足らぬと云ふのではない、詰まり官廳の分擔、職責と云ふが如きが、餘り判然として居らず、不言の間に結果を收むる言はゞ行政上の不文法が行はれて居ると云ふが如き状態を指すのである。併し人々は言ふまでもなく親切である。官吏たる人々は、固より皆適當若くは適當以上の頭腦を有し居る。形式上の官僚政治が、餘り多く發達して居らぬと云ふだけである。

長短

和蘭の官吏任用法は、頗る自由なるだけ、其職務に通ずるの必ずしも熟せざる所があるやうである。若しも熟して居る場合には、専門に分れ過ぎて、一般的綜合的智識を缺くが一の缺點である。例へば我輩が自治村視察と云ふ標題を掲げたときに、内務總務長官は我輩を農務省の局長に送り、農務局長は我輩を農學視學官に送り、さて能く説明すると、何れも只管に自治村にて何を視察せむとせらるゝか、産業組合か、農事か、將た學校かと問うて休まぬ。渾一體としての自治村の最も視察に値するを知らざるが如くに見えた。そこで或る官吏は、稍之を了解したやうで、村落生活の視察とまで漕付けたが、さてそれには、數十日、數月、若くは數年の仕事であ



術美學科と術美學神



蘇耶の後磔クイダツァフ



圖剖解のトンラブムレ

餘りに素  
人じみた

白の官吏

文部官

司法省

世界列國の大勢

五〇

ると言ふ。生理學病理學の智識ある醫師が、病者の診察若くは健康診斷を爲すには、十五分又は三十分にて事足ると同様、一般的概括的智識ある者には、特別の自治村の視察にも、其特點を捕捉すれば足ること、二三時間乃至半日にて充分なることなどには、思ひ及ばぬ容子であつた。

白耳義に至ると、是が全然反對で、白耳義の官僚組織は、中々要領を得て居る、殊に教育行政官に至りては、是れ亦列國に見るべからざる、一種の重大なる特色を具へて居る。乃ち白耳義では、大學卒業の學士たる人々を以て、一般に官吏に任命する。其上に、文部省、教育行政の局に當る高等官には、寧ろ教育出身者、就中中等教員の免狀ある者を以て之に補することを原則として居る。斯かる免狀は、勿論大學卒業と同等のもので、然も既に一個の稱號となつて居る、名づけてプロフェッショナル・アグレジット・ランセイニエマン・スゴンデイルと云ふが、斯かる稱號を有し、中等教育に經驗ある者を以て、文部省、教育行政の中堅を組織して居る。かくばかりに要領を得たる官僚行政組織であるから、他も亦推して知るべし、司法省に至つて見ると、司法省は、常に社會の害惡を禁遏する方面の事を掌るのみならず、乃ち監獄局と相並ん



て、慈善局と云ふものがある。斯く司法省は頗る汎き規模を有し、如何にも之を以て一行政省を構成するの理由が始めて充分に備はるか、如く感ぜらるゝ。司法其者が所謂三権鼎立の一大部門として、極めて重大なるには固より相違ないが、司法に關する行政が、民刑局及び監獄局の事業くらゐの事ならば、一省としては餘りに狭いものであるやうに感ぜらるゝ。然るに白耳義には更に慈善局あり、之にはド・ラトウ翁の如き老功なる人士が局長となり、洵に汎き規模の司法行政を營む事となつて居る。

司法省慈善局の管轄の下に於ける各種の事業の中に、此國と和蘭との國境に近き、ホオグストラアテン、メルクスブラアスの慈善植民地と云ふがある。此所には犯罪に近き低級の臣民、七千有餘人を收容し、嚴重なる監視の下に、各種の勞働に従事せしむるのである。丁抹、瑞典等に於いて實見せる強制勞作所の最も完全せるものが、此所に於いて見らるゝのである。

白耳義の無形生活が、既に斯の如く稍、佛國に近く、大陸式に近く、秩然たる有形組織を有するに應じて、其有形生活も亦殆ど巴里に於けるが如き感じがある。此國



言語

の首府、ブリュッセルの大公園、ボア・ド・ラ・カンブルは、其名も既にボア即ち森と云ふに表はるゝが如く正に巴里のボア・ド・ブウロオニを寫せるものと謂ふべく、其樹木に於いては或は之に過ぐるものがある。現今和蘭は固有なる和蘭語——蘭學として我國に輸入せられたる和蘭語——を用ゐ、白耳義では和蘭境の或る部分及び田舎の或る地方では、和蘭語若くはフラマン語が用ゐらるゝが、其公語としては佛蘭西語が用ゐられて居る。此點に於いて白耳義は和蘭に比ぶれば稍、國語上の不利益がある、されば其普通教育に於いて、和蘭語は之を教授せぬが、フラマン語は儼然たる一個の位置を占めて居る。

人口

和蘭は人口五百五十萬を算ふるが、白耳義は彼の狹隘なる國を以てして、既に八百萬を算ふるに至つて居る。歐洲に於いて人口の稠密なるは實に白耳義を推す次第で、此點に於いて白耳義は和蘭よりも優勝の地位に立つて居る。

### 三 フラマン文明

低國フ  
マン文明

和蘭白耳義は概して低國、澤國であり、昔から一つの續ける土地として、其社會生活に於いて、其文明に於いて、稍、共通の發達を遂げて居る、名づけて低國文明、又はフラマン文明とも謂ふべきであらう。第十七世紀以來、此地は歐西文明の擴衍の先驅となり、殊に海外發展の盛に行はれ、成し遂げられたる所から、此國人は列國に先んじて新智識に富むに至れるが爲にフラマン文明はよく斯の如き發達を遂ぐるに至つたものと見ゆる。かゝる文明の表彰として、其美術に於いても、常に歐洲美術界の先驅となつて居る、殊に其手法に於いては兎も角、其畫題の選擇に於いて最も然るを見る。技巧の造詣に於いても、固よりヴァンダイク、ルウベンス、カイゼル、レンブラント等の巨匠が輩出し、ルウベンスの連續的大傑作の如きは、巴里のルウヴル美術館に於いて、及び埃太利維也納のリヒテンスタイン美術館に於いて、世界の呼び物となつて居る。併しながら畫題の方面に在りて、率先して山水畫を描くに至つたのは實に此國の畫家に存する。就中斯かる文明的見解に於いて最も注目を値するのは、レンブラントの解剖の圖である、即ち醫學の大博士が其門弟を集めて、刀を執つて死體を解剖し、仔細に之を説明し、門人學生は熱心なる注意を以て

美術

山水畫

解剖の圖



磔刑翌日の圖

之を視之を聽きつゝある所の圖である。同じく死人を描き、それに配するに若干の活きた人物を以てするの圖は、古來以太利、佛蘭西、西班牙、其他歐洲の畫界に於いて、實に陳腐なる有觸れたる畫題であつたのである。それは即ち、耶蘇が磔刑に處せられた後、耶蘇の死體を運搬し、マリヤを首め、涙ながらに之を送りつゝあるの圖である。今レンブラントの解剖圖を見ると、正に是と同類の圖である。即ち中央に一の死體あり、其周圍に若干の活きた人物あり、其布置結構に於いて酷だ相似通うて居るが、併しながら、畫に現れたる精神は、實に雲泥の差ありと云はねばならぬ。彼に在りては宗教上の一種の傳説を描ける宗教的畫題である。是は即ち純然たる宗教離れのせる、迷信離れのせる學理研究の畫題である。然るに全く斯かる實理的科學的畫題を以して、而して彼が如き美術上の大なる成功を收め得たと云ふことは、是れ實に新世紀の世界思潮に對する、一個の有力なる革命的警鐘と云はねばならぬ。斯の如きは實に此フランスマン畫界の收め得たる最大成功、最大功績の一として之を挙げねばならぬ。

カントのわざりの

實理的科學的畫題

カントは生涯百里の地を出でず、日に日に我膝を容るゝの草廬より、窓硝子越し

頭中哲學頭の非凡

歐洲の小天地

に響く隣地の寺の鐘塔を眺めつゝ、其所謂批判哲學を大成した。カントの哲學が洵に頭の中で製造せらるゝが如き性質を發揮し、然も其發揮が十二分の深奥なる所まで至つたと云ふことは、人をしてカントの精力及び頭の非凡なることを充分に認めしむるものであるが、要するに或る博士の所謂ふところて式の學問思想たるに過ぎぬ。或は之をわざり學問と言つても宜からう。和蘭人は海上の雄者と、して、五大洲に飛躍し、夙に歐洲の小天地に於ける固陋なる生活を破つて、全然異種の文明を有する東洋諸國との交通を開いた。斯の如きは實に歐洲人文史上の重要な出來事であるが、此重要な出來事が先づ其文明隨つて其根柢たる思想の上に影響を及ぼしたことの、一の現れが、正に右レンブラントの解剖圖の如きに現れたものと言つて宜しい。實に此意味に於いて、フランスマン文明は東西文明の接觸東西社會交通の尖兵と云うて宜しいのである。此意味に於いて、フランスマン文明は、世界文明に對して、實に貴重なる功勳を樹つたものであると云うて宜しい。此意味に於いて、フランスマン文明に對し、歐洲の固陋なる宗教者流隨つて世界の迷深き而も通人がる宗教者流は、フランスマン文明を呪ふべき理由が十分に在るのである。



#### 四 國際の地位

和蘭と瑞  
西

海牙の東郊ホイステンボッスは、近來國際平和の旗幟に對して、一種特別なる忘るべからざる關係を留めた。實に瑞西に於いて國際事業の事務局の中央機關が多く備はり赤十字事業も此國に始めて其成立の端を啓き、國際平和局の中央事務局も亦此國に在るが、今や和蘭も亦瑞西と相並んで、一種の國際的中央機關の所在地とならむとしつゝある。但し瑞西は、國其物を擧げて眞の中立國である故に、瑞西の斯かる國際事業に對する關係は、其本來の性質に於いてすと謂ふべく、又其自働的の事業と謂ふべきであるが、和蘭は、其中立の趣意や少しく之と異にして、實に依他の自全の中立である。和蘭の中立を策するや、其主として免れむと欲するは獨逸よりの拘束に在る。併し和蘭の國際事業に對する同情若くは熱心の動機が何れに在るに拘らず、和蘭の地は世界の客觀よりすれば、亦瑞西の如く實に國際機關を置くに適當せる土地である。和蘭と相並んで、白耳義亦然りであるが、併し和蘭の女

依他自全  
の中立

植民地の  
經營

東印度

一寸觀察  
するとす  
ぐに南進  
論  
公果自由  
國

皇陛下の統治の下に在るは、白耳義に對して、近時更に一層此事業に向つて相應はしく感ぜらるゝ一理由である。

植民地經營は、和蘭の如き、夙に海上の活動を開始せる國の、必ず成功する所であるが、今日に於いては、和蘭の植民地經營は、殆ど全く保守の状態に陥つて居るが、併しながら其東印度に於ける植民地は、尙頗る盛大且繁昌せるものがある。東印度は、夙に和蘭の寶庫であり、而して又和蘭の東洋關係の足場である。バタヴィア、サマングの如きは、我東京、横濱、神戸、大阪に次いで、海峽植民地以東の有形無形共に文明の域に達せる大都會として擧げねばならぬ。惜むらくは邦人が多くは是等の事情を閑却し、通商上のみならず、政治上にも餘り多くの關係を有せざること。白耳義の公果植民地を有するは、亦公平にして野心無き歐洲先進文明國の事業として、未開の地を開發する世界的事業の爲に、大に祝福すべき事柄である。唯、白耳義は、植民地經營に於いては、後進者たるを免れぬ。公果自由國は、獨立王冠として白耳義王冠に屬し、乃ち白耳義の王冠を戴く人は、必ず之を兼ねることになつて居り、斯の如くにして時に世界外交界の問題となることはあるが、若々として歐洲



會覽博の個兩



會覽博國典瑞年九〇九一

會覽博界世義耳白年〇一九一



對五六八

小國中の最大國の

國勢不振の原因

小國の不利

世界列國の大勢

五六八

文明を亞弗利加の西海岸の中央に扶植するに至りつゝある。  
 和蘭白耳義は歐洲に於いては小國である併しながら人口を以てすれば小國中の最大國と云はねばならぬ。即ち露西亞獨逸英吉利奧太利匈牙利以太利佛蘭西西班牙是だけを大國と爲し自餘を小國とするならば西班牙の千八百萬に對し白耳義の八百萬直ちに之に亞ぎ和蘭の五百五十萬又之に亞ぎ尋て來るのが瑞典及び葡萄牙の五百萬である。斯かる關係に於いて白蘭兩國は歐洲に於いても中等位の國であり而して其植民地經營に於いても亦中等位の國である。但し斯かる手頃なる國でありながら國勢が文明の先覺者たりし割合に振はざるは如何なる理由であらうか。人口は富み植民地の關係よりすれば良に中等位であるが今日にては業に既に斯かる國々は如何にするも小國の列を脱することは出來ぬ實に國勢の比較的振はざるの眞の原因は小國に坐する不利益に由るものと云はねばならぬ。和蘭が獨逸の併呑を受くるや否やの如きは是れ容易に斷ずべからず又容易に其實現を見るべき事ではない。併しながら小國分立の到底大國に對して五分五分の顔顔對立を爲す能はざるは是等の國々の實勢に徴しても明なる事實



である。

### 五 ブリュクセル世界博覽會

千九百十年、五月中旬、我輩の白耳義に遊んだ折、ブリュクセルは今や世界博覽會の最中であつた、世界博覽會とは云ふが、千九百年の巴里の世界博覽會に比べては十が一である。開會以來既に一ヶ月になるが、今尙建築の竣らざるが多く、構内の重き將た輕き鐵軌、今尙盛に貨物を運搬し、陳列所には荷函の累々たるが、何國の部にも見ゆる。斯かる中に、獨逸のみが、獨り超然として、陳列出品悉く皆整頓し、室内粧飾の出品には、馥郁たる薔薇の生花をさへ新たに、して、觀客の注意を惹きつゝある。獨逸に亞いて、英吉利も、稍、出品の陳列の大半を了へて居る。當の國たる白耳義すら、中等教育の部の整頓を告げたるのみ、之を獨逸が數十噸の量目あるべき鐵材から成れる蒸氣機關のシャフトの陳列をさへ竣へたるに比ぶれば、實に其運庭の大なるに驚かるゝ次第である。



何故

ケルネリ  
ンの佛語

補習教育  
の出品

世界列國の大勢

吾

凡そあるべきやうに出来るは、是れ教育の功である。官僚組織の善美なるの功である。獨逸は別に奇抜なる事をしたのではない。開會當日までに出品の出揃ひ陳列了りとなるやう計畫し、さて其計畫の通りを滞りなく實行したまてである。官僚組織の善美を得ざる國々は、計畫も粗漫、實行も鹵莽、今にまごつきごたつきつゝあるは、是れ何よりの表明である。

轉じて、ミンヘン麥酒の出品店を覗ふに、此所には佛語を巧みにするケルネリ、即ち赤前垂數十人ありて、いづれも皆獨逸から出張し、世界各國よりの見物人を對手に、獨逸文明、獨逸趣味の洗禮を麥酒を以て與へつゝある。是は何の成績であるか、是こそ獨逸に於ける補習教育完備の業績である。我國にて外客を日比谷公園に迎ふるなどいふ折り、新橋の紅裙が善しとか惡しとか云ふ議論の起るあればやがて直ちに救を自白の暗紅裙に乞ふの外無いと云ふ有様、斯かる有様に較ぶれば、獨逸との對比は、月と鼈と謂ふべきではないか。況してや女子の高等教育を標榜しながら、唯、英語に堪能ならしむるを所期とするやうなことからば、我所謂高等教育は、丁度獨逸の補習教育と肩を並ぶるに足らざる印となるべく、洵に肩身の狭ま

る次第である。呼、博覽會の出品出揃に賛同列國を後に、瞠若たらしむるの獨逸は、尙動員計畫輸送計畫に於いて、メッストラスブルグ、さてはセダ、ンに佛蘭西の機先を制せる當年のプレステイジを失はないのである。ブリクセルは今や世界博覽會である否、今と云ふ今は實に獨逸博覽會である世界博覽會を獨逸博覽會とするに成功せる獨逸は、復た世界の何物かをも獨逸のにするに成功せむとするであらう。



六月下浣。佛國客舍臥病。讀大使秋月君  
所爲予齋吉田松陰傳。至于安政元年三  
月。松陰投子米。繼條。感乎時之古今。歎乎  
材之庸俊。慨然久之。竟步平象山。送松陰  
詩。讀。書此聊以自慰。亦以自勵云。  
少小誤閑道。久厭竹林群。遠道再爲客。  
感事憶古人。古人夙知機。不遇將何因。  
猛氣幾屯塞。照心唯蒼旻。吾生逢明世。  
四海咸比隣。踏遍五洲土。得失足見聞。  
山河是形勢。舉目燦星辰。驚鈍奉社稷。  
母問身後賓。

## 第十二 佛國の社會

### 一 地と人

地形  
方形

佛國の地形に最も特有なる事は、其殆と方形を成せる點である。北は英吉利海  
盆に面し、其間アアウル、シエルブウル、ブレストの間に於いて多少の海岸線の出入は  
あるが、先づ殆と直線を描くと云つて宜しく、西はビスケイ灣に臨んで是れ亦殆ど  
一直線を劃し、南はピレネエ山脈及び地中海に沿へる海岸にして、セツト、バイヨンス  
の邊り、聊か小さな灣を成さざるに非ざれども、亦是れ大體に於て西より東に馳  
する一直線を描くものと謂ふべく、東は一帶以太利、瑞西、獨逸、リクサンブウル、及び  
白耳義に接して、固より多少犬牙相接する所無きに非ざるも、大體南より北に馳す  
る一直線を描くものと云つて宜しい。乃ち佛蘭西全國は、大體に於いて、少しく西



南に傾ける正方形の一國と云つて宜しいのである。

此殆ど方形を成せる地形は實に佛國の一大特色で、我國の幅は狭く、而して南より北に奔りて約七百里に渡れる、狭長なる地形とは全く相反するものである。其特色は實に中央集權に適するといふ點に在る。乃ち一たび國の中央地點に中央集權の政府が樹立するときは、此所より四方に號令するに極めて便利なる形勢となるのである。若しも狭長なる地勢に在るとするならば、交通が極めて便利に發達せざる限り、動もすれば全國に於いて幾多の中心地點が生ずることを免れぬが、佛國の地形は正に之と相反する。中央集權に適する反面の事實は、亦此國の事情が極めて革命に適するといふ點に存する。即ち巴里が佛蘭西である、若しも一たび巴里に據つて以て號令するものあるときは、四方は環視して敢て違ふこと能はざるの形勢に於いて在る。巴里に於ける革命は、乃ち佛國の革命となり、巴里の死命を制するは、やがて佛國の死命を制する所以となるのである。千八百七十年の九月、三世那波崙が獨逸の軍隊に降り、而して巴里が重圍の中に陥るや、ガンベッタ、チエエル等は、オルレアンと聯絡を取り、トゥールと聯絡を取らむと欲したが、巴里以外に

第二の中心首府を建て、此處に政府を樹立し、以て偏安の策を講ずることは、此國としては到底不可能であつた次第である。中央集權及び革命に適する此點に於いて、佛蘭西は實に以太利と其形勢相反するのである。若しも以太利の如き人氣の國にして佛國の如き地形に於いてあるならば、其革命の慘禍は更に窮まる所を知らざることであるべきに、幸にも以太利は我國の如く狭長なる地形にして、到處政治上の中樞地點と謂ふべき都會の存在を認むるが爲に、統一の事業は佛國の如く容易ならざるの短所があると同時に、革命の禍は佛國の如く大なるもの無きを得る次第である。

佛國の地相は亦地形に次いで極めて著しき特色を呈する。佛國は東アルプスの西に向へる下り坂の一帶の地に於いて多少の山嶽を見、更にロオヌ川を隔てたる西に於いて、サンテチアンヌ地方は甚だ高からざる一帶の丘阜を見るの外、三萬四千方里の地域が、殆ど總べて平行なる沃野である。實に此國の如く地相の平行なるは、西比利亞、滿洲、若くは歐羅巴露西亞を除き、我日本と面積に於いて階級を餘り多く異にせざる程度に於ける國の領土としては、他に比類を見ざる所である。



分割に適  
せず

理想的の  
氣候

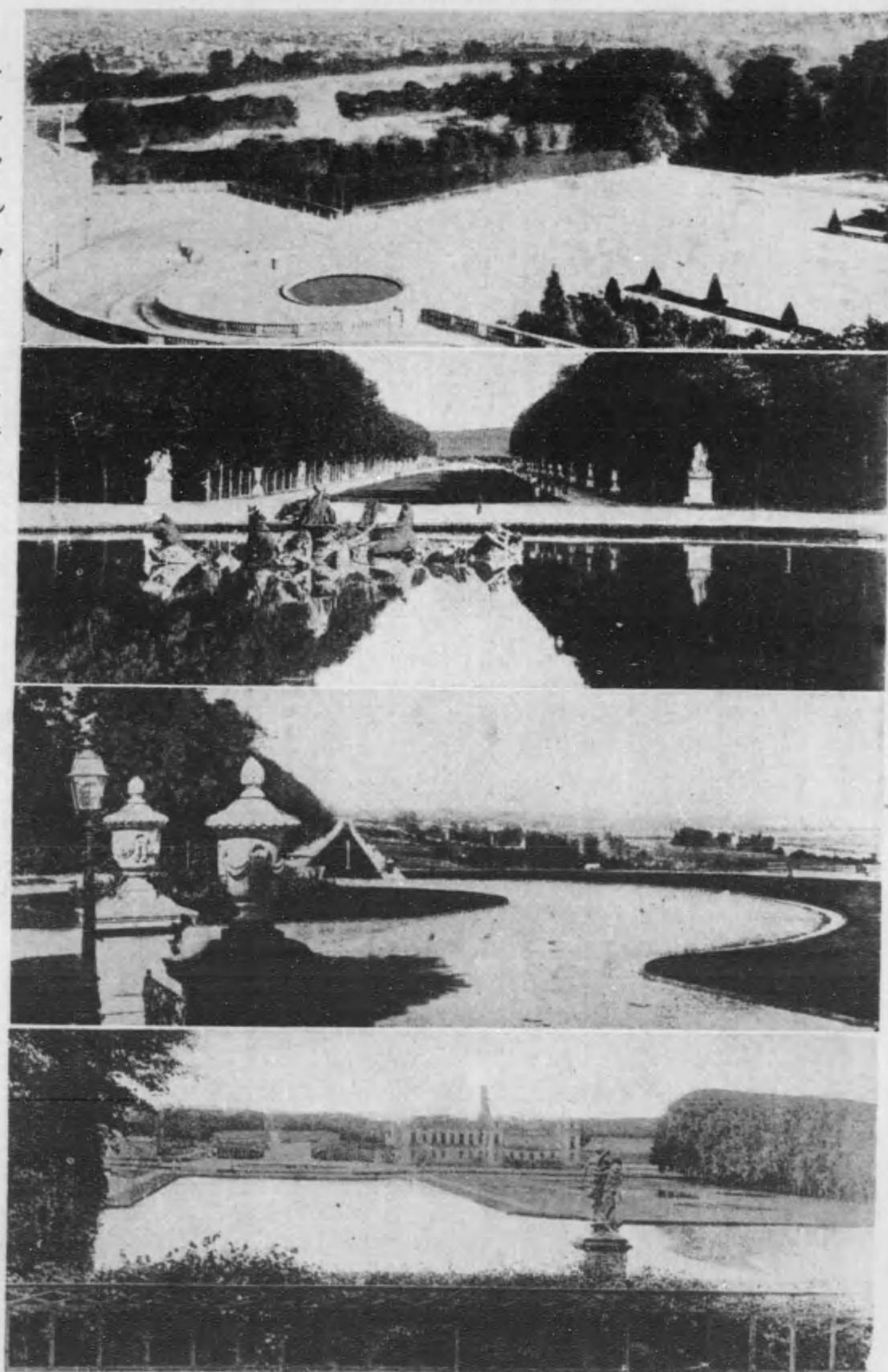
世界列國の大勢

美

さて斯く地相の平行なるは、實に分割に適せざるの結果を生ずる、即ち天然に是れぞといふ區域が其地相の上に備はらぬことであるから、此國は假令群雄の割據するありと雖も、永久的に政治上分割せられたる諸邦國の對峙對立には、到底適すべからざる運命に於いて在るのである。是は地形の中央集權に適すると相埃つて、益々同一傾向を助長する強き原因となつて居る。

次に氣候は、此國に於いて、殆ど理想的に天の恵に浴して居る。巴里の緯度は北緯四十八度であるが、是より北なる隣國英吉利と雖も、墨西哥灣より流れ來る灣流の暖かなる氣候の調節者の爲に、倫敦の市街は、冬季三ヶ月間濃霧に苦しみつゝも、實に緯度に比して遙に溫暖なる氣候なる氣候を享有しつゝあることであるが、佛國に至りては、其北岸と雖も、是れ若くは是れ以上の暖みて、而して其南岸に至りては、馬耳塞が北緯三十七度、ニス、モンテカアロ等、地中海沿岸の都會は、實に花笑ひ鳥歌ふの樂地を呈しつゝあるのである。斯かる氣候なるが上に、其地味も亦極めて良く、而して灌漑の便に至りては、亦是れ理想的である。全體方形の地形に於ける國土は、往々河流の便を有せざる者である、例へば我日本の如き、若くは以太利の

佛國の四離宮地



サンクルウ

ワエルサイユ

サンジェルマン

シャンチリイ



如き狭長なる地形に在りては、中央一帯、脊梁骨の如き山嶽ありて、是より海に注ぐ所の水流は數限りも無い、随つて灌漑は便に、水田の可能なる状態に在るが、方形なる國土に於いては、動もすれば海より遠くして、随つて河流とは得て遠き所の生ずるを免れざるが通例である。然るに佛蘭西は、北に向つてはセイヌ川の英吉利海盆に注ぐあり。西に向つては此國第一の大河ロワアル川の流域あり。稍、南にはガロンヌ及びドルドオニエの二川が、會流してシロンドの入江を成して大西洋に注ぐあり、此入江の口に於いて、此國第二の大なる海港ボルドオが立つて居る。而して南、地中海に注ぐものとして、ラックレマン、世に謂ふジエネヴァ湖水の落ち注ぐ所のロオヌ川と、佛國の中原より發するソオヌ川とが里昂に於いて合流し、南に駛せて馬耳塞近傍に於いて地中海に入るがある。佛國の國土は大體此四つの流れの流域に屬すると謂ふべきで、之が爲に灌漑の便は極めて都合好く出來て居る。

佛國の地位は亦實に極めて優尙なるものがあるのである。アナトオルルロツポオリウが其權威ある大著「ツアルの帝國」に記して居る通り、露西亞は實に歐羅巴の一部と云ふよりも、寧ろ亞細亞の一部である、殊に第十九世紀の初までは、事實上



歐洲の四

歐洲の中

中國の思

水の關係

地中海

全く左様であつたと云はねばならぬ。即ち當時に至るまでの歐羅巴は、スカンヂ  
 ナヴィアより獨逸、埃太利を東の端と爲し、北は英吉利、西はイベリヤ、南は以太利を劃  
 る所の區域が、即ち是れ基督教文明の歐洲の全體であつたのである。而して佛蘭  
 西は、實に此歐洲の争ふべからざる中央の地域である、即ち那玻璃の大活動を試み  
 たる時代に、至るまでは佛蘭西は實に彼等歐洲民族の眼底に映ずる文明世界の中  
 央を占めて居つたのである。是れ恰も支那が自ら呼んで中國と爲すが如く、支那  
 民族に取つての中國の思想と同様なる形勢は、正に佛蘭西にも之を見る次第で、那  
 玻璃の活動が、彼が如き偉大なる結果を世界の歴史に及ぼすに至つたのも、實に此  
 形勢を占め得たからである、謂はねばならぬ、乃ち佛蘭西は實に大帝國の興るべき  
 處、王氣の鬱勃たりし處と云はねばならなかつたのである。

佛蘭西の水に對する關係は、亦極めて便利なる状態に於いて在る。中世に於ける  
 海上活動の中心地域は地中海に在つたが、佛蘭西は此地中海に面して、頗る長き海岸  
 線と、良好なる港灣とを有して居つた。馬耳塞は人工を加へずとも相當の港であ  
 つたが、今は大なる人工の力に依て地中海に於ける絶好の港となり、トゥロンは軍

大西洋

英吉利海

河流  
運河

人  
混血民族

港となり、セト、カンヌ、バイヨンヌの如きは、皆それ／＼に立派なる港灣となりつ  
 つある。近世の初より、海上大活動は多く大西洋方面に移つたが、佛蘭西は亦此方面  
 にも相當の港を有して居つた。ポルドオ、ナントを首め、ラ・ロシユル、ラ・ロシフウコオ  
 の如きは、孰れも或は平和的、或は軍事的港灣を供し、殊に西北の突角たるブレスト  
 は有數なる良港灣である。英吉利海盆に面せる地方は、近くは英吉利、和蘭及び北  
 方諸國との交通の咽喉たるのみならず、遠くは又大西洋に向つての活動の基點で  
 あるが、佛蘭西は此點にも亦相當の港を有して居る。右のブレストを首め、シェルブ  
 ル、ル・アアザル、カレイ、デニブ等は、皆それぞれ價値のある港灣である。

國內の水流の關係に於いても、四大河の交通上の利益を十分に攝取せるのみな  
 らず、更に大西洋方面と地中海方面とを聯絡すべく、ガロンヌ川より接続して、頗る  
 古く、さまで大規模ならざるも、極めて有利なる運河が開鑿されて居るのである、是  
 は第十八世紀以來のものである。

普通に佛蘭西人は羅匈民族と呼ぶ、が、是は實は頗る誤つて居るので、佛蘭西  
 人は、羅匈、日耳曼及びケルトの三民族の混血より成立せるものである。其外ビレ



ネエ山下のバスク及びノルマン民族もあるが大體佛蘭西人は、右三大民族の血液の合成より成立するに至つた民族である。シャルルマアニと云へば如何にも佛蘭西人らしく聞ゆるが、カアルデルグロオセと云へば明白に獨逸人である、如何にもシャルルマアニ大帝は、獨逸人が之を我民族に屬すると言ふのも道理あり、佛蘭西民族は、シャルルマアニ大帝に依て代表さるゝと云ふも不可ならざる者である。文學史家フアブルグットは、是等三民族の特色が、佛蘭西民族の歴史を通じて充分に發揮せられて居ることを論じて言ふ、佛蘭西人の纖麗巧緻なる藝術に長じ、規律整然たる法治的社會生活を營むに長ぜるは、是れ羅甸の血液の相續である、緻密なる學術的探究に疎からず、往々世界を駭かす科學及び其應用上の大發明を爲すと、往々柄になき質樸剛健なる勇者を輩出するとは、是れ日耳曼の血液の然らしむる所である而して獨り婦人に於いてのみならず、男子に於いても亦如何にも對話が快活で、殊に生々せる表情の十二分なる情味たつぶりの人をそらさぬ態度は、是れケルトの血液の然らしむる所であると言うて居る。如何にも今日、セイヌ川の巴里市に入れる中心ルウヴルより、セイヴル、サンクルウに向つて往來する、佛蘭西の一錢蒸汽

羅甸の血

日耳曼の血

ケルトの血

言語に於ける佛國の西三國の親疎

混血民族の長所

川汽船に於ける洗濯娘の舉動に見ても、中々我帝國の女優、そのけの態度にて、實に其表情の巧なるに敬服せずには居られない。之あるかな、佛蘭西語は以太利語と頗る遠く、又西班牙語とも餘り近くない、然るに西班牙語と以太利語とは極めて言葉が近く、而して是等の言葉は所謂ロオマンズ語として、古の羅甸語と極めて近き關係を有する。國の相列ぶ地位順序よりすれば、羅甸語に最も近きが以太利語で、其次が佛蘭西語、其次が西班牙語でありさうであるのに、事實の之に反するは、亦佛蘭西民族の混血的合成民族たることを語る所の大なる事實であると云はねばならぬ。

さて右の如き、衆民族の混血合成より成れる民族は、由來極めて健實雄剛なる發達を遂ぐるものである。我日本民族然り、アングロサクソンと呼ばるゝ英人然り、而して佛蘭西人に於いても、亦斯の如き次第で、獨り天に於いてのみならず、亦人に於いて、獨り地に於いてのみならず、亦民に於いて、佛蘭西がどうしても歐洲に於いて、少くも眞先に進んでの一大帝國、一大政治的生活を營む所の社會民族を構成すべき因縁は、夙に此に備はつて居るのである。



幾多の變遷を  
閱し來る

先一統の串

那波論と  
西郷南洲

世界列國の大勢

斯の如き地に於いて、斯の如き人を以てせる佛蘭西國は、亦隨つて幾多の變遷を閱して居る。初めシャルルマアニの下に、一旦大なる一統を見、既にしてシャルルマアニの王國は分裂し、是より秩序次第に紊れて、佛國は各地に於ける小王侯國の對立割據の狀勢を呈し、ブルゴオニ、アンジウ、ブルタニア、ノルマンデイ、ブルボン等の國々に分れて相争うて居つたが、遂に近世歐羅巴總體に普通なる大國民社會の勃興の機運に於いて、先づ以て其地の利と人の勢とに依り、率先して王國一統の業を成し、而して君臨せるが即ちブルボン王朝であつたのである。此時代に於いて佛國は、隆々たる威勢を以て王國の勢威を八方に耀し、驕陽赫灼たる路易十四世、ヴェルサイユの朝廷漸く衰へ、路易第十五世に至りては、「朕の後には洪水あらむ」との遺詔を遺して以て崩御せられ、路易十六世は、其志善を爲すに存すと雖も、其氣力到度衰頽に向へる大國を統御するに堪へず、遂に千七百八十九年の革命となり、同九十三年を以て斷頭場裡の露と消えられた次第である。併しながら佛國民族の活力は、茲に終りを告げず、一世の怪傑、那波崙が世界を震撼するの大偉業を企て、一世の大悲劇を、恰も我西郷南洲の如く、演じ來り、演じ去つて、遂に城山ならぬサンテレヌヌ孤

此國此民  
族の運命  
如何

悲むべき  
大事實

島の土と化したことは、今日尙青年諸君の記憶に新たなる所である。此佛蘭西國佛蘭西民族嘗て一たびは世界、少くとも西洋所謂文明世界の覇者たりし、又其質的關係に於いても、今日に於いて尙且覇者の地位を失せざる、此佛蘭西國佛蘭西民族の運命は如何あるべきであらうか、而して我國と此國との關係は如何に在るべきであらうか、是は實に興味と實益とを以て、十二分に識者に依て攻究されねばならぬ問題と云はねばならぬ。

## 二 人口減衰

佛國社會の近狀を語る者は、必ず先づ人口減衰の悲むべき大事實に思ひ及ぼさざるを得ぬ。倫敦、伯林、維也納、其他歐洲大國の首府を歴遊して而して巴里に到る者は、巴里の變動の餘りに、少きに注目せずには居られまい。我輩は先年第十九世紀の終、一八九九年十月一日を以て巴里に入り、淹留二十閱月、其間新たなる第二世紀を迎へ、巴里を去つたのが千九百一年五月十日であつた、而して正に九ヶ年を

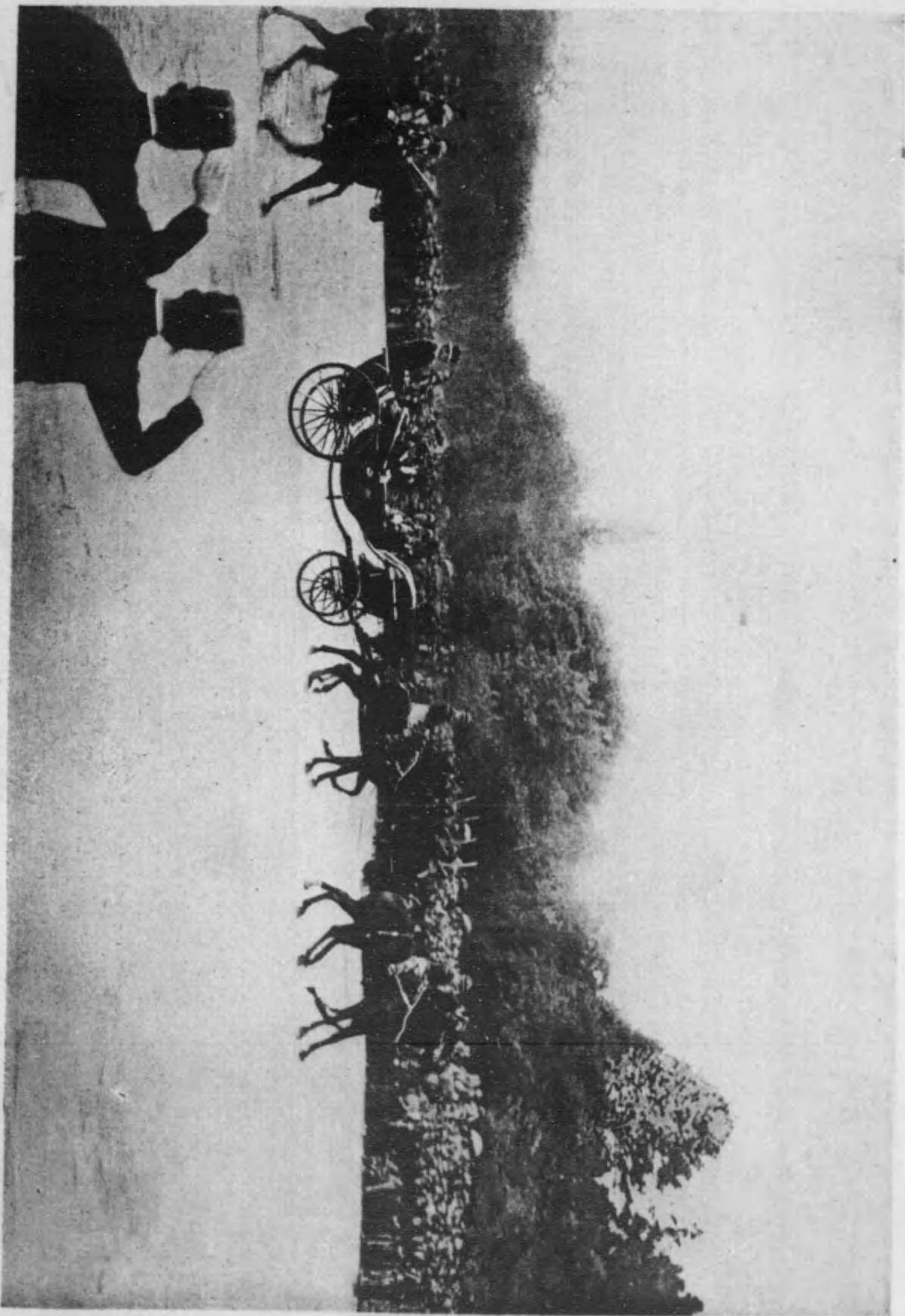


繁華の増進

外廓の擴大なし

依然たる野菜園

隔て、千九百十年、同じく五月の十日と云ふに再び巴里に遊んだ。巴里は先年に比べて著しく繁華の増進せるを見受けた。殊に自動車の増加は、全く新世紀の所見として擧ぐるの價値がある。オペラの前、プリアスド、ロペラなどでは、時々各種の車輛で圍り、數分の間、後ろから來る車の待たせらるゝ事が屢ある。斯の如きは、先年に於いて餘り經驗せざる所であつた。さりながら、巴里の増進は、斯く市の内側に止まつて、其外廓の一向に擴大せるを見ぬ。試にセインチウルの汽車、即ち巴里の周圍を帶の如く取巻く所の汽車——多くは高架鐵道であるが——の上から巴里を瞰下すと、先年鐘形の硝子を被せて、鄭重に培養せられたる野菜畑であつた所は、今も尙依然として野菜畑である。然るに伯林などとなると、近郊のフリーデナウ、ステエグリッツ、ウィルメルスドルフ等の間、例へば代々木より原宿と云ふが如き、長き原を経てなければ達せられなかつた所ですらも、今日は四階五階の家屋が櫛比して建てられて、實に其膨脹の勢の大なるを見る次第である。強ひて名づくるならば、伯林等に於ては、外部増進、巴里は車の數等に於ての内部増進を爲したと言つてもよからう。巴里の人口は、此十年の間に二百六十一萬より二百七十二萬に進んだ。





佛蘭西國。巴里。

七月十四日、國祭日、

大觀兵式。

大統領御著。

降人口の下

クレフエ  
ルド商人  
談

に過ぎぬ此數に依て見ても、思ひ半に過ぐべきである。

千九百九年四月一日より九月三十日に至る半ヶ年間に於いて、佛國の人口は實に明白なる下降を示して居る。之を前年の同期に較ぶれば、出生は一萬二千六百九十二の減少を示し、死亡は二萬五千十九の増加を呈し、人口は結局此六ヶ月間に二萬八千二百三の減少を來たして居る。此事實は、十月二十九日の巴里電報として、我輩が伯林滯在中、新聞紙上で見た所である。新聞紙は更に之に附記して言ふ、統計の大家ベルチオン氏は、此減少の原因は、佛國の富の十分なる發達に存すと云へり。

十一月の初の或夜、ある料理屋に、相貌卑しからざる一紳士と對坐して、同じ卓に食事をした。此人は獨逸の西陣とも謂ふべき、クレフエルの相當の織物業者である。我輩の日本人たるを見て、日露戰役が驕傲なる我東隣に日東帝國が大なる打撃を加へたことを、實に愉快を以て見聞して居つたと語つた。西隣は如何と問ひしに、我獨逸は五千八百萬の人口を有するに、佛蘭西は僅に三千八百萬に過ぎぬ、如何にするも彼は我が敵となるべき者ではないので、我々は毫も西隣をば眼中に置かぬ。



と答ふ。商人の事であるから統計の古いなどは咎め立てすべきでないが、此計算、此結論は、想ふに獨逸一般の考を表白せるものと見らるべく、而して是は洵に道理ある結論と云はねばならぬ。豈嘗に獨逸のみならず、世界列強の眼底に映ずる佛國も、實に又々斯の如くあるべきである。

小兒の死

佛國にては、年々の出生約九十萬、而して一歳未満の小兒の死亡數が二十萬に上り、其主なる原因は、牛乳よりする小兒病及び結核であると云ふ。さて佛國は葡萄酒の國なりと云はるゝが、併し葡萄酒の商賣は九億法であるのに、牛乳の商賣は乾酪牛酪をも併せて、實に十二億法に達する。而して右小兒死亡の最も多きは、實に牛乳商賣の最も盛なる地方である。是は如何なる譯かと云ふに、是等の地方では、商賣の餘滓を以て小兒を養ふが爲である。佛國の乳牛八百萬頭、若しも更に嚴密なる衛生監督を加へ、牛乳の煮沸殺菌等の衛生法を更に嚴密に厲行するならば、八萬の小兒は其夭折より救はるゝてあらう。佛國人口の減衰は事實であるが、法律規則を以て佛蘭西の婦人に子を産ましむることは如何にも困難であらうけれども、せめては既に生れたる子を殺したくはないものである。右は高等衛生會議議員

小兒死亡と牛乳商賣

紺屋の白袴

アチナルの所論

ホルドラス教授の説として、千九百十年五月、我輩の巴里滞在中に公けにされた所である。如何にも此統計に據りて、佛國小兒死亡の多いのには、驚かざるを得ぬ、即ち佛國に於ける一歳以上の小兒死亡は、實に百分の二十四を算ふる。ホルドラス教授の言ふ通り、若しも二十二萬の中八萬を減ずるならば、此率は降つて百分の十五強となり、而して之が丁度我日本に於ける一歳未満の小兒の死亡率に該當する。斯の如く佛國に於いて小兒の死亡が盛に行はれ、而もそれが所謂紺屋の白袴から來るものであるとするならば、斯かる原因の防遏くらむの事が出來ぬ以上、文明國として、は餘りに腑甲斐なき事と言はねばなるまい。

六月上旬のプチジュール新聞は論じて言ふ、例年の出生數九十六七萬、それにも人口の増加が乏しいのを、昨年は僅に七十七萬、而して死亡數が七十五萬七千、差引僅に一萬三千の差があるだけである。千八百五十一年には、佛國の人口三千五百萬、獨逸は三千五百萬、以太利、英國、澳匈國、皆佛國の下であつたのに、今は獨逸六千三百萬、佛國三千九百萬、英吉利、奧匈國皆佛國を凌駕して居る、僅に六十年の間に佛蘭西の獨逸に後るゝこと、實に二千四百萬、是は里昂、馬耳塞の如き市の五十個が



涙の無價

最近の事實

人口減衰の國民的悲觀

人種上の悲觀

全國に増殖せると同じ勘定ではないか、人口の増加と共に、工業商業の偉大なる發展ある、亦以なきに非ず、而して獨逸には實に商工業の偉大なる發展があり、今や獨逸帝國は、人口十萬以上を算ふる市六十以上を算ふる、我等は空しく泣くべからず、涙は何物をも産出せざるなりと論じて居る。

今春に至り、昨一九一一年に於ける人口統計の結果の公にせられたる所に據ると、佛國の同年度一ヶ年間の人口降下三萬六千四百六十八を數ふるに至つたのである。

以上は佛國人口減衰の具體的事實二三を擧げたに止まるが、實に現時佛國の新聞を見ると、人口減衰に對する悲觀が非常に多い。我輩の巴里滞在中に於いても、巴里幾多の新聞が殆ど三日に上げず人口に關する悲觀的評論を掲げぬは無いといふ状態であつた。斯かる國民的悲觀が佛國の人口問題の上に注がることは、極めて注目すべき事と云はねばならぬ。

右の如き人口の數量に關する悲觀の上に、更に佛國に於いて人種上の悲觀説さへが亦聞えぬてない。例へばモンペリエエの社會學教授ドラブウジ氏の如きは

『社會淘汰』の一書を著して、主として解剖學上、就中頭髓の形狀より論じ、英吉利、獨逸、スカンデナヴィア等の民族は何れも縦體である、然るに佛國人、以太利人、西班牙人等は横體である、學術上の精密なる研究に依れば、横體民族は到底縦體民族と社會上の競争に堪へない、我佛國民族は、此點に於いて實に其將來を悲觀すべきものがあると言ふのである。其説の當否は暫く措き、佛國の所謂識者の階級に於いて、斯かる説の聞ゆることは紹介すべき價值がある。

斯かる物質上生理上の悲觀の外に、更に社會上の悲觀説がある。是は我國の讀書社會にも一時大流行をした書物、ルブレイ式觀察法を標榜せる社會研究者の一群、ラシアン、スシアル雑誌の主幹、ドモラン氏の『アンドロサクソン民族の優尙は何に由るか』と云ふ書で、確か我國では『獨立自營大國民』と云ふ標題で譯し出されたと思ふが、是は佛國の短所、就中社會上の短所を爬羅剔抉して、慷慨激越の口調を以て佛國民族を警醒せるものである。是れ亦其説の當否は今茲に評論する必要は無いが、兎も角も彼國の識者階級の中に、斯く自國民に對して、悲觀的警鞭を加ふるの士あるの事實は、大に注目するの價值がある。

社會上の悲觀



慰藉論

斯くの如く佛國に於いて、近時餘りに悲觀論が頻々として出る所から、千九百年  
ボルドオの『ラシロンド』に據て自由獨立の主義を鼓吹せるアントオ氏は「佛國人の  
精力」と題する一書を著し、佛國人が叨りに自ら菲薄し、喻を引き義を失うて、以て沈  
淪墮落の深淵に近づくべからざる所以を警告せるものがある。

悲觀すべ  
き悲觀

抑、斯かる悲觀が一國の上下に行はるゝは、其事業上の根柢の如何を問はず、悲觀  
其者が實に業に既に悲觀すべき一大現象である。此點に向つて、我々は佛國民族  
の爲に更に天空海濶の氣象を養成し、一層の氣力を鼓舞して、國民的理想の實現に  
勇往邁進せむことを勧めず居られぬ。併し學術上より見れば、斯かる人口減衰  
の問題は、輕々に看過すべからざるのみならず、學者は必ず之が原因の探究に任ぜ  
ざるべからず、佛國に於いても、既に之に對する研究が行はれて居る。

調査機關

一八九六年既に「佛國人口増加國民同盟會」あり、一九〇一年より「人口減衰調査特  
別委員會」あり、朝野各方面の識者七十二人を委員に任命し、貴族院議員マニン氏こ  
れが議長たり、貴族院議員ビオオ同、ベルナル、同ラテララ、同ラアド、衆議院議員ドロム  
ブル、學士院會員ランヌ、同グ諸氏副議長たり、凡そ佛人の本問題に對する態度も、

ルボン氏  
の説

必ずしも熱心ならずとせぬ。唯、問題の甚だ複雑なると、社會的病根の深く且蟠ま  
れる者あるとの爲に、猫を防ぐべく鼠の相談の觀なきに非ざるは是非もない。

六月の某日、醫學出身にして、社會學上數種の名著を出だせる、ギヌスタア、グ  
ルボン氏を、巴里の熱鬧の中心なるその住居、而もステインドグラスにて裝飾し、骸骨と人  
體計測器とを飾れる、幽暗なる書齋に訪うたとき、人口減衰の原因に關する氏の意  
見を聞いた、氏の考は、伯林の新聞に出でたる、ベルチヨン氏の説と殆ど同様である。  
氏曰ふ、凡そ富める者ほど、金錢の入用の大なるは無い、佛國人は富んで居る之が、人  
口減衰の必至原因である。成程、金が無ければ使はずに濟むが、有れば有るほど入  
用になつて來るので、氏の説にも人情の幾微を穿てる旨味はあるが、併し眞理とし  
ては半面に止まるの誹を免れまい。

デュモン  
氏

アルセエヌ、デュモン氏は、亦上に擧げたる特別委員會委員の隨一人であり、夙に本  
問題研究を以て畢生の事業と爲し、「人口減衰と文明」と云ふ一書を著し、各種の説を  
叙述批評し、而して更に獨特の斷案を下して言ふ、佛國には數種の大なる社會的矛盾  
がある、就中加特力宗旨を奉ずることと、自由共和の政治を施かむとすること、中

社會的矛  
盾



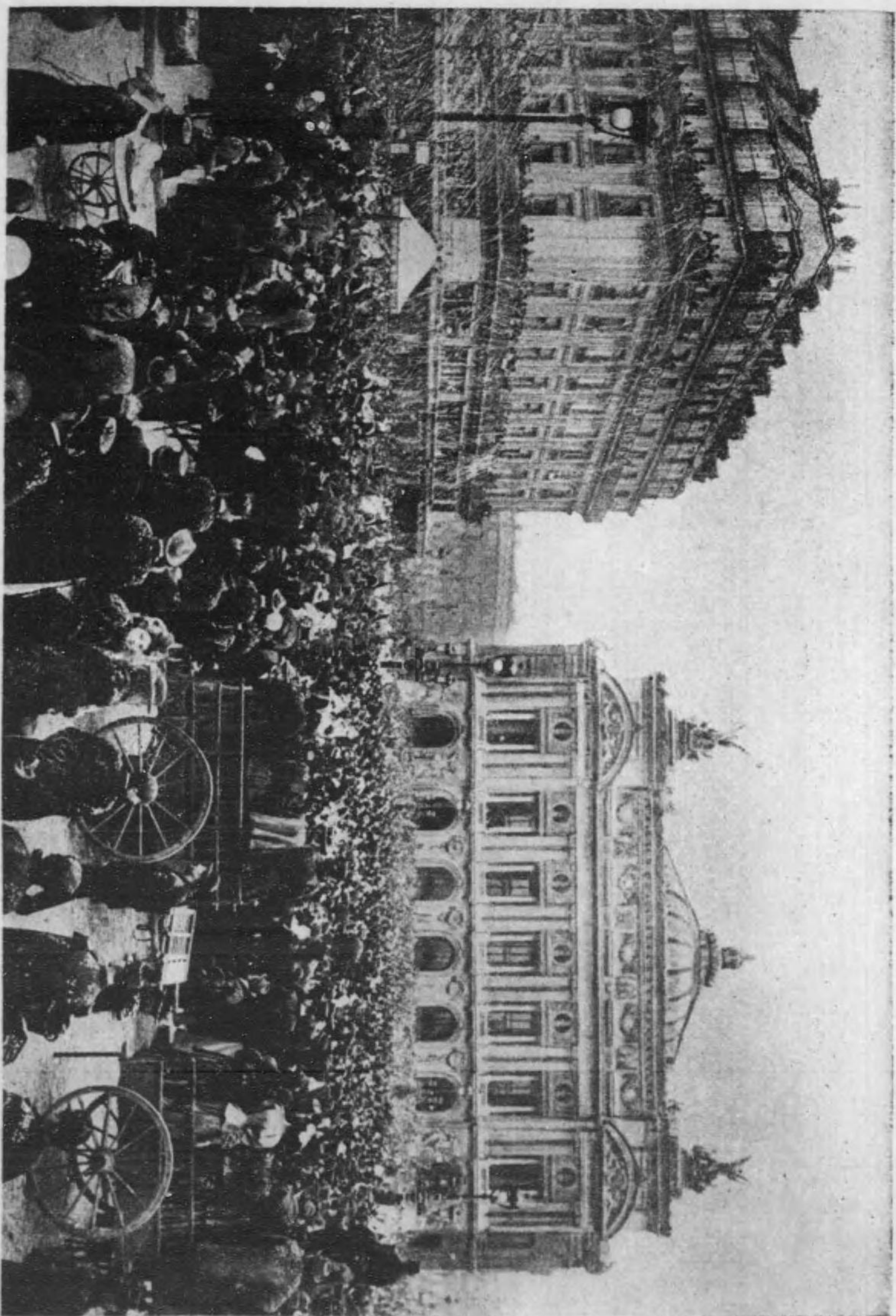
人口減衰  
の原因

生理的  
原因  
避妊法  
飲酒  
悪習  
夜更かし

中央集権制度と個人の自由發展を尊重すること、歴史上の光榮を誇ることと理想主義に向つて慕進することの如きは、皆是れ佛國として著しき社會的矛盾と云はねばならぬ。凡そ斯かる社會的矛盾は、即ち是れ社會人心の奥底に極めて深く且大なる濟ふべからざる不安と無秩序とを感ぜしめ、而して其外面に社會的に現るゝや、乃ち人口減衰を致すと云ふが氏の説である。

熟人口減衰の原因を攻究するに、凡そ四種類の原因の夾雜せる結果であると斷ぜねばならぬらし。

第一は生理的原因である。各種の避妊法の行はること、其いろ／＼の種類が年に月に益々進み、飲酒の分量の益々進むこと、各種の悪習就中男女及び性慾關係に於ける悪習の盛に行はること、夜更かしが風俗となりつゝあること、斯の如きは皆生理上より人口減衰を促すべき原因となるのである。巴里に於いてグラン・ブウルヴァール(我日本橋銀座ともいふべき所邊)にても、珈琲茶屋は曾ては午前二時を以て店を鎖さなければならなかつたのが、近年は大分それ以上に店を鎖さる所が殖えて居る。伯林の如きは先年午後八時より開店する珈琲茶屋は既に風





佛國西國。巴里。

大樂劇(オペラ)座。

カルニヴァル祭に於ける花祭の光景。

社會的後  
引上戸

經濟的  
原因

欲望

俗上如何はしき所となつて居つたが、今日は午後十時ならては開店せぬ珈琲茶屋が頗る其數を増して居る。先年はワイデンダム橋よりベルアリアンス・ブラツに至るフリードリヒ街、就中リンデンよりライプチヒ街までを中心として、絡繹たる有象無象の男女の往來は、午後十一時を眞盛りとしたのが、唯今では午前一時となつて居る。斯の如く、一國の富が進み、一國の所謂文明の進ひに隨つて、次第々々に人間の夜更かしをする癖が益々増長する、恰も飲酒家に後引上戸あるが如く、夜遊びも亦後引上戸に陥るが人情の自然の弱點で、此社會的後引上戸風が即ち夜更かしの増進となつたものであらう。而してこれが生理上に悪影響を及ぼし、風俗上若くは勤勞上、經濟上は更にも言はず、慶ぶべからざる社會上の結果を齎すは言ふまでもない次第である。

第二は經濟的原因である。奢侈の増進は、所謂文明の進歩、所謂社會の富の發達に於いて、殆ど必然に伴ふ所であるが、奢侈にして生理上歓迎すべきものは勿論無く、多くは生理上の害毒を伴ふ、而して此害毒は、殊に人口減衰の原因となり、易き方面に多く存するのである。且近來經濟的欲望の多趣多端となれるは實に驚くべ



過儉

傾城買の  
練味噌汁

きて世の中が物質上經濟上の發達の著しく進むに隨ひ人々の欲望は其種類範圍に於いても又其強さに於いても益々盛になつて來る。所謂心を以て形の役と爲すと云ふ外面に於いて希求せらるべき欲望の爲に人々は憂き身を棄し胸に悶え思ひ煩ふといふ次第で斯の如き精神状態は亦實に人口減衰を惹き起すべき有力なる原因の一つとなるのである。之に加ふるに佛國は富の増進に於いて世界に於ける最も有數なる國民を有するだけそれだけ佛國人民殊に最も案外なるは、巴里人、巴里ッ子の節儉なるは實に一驚を喫すべき事共である即ち之を名づけて過儉と謂ふべきであらう。此過儉の慣習よりして彼等は外部に向つては洵に華美に華奢に暮らすが如く見せかけるに巧であるけれども其自宅生活に於いては殆ど衛生若くは健實なる身體保全の理法をも度外視するが如き状態に於いて生活することが珍しくないのである。奢侈と過儉とは如何にも矛盾する同一社會に此兩現象があるといふならば孰れか一つが虚偽の報告であるかの如く聞ゆるかも知れぬが是は虚偽でないのみならず殆ど必ず毎に相伴ふものである諺に言ふ傾城買の練味噌汁で奢侈の烈しい社會ほど過儉が行はるゝのである。而して佛國

心理的  
原因の  
刺戟

文明の  
重税

革命の  
繁忙

民族に於いては今や正に此社會的惡癖が頗る行はれつゝあるのて奢侈は奢侈其者で過儉は又更に過儉其者で孰れの途よりするも人口減衰の原因を供しつゝあるのである。

第三は心理的原因である。近時の所謂文明生活は實に外部よりする刺戟の大部分の増進に於いて際限を知らぬのである而して心理的刺戟の大なるは明白に人口減衰の原因となる。南洋濠洲亞米利加等の土人が歐羅巴人と接觸するに於いて最も著しく人口繁殖の度を減ずるに至つた其原因は強度なるアルコール飲料を許多味ふに至つた事と自分等より優尙なる民族に接觸し而して之より過大なる刺戟を受くるの屢なるに至つたこととに存する。半開人野蠻人に於いては此事は固より明白に現れて來るが併し彼等を支配する理法が文明人をば全く支配せぬといふ譯は斷じて無い。乃ち近世の所謂文明の進歩に依て所謂文明が個人に課する所の重税は所謂文明民族との觸接に依て半開未開の民が課せらるゝ所の犠牲と同様の性質のものであると云はねばならぬ。之に加ふるに佛國は更に其國情よりして政治的革命的送迎に忙はしきを以てする。既に文明に



四種の大原因

其一

刺戟せられ、又政治に過大の不安を感ぜしめらるゝ所から、佛國民の心理状態は、甚だ人口の偉大なる發展に好都合ならざるもの多しと謂はねばならぬ。  
以上三個の原因は、各、それ／＼に人口減衰の原因となつて居るが、併し更に其眞の原因、其遠き原因を討ねれば、之を社會的原因に歸せねばならぬ。此點は、更に分れて四つの重なる點に歸すると思はるゝ。

抑、巴里は實に外國人の遊び所である、巴里を見なければ結構と云ふな、ともいふべき諺が、歐洲到る處に行はれて居る。而して外國人の遊び所と云ふことは、即ち是れ惡習の實行所と云ふことを意味するのである。巴里に遊ぶ所の外國人は、其本國に在りて、必ずしも子子たる小人でなく、無恥の破廉恥漢では勿論ないのである、併しながら旅の恥は搔捨てと云ふことは、是は殆ど人情の普通なる弱點と謂ふべきで、而して幾分程度の低き遊びは、己が生れ故郷よりも、遊歴せる場所に於いて最も致し易いのである。我國に於いてすら目撃するが如く、誠に人々が敬虔なる眞情を神佛に捧ぐべき、神社佛閣の所在地は、却て必ず亦、賣淫、酒樓等の名所である。是れ實に思ひ半に過ぐべき所であるので、况や巴里は、宗旨の大本山の所在地

箱根日光の客に看よ

巴里の立場から看よ

考一考せよ

てもなければ、神社佛閣の世界的崇敬の中心でもない。而して人間の惡習、劣態を満足すべき設備が、有形無形、あらゆる方面に備はつて居る處であるから、この處に於いて歐洲各國の、相當手許裕かなる旅行家が、生涯に一度の生命の洗濯をするのは、必ずしも深く咎むべきでなく、勿論怪しむを要せざる所である。併しながら、巴里若くは佛蘭西、其者の立場から見たならば如何であらうか、實に是は考へものと云はねばならぬ。千九百年、即ち第十九世紀の終に於いて、賣春婦女の數が、倫敦八萬、巴里五萬、伯林三萬五千、而して東京は藝妓、娼妓、遊船宿、揚弓店、新聞縦覽所、茶屋、料理屋の女中、總べてを合せて一萬を出づる事極めて些かであつた、倫敦八萬は驚くべき數であるが、併し巴里五萬に比べては、之を人口に比例すると、倫敦は巴里の半數にも當らぬと云はねばならぬ。さて此の巴里五萬の娼婦よりして、直接に金の巴里に落ちる高だけでも、一ヶ年二億を算ふる。實に巴里は、外人の遊び所として、いか許りの金が落ちるか、それは莫大なるものに、相違ないが、併しながら、之を致すに向つて、巴里乃至佛國は如何なる犠牲を拂ひ如何なる價を拂ふかと云ふことは、巴里若くは佛國經世家の考一考せねばならぬ所である。有形上、婦人の品位を害



邦人亦警戒を要す

し、社會の品位を害するが如き直接の影響は勿論の事として、其無形上に被るべき佛國人口の減衰、佛國國運の進歩の阻遏は、實に著大なるものと謂はねばならぬ。これについては我國人も亦大に警戒せねばならぬ所がある。我國でも動もすれば、我國の山水明媚、名所舊跡の多く、外國人の趣味を満足せしむるに足る物の多いことを利用して、我國を以て世界の一大遊園と爲し、之を以て外債の利子を拂ひ、輸入の均衡を維持し、輸入超過を減ずべしと説く連中が随分無い。成程一ヶ年に一萬人外客が我國に遊べば、少くも數千萬圓の金は我國に落ちる。これ十億の外債の利子は優に拂へやう。併しながら斯の如き方法を以て借金償却を圖るのは、恰も國民とし、國家とし、社會とし、民族として、借金を返す爲めに身を苦界に沈め、憂き川竹の勤めを爲す所の所謂孝行娘と同一政策と云はねばならぬ。殷鑑遠からず、佛國に在り、我國にも斯かる淺薄なる經世家、怪しき經世論者が出て、ざらむことを、我輩は希望するのである。

其二

所謂孝行娘式經國策

二つには佛國には仕舞うた屋の消極經濟が多いのである。勿論佛國民は皆遊手浮食の民だと云ふのではない、佛國人、就中巴里人の勤勉は、實に我々の模範とす

其三

べきものが多いのである。併しながら佛國は、今や直接事業經營の發達より、更に資本の多きに苦んで居る、否、苦むのではない、此の資本を貸付くる所の市場を求むることが、佛國民には一層の急務となりつゝある。乃ち佛國には、金を溜め、其金を貸付けて、自らは直接に何等の事業を經營せず、其利息を以て食つて行くと云ふ、仕舞うた屋式の消極經濟が、頗る行はれつゝあるのである。佛國資本の外國に出て居るのが、千九百年の終りに於いて既に八十餘億、今日に於いては恐らくは百億を遙に超過して居るであらう。斯の如き状態に於いて、人間の思想、随つて其の活動が、沈滞不動の傾向を呈し、来るは自然の結果であらう。而して其直接の影響は、經濟的に至り、間接には人口減衰に至ることである。

三つには佛國に於ける相続法の甚だ人口發展に便利ならざる點に存する。蓋し一家に於いて、長子相続と定まつて居れば、富を致せる親が若干の遺産を遺して死ぬ場合に於いて、長子だけが其の財産の全部を相続し、従つて親が享けた經濟上の幸福は、長子が復た依然として之を享けることになるので、長子其者は、動もすれば安逸なる生活に流れぬとも限らぬが、其代り次男以下は、如何なる資産家の家に





長子相續  
と否と

世界列國の大勢

三

生れても、必ず自ら其運命を開拓すべく餘儀なくさるゝのである。而して此點に於ては、家の富めると富まざるとは何の關係無く、次男以下の子供の多いと少いと、は何等此家に屬する人々の運命に關係無き事であるから、長子相續の國に在りては、強ち此點から子の數を制限するの理由は無いのである。然るに長子相續の確然たらずして、多くの場合、親の遺産は子供總體に分配せらるゝの習慣ある社會に在りては、子供の多いのは直に分配額の少くなることを意味し、分配額の少くなるのは、直に子供各個の不幸を意味する。故に成るべく子供の數を制限しやうと云ふことが茲に起るのである。况や中産位の者が三人の子に遺産を分けるときは、三人の孰れもがそれで食へなくなると云ふ危険あるのみならず、財産の多い者も、亦之を舉げて三人の子に分けると、今まで三百萬法で生活して居たものが、親が死ぬと俄に百萬法で生活しなければならぬと云ふ次第で、金錢は富めば富む程、必要が増すと云ふ原則に隨へば、此苦痛は寧ろ貧乏者の知らざる苦痛である。乃ち佛國現行の斯かる相續法も、亦確に社會に人口減衰を促す所の一つの原因となるものと謂はねばならぬ。

そこて  
近設  
家産  
の法  
あり  
新案



佛蘭西國。巴里。

コンコルド橋の夜望。

水はセイヌ河。

右はエッフェル高塔。

左はトロカデロ殿。

其四  
外面的  
夫婦  
關係の  
天主教  
律法

各等  
離婚  
の矯飾

娘の不自  
由妻の自  
由

四つには、男女の結合及び其間の敬愛が外面的なる事、是れ亦確に人口減衰の社會的原因の一つである。抑々天主教の教義に在りては、夫婦不和合にして到底同棲に堪へざる場合に於いても、結婚は神の思召に依りて出来た者であるから、神ならば此結婚を破棄することが出来ぬと云ふ理窟からして、離婚は到底許されぬのである。唯、此場合に於いて、寢床及び食卓の義務から夫婦相互に免るゝと云ふことを、僧正に依りて宣告されるだけの事である。既に離婚に於いて斯の如き矯飾が行はるゝことであるから、若干の程度に於ける離婚、即ち離婚に至らざるまでも、夫婦關係が面白からぬと云ふ場合に於いて、亦之に準ずる矯飾が盛に行はるゝ次第である。即ち十分の離婚の場合に於て右の如き沙汰を受くるが故に、七分の離婚、六分の離婚、若くは五分の離婚、三分の離婚と謂ふべき夫婦關係、表面は甚だ立派に見える、内實極めて不立派なる事が盛に行はるゝことは、眞直な眼で新聞紙を讀んで居ると、毎に接する所の事實であるのである。殊に佛國等に在りては、娘は極めて不自由にせられてある、即ち今娘時代の妙齡の婦人が外出しやうとする時分には、母、伯叔母、祖母、父、祖父、若くは家庭教師たる婦人、若くは尼僧等に保護されるゝてな



ければ、良家の子女は斷じて外出が出来ぬ事となつて居る。序に一言すべきは、西洋の言葉にガザルネスと云ふがある。是は家庭教師のことであるが、併し言葉の意味は支配婦人管理婦人と云ふことである。如何にも娘と云ふものは、斯かる管理婦人の管理の下に在るもので、之を以ても西洋の婦人の外出が如何に厄介なるものであるか分る。閑話休題さて斯かる娘たちが、一たび婚姻して人の妻となると、茲に絶対の自由を享くるのである。今までは一寸植木屋へ花を買ひに行くにまで、必ず人に伴れられててなければ外出が出来なかつたのが、一たび人の妻となると、踊らうが、刎ねやうが、夜出掛けやうが、晝出掛けやうが、總べて其婦人の自由自在である。而して夫たる男子も、之に向つて一言を挟む権利が無い。斯かる慣習の下、斯かる状態に於いて、而して右の七分離婚、五分離婚、三分離婚、婚が隠密の間に、行はれるのであるから、其弊害の大なるや、實に我國人などの想像の外である。西洋の新聞に妻に叱られてふさぐ夫、山の神に毆られて泣く亭主等の新聞記事を見ることの罕ならぬのは、亦以て其夫婦關係の如何なるものなるかを察するに足るの一種の材料とせねばならぬ。凡そ外面的結合は、之をせざる方が遙に安全である、又雙

隠微の事  
情を照見す  
るを要す

一種の材  
料

男子に重  
く女子に  
軽く

男は癡せ  
ば女は偉  
大

伯林でも  
そつと  
始つた

女子の増  
長の

方の幸福である。而して婦女の自由の餘りに多く認めらるゝことは、此不條理なる結合、矯飾的敬愛に對して拂ふ所の犠牲が、男子に重くして女子に軽きの結果を呈するのである。之と關聯せる一大現象として、旅行家が一たび佛蘭西に遊び、殊に巴里に入ると、何人も男が割合に癡せ枯れ、氣息奄々として居り、而して女の體格がひとりいづれも偉大なるに注意せず、居られぬ。此事は第十九世紀に於ける伯林には、殆ど之を見る能はざりし事であつたが、近頃伯林でも、そろゝ女が肥り出し、つゝあるといふ事實を見るのである。凡そ體格の大小、年齢の長短、数の多少、此三者に於いて優勢なる者は、必ずや生存上過分の好都合を得、つゝあるものである。近頃出來た日本の死亡統計に據るも、十五六歳以前は女の方が死亡が少く、十五六歳より四十歳前後までは女の方の死亡が多く、四十歳以後は女の死亡が男子に比して遙に少い、之は即ち十五六歳以前は、女子の生活が男子の生活よりも樂であり、十五六歳以上は女子の方が遙に苦しくなる、而して四十歳以後は再び女子の方が遙に樂になる事の證據である。之を社會全體に就いて見れば、女の數が男に超過するの勢が益々進むのは、女子が段々増長して、男子が段々社會的に壓迫され、つ



男子を優遇せよ

悲觀の價値

つある事の明證と先づ大體は見て差支ないのである。是と同様に壽命の長短に於いて平均女子の壽命が長ければ、まだ女子は男子に對し否社會に對して努力の犠牲を拂ふべき餘地の存して居る證據である。殊に體格の發達に於いて女子の甚しく萎縮して居るのは、是れ女子に對し社會が更に優待厚遇を與ふべき理由の一つである。之に反して女子が著しく體格の發達を致し、男子が奄々たる氣息を以て之に隨行し、御供するが如き状態であるならば、斯かる社會は、罔然として自ら戒め、女子をして今少し社會に對して若干の犠牲を拂はしめ、女子に課するに更に今少し多くの義務を以てし、而して男子の犠牲、男子の義務を輕減するの策に出でなければならぬ。伯林の社會の如きも、近時年々男子の數に女子の數の超過する率が増しつゝある。斯の如きは尤も社會的に、猛省すべき事實である。是等の點に就いては、殊に佛國社會たるもの更に大に考ふる所なければならぬ。凡そ右の如く種々なる重なる社會的原因、共よりして佛國社會の人口減衰は、幾分確に説明せられ得るものと信ずる。禍の起るや起るの日に起るに非ず、必ず由て來る所あり、乃ち是等の原因にして中れりとせば、ブチジウルナル記者の言の

米國

獨逸

倫敦

東京

貧乏人の子澤山

如く、佛國の識者は、宜しく社會の爲に空しく泣くことを休め、速に狂瀾を回すの策を講ぜねばならぬ。之に對して同様に、恐くは更に一層の警戒を爲すべきは米國である。併し米國には亦右の諸の原因の外に、米國特有の原因がある。是は米國の話をするときに譲らう。獨逸は總體に於いて、尙未だ人口減衰に至ること遠してあるが、併し其大都會に於いては、既に若干此傾向が現れて居る。倫敦の如きも亦既に太だ然りである。東京の如きは精密なる統計上の事實を擧げて、此大問題に注意する人が無いからであるが、其上流社會若くは中流社會の或方面に在りては、既に斯かる傾向の現れて居ることが明白に我輩の觀察に入るのである。而して世の所謂識者顔する連中には、往々にして量よりも質なりなど唱へて、我田引水の亡國説を爲す者あるも、是等は充分熟考すべき批評的態度を執るべき事項と信ずる。遮莫東京は隨分市中に子供の遊んで居ることが多いので、貧乏人の子澤山と云ふが如く、貧乏なる日本、貧乏なる東京は、尙未だ子澤山の實狀を呈するだけは、頗る國家の爲に、賀せねばならぬ。



### 三 現代佛人の心理

其一、美術 其二、美 神經質 草體 印象派 革命的

民族の心理は、最も著しく其美術に現る。サロンの彫刻を見れば、佛國人の現代の心理が、著しく、神經質に傾いて居ることを察するに難からぬ。乃ち佛國現代の時代思想、現代の民族精神は、斯かる邊にも其反映を呈する。さて彫刻のスタイルは、希臘羅馬の古典的技術に多く見るが如き、眞摯なる楷體に非ずして、多く草體となりつゝある。是も、懷疑未熟の面影の漂ふものとせねばなるまい。佛國は其繪畫に於いて印象派の本場であり、マネエに見ても、ロオランヌに見ても、其美術としての成功は、固より言ふまでもなく、一代の巨匠たるを妨げぬが、併し其派、其スタイルの輕薄にして、沈着無きことは、之を文藝復興時代、若くは之を古典の作物に比べて著しき違ひと云はねばならぬ。但し、印象派の革命的なるは、如何にも、第十九世紀より、第二十世紀に亘りての、世界思想の革命を豫言する者と見るを得べきもので、此點に於いては、文明史上頗る妙味あるものとせねばならぬ。サロンの彫刻は、其

出品極めて多く、孰れも相當以上の成績を收めて居るが、其題目に於いては、恰も露西亞近代の繪畫の題目に於けるが如く、如何にも驚心駭魄人をして胸蕩き魂悸えしむる底の題目が多いのである。是等は實に見逃すべからざる一大現象とせねばならぬ。

其二、加特力主義 離畔 マッケエ 擧ぐ

佛國人の信奉する宗教が、羅馬加特力即ち天主教なることは言ふまでもない。併しながら、暗々裡に、此加特力教は、佛蘭西民族の心より日に々々離畔し去りつゝある。羅馬法王廷の加特力教徒の統計には、佛國人三千八百萬を讀み込んで居るが、其實佛國に於ける加特力信徒の數は、今や六百萬を超えぬのである。併しながら加特力主義は、一個の主義として、他働的に若干佛國人を支配することは、尙争ふべからざる事で、支配と被支配、從來の信仰と離れ去りつゝある所の信仰、此等の關係を注目の主點として、加特力主義は、佛人現代の心理を見るに、亦必ず擧げ言ふことを要する所のものである。

其三、自由主義 共和主義

佛國の政界には、少數のボナバルト黨あり、又少數のオルレアン黨がある。ボナバルト黨は、ボナバルト即ち那波崙の系圖の人を擁して、帝政を施くことを夢想し、

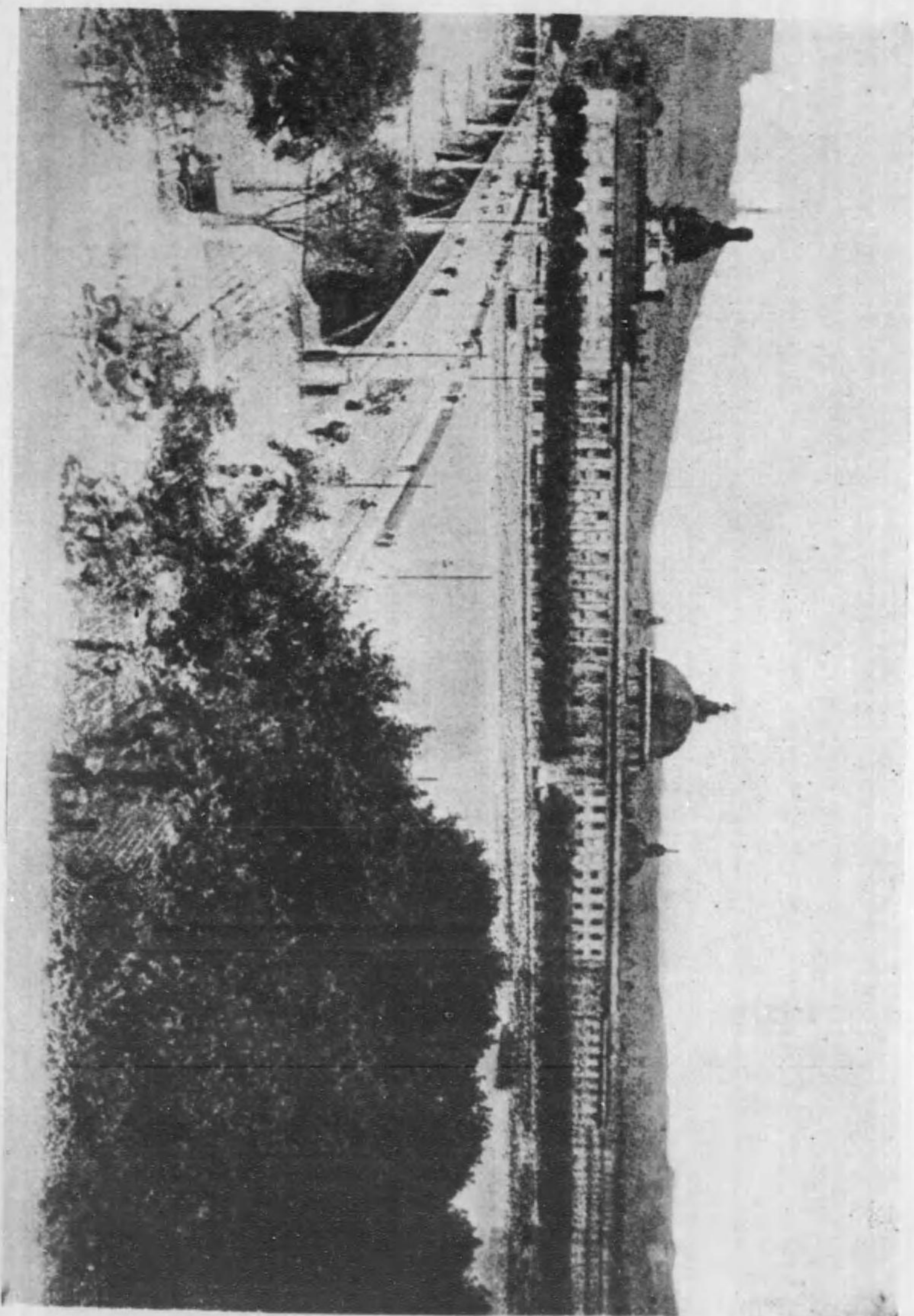


オルレアン黨は、更に別種の系統に於ける王政を復興することを夢想するの政治主義である。而も國民の大多數は、自由主義共和主義に固著して居り、而して佛國の革命の屢なるに拘らず、第三共和國の設立以來、今や既に四十年を經過して居ることであるから、相當に此若木も根付いたものと認めねばならぬ。併しながら加特力主義が、佛國內に於いて、プロ及びコントル、向背二面の關係に於いて、注目すべきと同様に、自由主義及び共和主義の佛國の政治に於けるも、亦プロ及びコントルの二面あるものと見ねばならぬ。孰れにしても、此思想は、佛國現代の國民心理に於いて、藐視すべからざる重大なる事項である。

さて、加特力主義と自由主義共和主義とは、如何にして重大なる統制を佛國民の心理、佛國の社會に及ぼすかと云ふに、是は此兩主義が、本來根本から矛盾兩立すべからざるものである點に存する。加特力主義の宗教思想は、專制崇拜、保守を特色とし、自由主義共和主義の政治思想は、自由平等、進歩を特色とする。斯の如く、正反對なる何等融通調和の途無き二流の思潮に支配せらるゝ佛國人が、違々焉として適從する所を知らざるは、亦宜なりと云はねばならぬ。佛國の社會は、實に加特力

其四、加特力主義  
特力主義  
と自由主義  
の如し

違々焉と  
して適從  
するなし





「こゝにも  
珍妙」

其五、兩  
主義の離

腐れ縁の  
前途如何  
其六、家  
庭を飛越  
せし生活

と自由共和との婚姻に依りて成れる一種珍妙なる家庭である。犬は犬と婚すべく、猿は猿と婚すべし、犬と猿との間に子は生るゝことは出来ぬ。佛國の人口減衰亦實に其原因の一つを此に有すと言ふ、其國の學者も既にあるのである。

さて近頃右の犬と猿との離婚沙汰が漸く持上つて居る、即ち政教分離問題は、其第一著手である。第十九世紀の末年より先づ以て宗教組合に關する取締法案が議會に提出せられ、大分ごたごたの後に、我輩の先年此地を去る頃漸く成立するの目鼻が明いたことであつたが、越えて三年、千九百四年七月四日の法律を以て、宗教會が營む所の教育機關は、十ヶ年を期して全然廢滅せねばならぬ事となつた。是は政教分離問題の一大段落と見ねばならぬのであるが、さて法律上では立派に縁を切つても、腐れ縁がどこで全く切れるかは、是から先の觀物である。

佛國人の社交生活は、或る意味に於いては頗る發達して居る。併し其社交生活は實に家庭を飛越えたる社交生活である、即ち佛人は家族を飛越して、社交的であると云はねばならぬ。佛人の美服し美食するは、社交界と並び行き、社交界に誇らむが爲であるので、家族と共に、家族の爲に美食し美服するのではない。夕顔棚の



下涼み、男は禪女は二布してと云ふやうな家庭的趣味は、恐らく佛人の夢にも考へぬ所であらう。

巴里の役所と伯林の役所

巴里の役所と伯林の役所とを比べると、随分面白き對照がある。今役所と云ふは、必ずしも公けの役所のみならず、私の役所即ち事務所をも含めていふが、總べて巴里の斯かる役所には、中食の休憩が、正午から二時までである。此間に是等の役所に事務を執る連中は、多くは料理屋に行いて家庭以上の美食を取る。ところで伯林の役所ではどうかと云ふと、ゲハイムラアト(勅任官)が役所の己れの室で、卓子の抽斗から林檎と麵包とを出して噛りながら事務を取り、珈琲一杯だけは役所の小使が之を持つて來るのを喫し、一向休まずに仕事を續ける事が極めて屢、我輩の目撃に入つたのである。埃、太利、維也納の役所では、午後二時まで何も食はずに仕事をし、さて二時となると、其日の事務を了へて皆なが退散するのである。倫敦の役所はといふと、是は一時又は一時半に、一寸輕き食物を取り、例へばブディングの類を喫し、更に仕事を續ける。そこで晚餐は家庭と共にし、それが一日の最も主なる食事となつて居る次第である。斯の如く佛、獨、埃、英の四ヶ國に就いて、一寸役所を覗き

維也納の役所、倫敦の役所

佛人の中食

役人の食事の體裁を見て、大分其國情や彼等が植民人として成功するや否やに就いて、思ひ半に過ぐるものがあらうと云ふものである。食事の話の序になほ佛蘭西の中食に就いて言ふと、中食は佛蘭西人が一番贅澤である。倫敦では會社員にせよ、銀行員にせよ、凡そ如何なる階級の人も、外で食事をすると、きは極めて、手輕の晝飯宿である。其所では多くの場合、一般生活の程度に比べては遙に低き馳走で、最も忙しい町々では、殆ど卓子の上に卓布をも掛けず、簡單なる食事を取ると云ふ状態である。然るに佛國では、手輕中食店と云ふべき所でも、中々相當に具はつて、勿論我國に於けるが如くに價は左程贅澤と云ふ程ではないが、何しろ中食に相當の贅澤を盡くすやうな仕組に出來て居る。

植民の不成功

是等の點から考へて見ても、佛國人が植民に於ける成功に關して、英人と到底比較にならぬことは明白である。佛人は、斯の如く、人生の精神身體の兩面の快樂を取るが爲には、家庭に於いてせずして、世間社會に於いてする。而して其最も備はれる社會は、言ふまでもなく巴里の社會である。故に佛人は、植民地に於いて勇往邁進、種々の計畫を爲し、多少の成功を遂げて、常に夢に巴里をのみ戀ひ慕うて居る。

夢は巴里に飛ぶ



英國と大  
陸との朝  
飯

巴里が斯の如く發達せるは、亦是れ中央集權の弊の一つであるが、發達せる巴里ならんは、人生の快樂を得能はざるが如き感じをするのは、實に佛蘭西人が家庭を飛越せる社交的生活を營めるが爲である。英人は之と異にして、大陸諸國の朝飯と英國の朝飯とは全く違つて居る。大陸諸國では朝飯は、普通珈琲若しくは茶に牛乳及び麵包、それに時として若干の卵を食ふに過ぎぬ。然るに英國は朝飯に於いて、今少し鄭重なる物を食ふ、英國の中等社會の朝飯は、オオトマイルにベエコン、野菜、卵、それに珈琲若しくは茶に牛乳を取る、即ち大陸の朝飯に較べて、二品ほど獻立が多くなつて居る。さて大陸では、晝飯に於いて相當の獻立をするのであるが、英國では、晝飯は極めて簡單にして居る、晝は家人と共にせざる飯であるから、全く飢を凌ぐたけのものとして居つて、而して食卓に於ける主力を晚餐に注ぎ、此晚餐に於いて家庭團樂の食事を共にするのである。斯の如き關係に於いても見らるゝ如く、英人が人生の快樂を取るのには、實に家庭本位である、社交生活は、職務上及び眞個の社交生活上止むを得ざる事に限らるゝので、社交生活に於いて、人生の快樂を味はむとするが如き念慮は、英人には、殆ど見られざる所である。固より倫敦も亦或

英人の家  
庭本位

英人の中  
食及晚餐

英人に  
社交生活  
に必要  
な舞臺  
は活は  
ない

英國の植  
民成功

獨逸人の  
長所は亦  
別

其七、有  
始而無終  
北美植民

る意味に於いては、英人の誇りであり、或る意味に於いて英人は深く倫敦を愛するに相違ないが、倫敦と云ふが如き社交生活の舞臺なしには、英人は活きて居れぬといふ事は、斷じて無いのである。是に於いて英人は、苟も家庭ある所そこに人生の眞趣味ある所そこに成功の根ざしある所そこに勇往邁進の精力の養成所ある所である。乃ち英人が萬里の波濤を越え絶海の異域に植民するも、苟も家を携ふる以上深く根を下して、牢乎として、抜くべからざる植民地を經營するに至るは、斯かる些末の如く見ゆる事から來る所の一大現象と云はねばならぬ。獨逸人は英人若しくは佛人と、其植民に於ける能力に於いて幾分の差がある。獨逸人の長所は飽くまで學術的、飽くまで合理的、而して之を行ふに極めて質樸なる生活を以てする、と云ふ特色を以て、後馳せながら著々若干の成功を收めつゝある。佛國が其植民政策に於いて著々不成功を現し、遂に列國に後れを取りつゝあるのは、家庭を飛越せる社交的生活が、深く累を爲して居ると云はねばならぬ。

佛國民の植民政策に就いて語れば、我々は亦佛國々民性の一つとして、始め、有つて而して終り無きことを想ひ起すを禁ずる能はざる次第である。嘗て第十六七